

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
榎本 光邦			

授業形態	講義（14コマ）、演習（1コマ）。講義中、随時10分程度の小演習（個別・グループ）も取り入れる。		担当者
授業計画	第1回	心理学の歴史と方法 本講義のテーマ、講義の展開予定、受講上の注意などについて説明をする。また、心理学の歴史と研究方法について学び、本講義の到達目標について展望する。 key words：哲学における心理学、実験心理学の始まり（ヴント）、ヴント批判（ゲシュタルト心理学、行動主義、精神分析）	榎本光邦
	第2回	脳と心理学 脳科学と心理学は密接な関係にある。本講義では、心の働きの基盤となる脳と神経の基礎的な仕組みと働きについて学習する。 key words：人間の脳の構造、脳の働き、高次脳機能障害	榎本光邦
	第3回	心の発達 年齢によって人間の一生を大まかに分け、それぞれの区分における特徴や変化に焦点を当てて、これらの方向性や順序性を明らかにしていく心理学の分野は「発達心理学」とよばれている。本講義では人間の発達の諸側面、子どもの認知発達について学ぶ。 key words：こどもの認知発達（ピアジェ）、こどもの社会性の発達、生涯発達心理学	榎本光邦
	第4回	神経発達症／神経発達障害（1） 平成19年度から全国で特別支援教育が開始され、ここ数年の間に発達障害に関する知識が急速に広まっている。本講義では発達障害の1つであるAD/HDの特徴について学び、支援の方法について理解を深める。 key words：発達障害、AD/HD、特別支援教育	榎本光邦
	第5回	神経発達症／神経発達障害（2） 前回に続き、発達障害の1つであるSLDと、発達障害とは区別される知的能力障害（知的発達症／知的発達障害）の特徴について学び、支援の方法について理解を深める。 key words：SLD、知的能力障害（知的発達症／知的発達障害）、特別支援教育	榎本光邦
	第6回	神経発達症／神経発達障害（3） 前回に続き、発達障害の1つである自閉スペクトラム症の歴史と特徴について学ぶ。また、太田ステージ理論に基づく自閉症支援について学ぶ。 key words：自閉スペクトラム症、太田ステージ理論、特別支援教育	榎本光邦
	第7回	感覚と知覚 人間が外界に適応した行動をとるためには、外界を理解する必要がある。本講義では、我々が外界の情報を受容し、それを利用する手段である感覚と知覚について学ぶ。 key words：感覚、知覚的な体制化、奥行き知覚と知覚の恒常性、錯覚、運動の知覚	榎本光邦
	第8回	学習 一般に学習というと、学校における教科学習を想像するが、心理学において学習とは「経験によって生ずる行動の変容」と定義される。本講義では、行動主義が提唱した学習原理と、社会的学習理論を概観する。 key words：古典的（レスポナント）条件づけ（パブロフ）、オペラント条件づけ（スキナー）、社会的学習理論（バンデューラ）	榎本光邦
	第9回	記憶と思考 感覚・知覚によって入力されてきた情報は、私たちが環境に適応するために使用される。そのためには、情報を効率的に貯蔵し、この使用の方法についての戦略が必要になる。心理学では前者の課程を「記憶」と呼び、後者の課程を「思考」とよぶ。本講義では、人間の記憶と思考の仕組みについて学習する。 key words：記憶のしくみ、記憶の二重貯蔵モデル、問題解決と意思決定、推論	榎本光邦
	第10回	動機づけと情動 人の行動は多様であるが、それぞれの行動には、その行動と結びついた特定の原因があると考えられる。例えば、Aさんが勉強を中断して夜食を食べたのは「空腹だったから」であろうし、また、恋人と別れてBさんが泣いたのは「悲しかったから」であろう。行動の原因と考えられるもののうち、前者のグループは「動機づけ」とよばれ、後者のグループは「情動」とよばれる。本講義では、人間の動機づけと情動について理解を深める。 key words：動機づけと欲求、マズローの欲求階層モデル、感情・情動、表出行動とコミュニケーション、動機づけと情動の病理	榎本光邦
	第11回	性格（1） 私たちはそれぞれ、他の人とは違うその人らしい考え方、感じ方、そして行動の仕方（行動様式）を持っている。このような考え方や行動の仕方は、状況の変化にも関わらず、時や場所を越えて、比較的一貫し、安定している。このことから、私たちに、このような個人の独自性と統一性をもたらすものが存在すると考えられ、それは「性格」とよばれる。本講義では性格の代表的な理論である「類型論」と「特性論」や性格の5因子モデルについて学ぶ。	榎本光邦

	<p>key words：類型論，特性論，性格の5因子モデル，性格検査の信頼性と妥当性</p> <p>第12回 性格（2） 私たちの性格を客観的に測定する「性格検査」を体験し，自分の性格について把握する。</p> <p>第13回 対人関係と集団 人は生きていく中で，様々な他者と出会い，交流しながら関係を築いていく．人間は本質的に一人では生きていくことのできない存在だからである．しかし，他者とともにあることは，人生を豊かにする半面，様々な苦悩の源泉ともなる．本講義では，私たちが他者をどのようにとらえ，関わっているか，他者からどのような影響を受けているかを学習する。</p> <p>key words：対人認知，対人感情，関係の維持</p> <p>第14回 心理療法（1） 「コラージュ療法」演習 心理療法とは，「心の問題」に対する心理学の知見を用いた援助である．本講義では，心理療法の中でも「芸術療法」と呼ばれるものの1つである「コラージュ療法」を体験する． key words：芸術療法，コラージュ療法</p> <p>第15回 心理療法（2） 「箱庭療法」 箱庭療法はローエンフェルトによって考案され，その後，カルフがユングの考えを導入して発展させ，河合隼雄によって我が国へ導入され，さらに世界中に広がった技法である．本講義では，箱庭療法の分析方法を紹介し，それを応用し，自らが作成したコラージュについて検討を行う。</p> <p>key words：コラージュ療法，箱庭療法，空間象徴</p>	榎本光邦 榎本光邦 榎本光邦 榎本光邦
科目の目的	<p>心理学を学ぶことにより，社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う．自己および他者への理解を深め，社会の中で適応的に生活するために必要な心理学の知識を身に付けることを目的とする。</p> <p>ディプロマポリシー：【知識・理解】</p>	
到達目標	<p>1．心理学理論による人間理解を深めるとともに自分について振り返る．</p> <p>2．心理学的援助の概要と方法について理解し，自らの専門分野に活かす．</p>	
関連科目	<p>【教養・共通基科目群】教育学，教育心理学，生命倫理，哲学，人間と宗教，社会学，生活文化と医療，大学の学び入門，大学の学び－専門への誘い－，多職種理解と連携</p> <p>【専門基礎科目群】生理学Ⅰ，生理学Ⅱ，人間発達学，公衆衛生学，臨床神経学Ⅰ（神経内科学），臨床神経学Ⅱ（小児神経学・脳神経外科学），精神医学，小児科学，リハビリテーション医学，老年医学，カウンセリング，リハビリテーション関連領域論，臨床心理学，安全管理，医療統計学，障害者スポーツ・レクリエーション論</p> <p>【専門科目群】小児理学療法学，理学療法特殊講義</p>	
成績評価方法・基準	<p>定期試験（80％）に毎回の講義後に作成する小レポートの評価（20％）を加味して評価する．小レポートの内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う．</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習の内容については前回の講義時に指示をする．各単元について，1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする．</p>	
教科書・参考書	<p>【教科書】 山祐嗣・山口素子・小林知博編著（2009）「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房</p>	
オフィス・アワー	<p>月・水・木・金の昼休み（1号館305研究室および1号館・4号館学生相談室）</p>	
国家試験出題基準	<p>なし</p>	
履修条件・履修上の注意	<p>講義中の私語，スマートフォン・携帯電話の使用，講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します．注意しても止めない場合や，それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ，その回の講義の出席を認めない場合もあります．</p>	

講義科目名称：教育学

授業コード：2P002

英文科目名称：Education

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
黒羽 正見			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 教育学オリエンテーション 本講義を貫くキーワード説明（暗黙知、薫習、自己認識、気付き、自己更新）・講義方法と評価</p> <p>第2回 日本の現代的な教育課題を考える 一枚の折り紙から鶴を折る過程に埋め込まれているものは何か</p> <p>第3回 学校の中で営まれる教育（授業）について考える 事例の中の子どもにかかわる教師の教育行為からみえるものは何か</p> <p>第4回 学校社会の中の教師を考える（1） 工藤先生と22人の子供たちのビデオ視聴と自己認識としての自分考えをもつ。</p> <p>第5回 学校社会の中の教師を考える（2） 北海道の工藤先生と子供たちの織りなす教育の原風景とは何か</p> <p>第6回 学校という組織を考える 教室空間に見立てた大きく膨らんだ袋の中に存在するものは何か</p> <p>第7回 西洋の教育思想から教育方法を考える。 直観と体験、静けさと沈黙、個性化と社会化</p> <p>第8回 日本の道徳教育を考える（1） 授業「道徳の時間」の基本的理解</p> <p>第9回 日本の道徳教育を考える（2） 次期学習指導要領の中の「道徳の教科化」はいじめ防止に効果的か（ビデオ視聴）</p> <p>第10回 日本の道徳教育を考える（3） 次期学習指導要領の中の「道徳の教科化」はいじめ防止に効果的か</p> <p>第11回 情報化・競争社会の中の子どもと学校を考える 華やかな情報化社会や競争社会に潜む落とし穴（暗影部）とは何か</p> <p>第12回 家庭・学校・地域社会の変化と教育を考える 家庭・学校・地域社会の3つから、今あなたが一番実感する変貌は何か</p> <p>第13回 望ましい集団活動を考える 谷川俊太郎「生きる」の群読から学んだことは何か</p> <p>第14回 社会教育と生涯学習を考える 学び続ける、地球市民として生きるためには</p> <p>第15回 まとめ 自分の専門領域から自分にとってのより良い教育を考える</p>	<p>黒羽 正見</p> <p>黒羽 正見</p> <p>黒羽 正見</p> <p>黒羽 正見</p> <p>黒羽 正見</p> <p>黒羽 正見</p> <p>黒羽 正見</p> <p>黒羽 正見</p> <p>黒羽 正見</p> <p>黒羽 正見</p> <p>黒羽 正見</p> <p>黒羽 正見</p> <p>黒羽 正見</p> <p>黒羽 正見</p> <p>黒羽 正見</p> <p>黒羽 正見</p> <p>黒羽 正見</p>
科目の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた人間性と豊かな教養を有している。 ・学習内容について、深い認識を有している。 ・実践的な指導力を有している。 ・現代の社会における教育の意義、学校の役割、教育に関する諸問題について確かな見識を有している。 <p>【知識・理解】</p>	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の教育体験を対象化して、客観的にとらえることができる。 ・教育の世界の経験や問題から受けた示唆をもとに、自分の専門領域に引き寄せて自身の考えを深めていくことができる。 ・教育の世界で蓄積されたきた「人間を学ぶ主体として成長させるための智慧」について、その意義や現代的課題を述べることができる。 	
関連科目	特になし	
成績評価方法・基準	①毎時間の課題に対する振り返りシートの内容、②課題レポート、③毎回の課題解決のためのグループ学び合い 総合点は、①が30%、②が30%、③が40%である。課題レポートシートは、精査・コメントを付し、毎時間毎に返却するところを通して、個人の学びを一層深めるような方法をとる。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について、予習・復習を4時間行うことを目安とする。	
教科書・参考書	教科書：「学際型現代学校教育概論」シナジェティックス研究会 著（金子書房） 参考書：なし	
オフィス・アワー	10時半から11時（場所：非常勤講師室）	

国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：教育心理学

授業コード：2P003

英文科目名称：Educational Psychology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
原 芳典	原 芳典		

授業形態	講義（演習＝エクササイズを含む）15回	担当者
授業計画	<p>第1回 教育心理学を学ぶ意義 ガイダンス 学校教育とは 子供の誕生と消滅 エクササイズ（思い出に残る先生）</p> <p>第2回 発達の視点を持つ 様々な発達理論 思春期とは？ エクササイズ（自分史グラフ）</p> <p>第3回 思春期の仲間関係の発達 ギャンググループ チャムグループ ピアグループ エクササイズ</p> <p>第4回 児童期 フロイトの自我理論 心理学のあゆみ エクササイズ</p> <p>第5回 乳幼児期① 生理的早産仮説 有能な赤ちゃん 愛着形成 エクササイズ</p> <p>第6回 乳幼児期② ビデオ学習「赤ちゃん」</p> <p>第7回 青年期の心理と課題 エリクソンの発達理論 エクササイズ（アイデンティティ・ステータス）</p> <p>第8回 ジェンダー・アイデンティティ 自己概念 ジェンダー・アイデンティティ 男女の会話スタイル 自己概念 エクササイズ（ブラインドウオーク）</p> <p>第9回 学校教育相談① ビデオ学習「多様な性の子どもたち」 学校教育相談の歩み チェーン・インタビュー</p> <p>第10回 学校教育相談② アクティブ・リスニング アサーション エクササイズ（聞く態度で信頼関係がつけられる）</p> <p>第11回 特別支援教育 特別支援教育に至る経緯 発達障害の概念の整理 エクササイズ（視覚優位か聴覚優位か） エクササイズ</p> <p>第12回 教育現場での実践的諸問題① ビデオ学習「発達障害」 いじめ問題</p> <p>第13回 教育現場の実践的諸問題② ビデオ学習「傷つき傷つけられた果てに」 摂食障害 自傷行為（リストカット） 自殺</p> <p>第14回 学校教育と自己肯定感 自己肯定感 エレファントシンドローム エクササイズ（OKマークをペタン）</p> <p>第15回 まとめ 自己実現 エクササイズ（様々な私）</p>	原 芳典 原 芳典 原 芳典 原 芳典 原 芳典 原 芳典 原 芳典 原 芳典 原 芳典 原 芳典 原 芳典 原 芳典 原 芳典 原 芳典 原 芳典
科目の目的	自分や周囲が体験してきた教育を振り返り、その心理的意味を考察することで、人間を理解し、人との関係の取り方や自分自身の有り様を見つめる。【知識・理解】	
到達目標	教育心理学の概要を自分および周囲の人々の体験から理解し、自分自身を考察し、他者との効果的な関係づくりを習得する	
関連科目	教育学 心理学 臨床心理学 カウンセリング	
成績評価方法・基準	定期試験50% および 授業内レポート（毎回提出を求める学習の理解や定着度を測る小レポートなど）による評価50% 小レポートは次回講義に評価をつけて返却し、必要があれば全体に補足コメントをする	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義終了時に、次回の予告をする。格別準備はいらないが自分の教育体験をよく想起しておく（45分程度）	
教科書・参考書	教科書はとくに使用しない	

	参考書： 保坂亨著「いま、思春期を問い直す」東京大学出版会 2010年 近藤邦夫他編「子どもの成長 教師の成長～学校臨床の展開」2000年
オフィス・アワー	昼休み及び授業前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	とくになし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
衣川 隆			

授業形態	講義・演習	担当者
授業計画	<p>第1回 はじめに ―健康の保持・増進という視点から運動・スポーツを科学する― ①ライフスタイルと生活習慣病について ②適正体重の維持 ③日常生活の歩数の増加 日常生活のなかで積極的に体を動かそう ④運動不足病としての生活習慣病 ⑤「運動基準」「運動指針」</p> <p>第2回 運動とスポーツの生理学① ―呼吸・循環器系機能と運動・スポーツ― ①運動の持続と呼吸・循環器系 ②循環器の働きと血液の循環経路 ③運動に伴う呼吸・循環器系機能の変化</p> <p>第3回 運動とスポーツの生理学② ―ATPと運動・スポーツ― ①運動時の酸素利用 ②トレーニングによる呼吸・循環器系の適応</p> <p>第4回 運動とスポーツの生理学③ ―神経・骨格筋系機能と運動・スポーツ― ①随意最大筋力を決めるもの ②身体運動にみられる筋と腱の相互作用 ③身体運動と神経機能</p> <p>第5回 運動とスポーツの生理学④ ―エネルギー代謝と運動・スポーツ― ①1日のエネルギー消費量と貯蔵エネルギー量 ②一過性運動時のエネルギー代謝 ③トレーニングによるエネルギー代謝の変化</p> <p>第6回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論① ―トレーニング概論― ①体力トレーニングの原理と原則</p> <p>第7回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論② ―瞬発系、持久力系、回旋系― ①エネルギー発現能力を高めるためのトレーニング</p> <p>第8回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論③ ―評価（アセスメント）― ①評価（アセスメント） ②コレクティブエクササイズ</p> <p>第9回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論④ ―アスリートトレーニング― ①一例（ケンブリッジ飛鳥）（目標まで3か月、週3回、1時間） ②ドローイン</p> <p>第10回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論⑤ ―筋肉とタンパク質― ①食事のアスリート度チェック ②栄養（タンパク質）チェック</p> <p>第11回 健康保持・増進のための運動・スポーツ理論⑥ ―筋肉とアミノ酸― ①アミノ酸とは ②BCAAについて ③グルタミンについて ④アルギニンについて ⑤クレアチンについて</p> <p>第12回 スポーツ心理① 他人のために自分ができること、目標設定とは？理想の自分とは？成功と失敗を振り返る、について考える。</p> <p>第13回 スポーツ心理② 起こり得る問題の対策、オープンウインド、について考える。</p> <p>第14回 スポーツ心理③ 気持ちをコントロールする、について考える。小テスト実施。</p> <p>第15回 スポーツ心理④ 1か月の目標設定、について考える。小テスト返却。レポート提出。</p>	<p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p> <p>衣川隆</p>
科目の目的	<p>【関心・意欲】 「健康と運動」、「老化と運動」に関しその維持と増進方法について、なぜ運動が重要なのかを学ぶ。特に有酸素運動と筋トレの効果は、心肺機能、呼吸器の向上、筋力の向上と筋肥大だけでなく、肥満防止や生活習慣病の予防・改善、姿勢の改善、高齢者生活の障害を低減すること等を説明する。本講義では有酸素運動や、筋力トレーニングを体験しながらその効果をも医療従事者として、地域社会に発信できるよう基礎を学ぶ。 またスポーツを行なうことや、その能力を高めることに心の問題は切り離せない。本講義では、スポーツ心理学の概要と自己の目標設定の考え方、情動の自己コントロールについて振り返り、起こり得る問題の対策を学習する。そして生涯にわたって専門分野を探索し、その発展に貢献できるよう考え方を学ぶ。</p>	
到達目標	<p>「健康と運動」、「老化と寿命」等に関しその維持と増進方法について考えるにあたって、日常生活とスポーツ、正しい筋力トレーニングやストレッチの方法を理解し、自発的に生涯に渡ってスポーツに取り組む心を身に着ける。またスポーツ心理学において、自己の目標設定と情動の自己コントロールを中心に学び、知</p>	

	識・行動を身に付ける。
関連科目	健康スポーツ実技
成績評価方法・基準	講義時間内にレポートを実施（50％）。小テスト（50％）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1日（24時間）の生活リズムにおいての、自分自身の健康や体力、栄養について管理をしておくこと。よって1日の最後の15分間で、自分自身の健康や体力、栄養について振り返るための自己分析をしてほしい。
教科書・参考書	参考書 「トレーニング：健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一監修 杏林書院 「これから学ぶスポーツ心理学」荒木雅信監修 大修館書店
オフィス・アワー	講義室または体育館で、講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：健康スポーツ実技

授業コード：2P005

英文科目名称：Practice in Sports Science

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
衣川 隆			

授業形態	実技	担当者
授業計画	第1回 オリエンテーション オリエンテーションと班編成&トレーニング	衣川隆
	第2回 球技・トレーニング 腓腹筋、前脛骨筋等の下肢を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール	衣川隆
	第3回 球技・トレーニング RFDの考え方を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び班対抗 バスケットボール	衣川隆
	第4回 球技・トレーニング 大臀筋、ハムストリングス等の下肢を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バスケットボール	衣川隆
	第5回 体力測定 体力測定（長座体前屈、握力、背筋力、立ち三段跳び、反復横跳び、プッシュアップ30秒、腹筋30秒、20m）、体力測定小テスト、レポート提出	衣川隆
	第6回 球技・トレーニング 体幹を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル	衣川隆
	第7回 球技・トレーニング 大胸筋、小胸筋、三角筋を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バスケットボール	衣川隆
	第8回 球技・トレーニング 菱形筋、前鋸筋等の肩甲骨周辺筋群を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール	衣川隆
	第9回 球技・トレーニング アイソトニック、アイソキネティック、アイソメトリックの考え方を中心とした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル	衣川隆
	第10回 心肺持久力 20mシャトルラン、持久力小テスト、レポート提出	衣川隆
	第11回 球技・トレーニング アナトミートレインの考え方を中心にした筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール	衣川隆
	第12回 球技・トレーニング PNFストレッチ、及び 班対抗 フットサル	衣川隆
	第13回 球技・トレーニング バランストレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バスケットボール	衣川隆
	第14回 球技・トレーニング メディシンボールを使った筋力トレーニングと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 バレーボール	衣川隆
	第15回 球技・トレーニング ドローインと静的動的ストレッチ、及び 班対抗 フットサル	衣川隆
科目の目的	<p>【関心・意欲】 運動やスポーツが得意な人もあまり得意でない人も、手軽にできるトレーニングやストレッチを行い、体力をつけることを狙いとする。一人で簡単にできる筋力トレーニングやストレッチを行って、少しずつ無理なく、自分のペースでスポーツを楽しめるようにする。 各種スポーツでの身体活動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、その保持増進、体力向上を図ることにより、心身共に健康的で幸福な大学生活が送れるよう自覚を促す。 各種室内での軽運動・スポーツ・トレーニング等に親しみ、積極的に参加し、将来健康で豊かなライフスタイルの形成を目指す。加えて、大学生活のスタート時が、より豊かで協同的な人間関係の構築と学生生活の充実の一助となるよう学生相互のコミュニケーションの機会を意図的に設ける。</p>	
到達目標	<p>①健康と体力の重要性を理解し、維持向上をさせる。 ②生涯にわたって健康と体力を維持向上するための知識・行動を身に付ける。 ③自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策を立て心身の健康状態を整える。</p>	
関連科目	健康スポーツ理論	
成績評価方法・基準	授業時間内に小レポートを実施（80％）。小テスト（20％）。	
準備学習の内容・準備学習に必要な	1日（24時間）の生活リズムにおける体調管理と生活状況管理をしておくこと。よって1日の最後の15分間で、生活リズムを振り返るための自己分析をしてほしい。	

学習時間の目安	
教科書・参考書	参考書 「トレーニング：健康・スポーツ科学講義 第2版」出村慎一監修 杏林書院 「運動学」伊東元 高橋正明編集 医学書院
オフィス・アワー	体育館で授業の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

講義科目名称：生命倫理

授業コード：2P006

英文科目名称：Bioethics

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
吉田 幸恵			

授業形態	講義（グループワーク・発表を含む）	担当者
授業計画	第1回 イントロダクション 授業全体の予定や授業の進め方などの説明、生命倫理の概要	吉田幸恵
	第2回 「生命倫理」の誕生 生命倫理の社会的・歴史的変遷	吉田幸恵
	第3回 被験者・研究対象者になるということ 医学研究におけるインフォームド・コンセント	吉田幸恵
	第4回 「病い」を生きる ハンセン病歴における倫理的問題	吉田幸恵
	第5回 優生思想と生命倫理 戦争や医学実験と倫理の問題について	吉田幸恵
	第6回 出生前診断と生殖技術(1) 中絶・生殖技術を巡る立場と問題、様々な生殖技術	吉田幸恵
	第7回 出生前診断と生殖技術(2) 里子問題などを通して、子どもの「生きる権利」について考える	吉田幸恵
	第8回 外部講師によるレクチャー 内容は講義進行具合を見ながら決定（外部講師の都合により、順番が前後する可能性があります）	中田はる佳
	第9回 安楽死／尊厳死(1) 安楽死／尊厳死とは？安楽死を巡る日本の状況について	吉田幸恵
	第10回 安楽死／尊厳死(2) 安楽死を巡る世界の状況について	吉田幸恵
	第11回 臓器移植をめぐる諸問題 臓器移植の歴史、臓器移植と法	吉田幸恵
	第12回 グループワーク テーマを受講生から募り、グループワーク	吉田幸恵
	第13回 プレゼンテーション グループワークでの結果を班ごとに発表。その後もしくは次週にコメント。	吉田幸恵
	第14回 医療の役割 医療の論理、医学の進歩と医学研究のこれから	吉田幸恵
	第15回 「いのち」とはなにか、「生きる」とはなにか 授業全体のまとめ、期末試験相談	吉田幸恵
科目の目的	生命倫理・医療倫理の概要・諸問題を、講義形式だけではなく、映像資料・映画を適宜参照したりグループワークなどを実施したりしながら解説し、自分で考える力を身につけることを目的としています。時事問題や学生の関心によって講義内容を変更する場合があります。【態度】	
到達目標	医療者は時に「医療者視点」が絶対的であるという思い込みに陥りがちになります。医療の主役はあくまで患者さんやその家族です。この授業を通して「医療は誰のものか」ということを改めて考えることができるようになること、そして倫理的な考え方を求められる場面において、医療者として適切な判断ができるようになることを目指します。	
関連科目	哲学、公衆衛生学、生活文化と医療、社会学、生物学、遺伝と病気	
成績評価方法・基準	授業後に実施するミニレポートの提出（20%）、グループワークでの発表内容（20%）、期末試験（60%）による総合評価。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業日前日までにActiveAcademyにレジュメをアップロードします。可能な範囲でレジュメに目を通してください。1コマあたりの学習時間の目安2時間。	
教科書・参考書	(教科書) 神里彩子・武藤香織編 2015 『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』 東京大学出版会 (参考書) 松原洋子・伊吹友秀編 2018 『生命倫理のレポート・論文を書く』 東京大学出版会	
オフィス・アワー	個別の相談は事前の連絡によって随時対応します（4号館8F研究室）。	
国家試験出題基準		

履修条件・履修上の注意	授業開始時および授業中の私語禁止、授業中のスマートフォンおよび携帯電話の使用も禁止します。注意しても改善がみられない場合は退室を命じる場合があります。
-------------	---

講義科目名称：哲学

授業コード：2P007

英文科目名称：Philosophy

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
金澤 秀嗣			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 予備考察： 哲〈学〉と哲〈学史〉 本講の目的と講義計画とに関する説明 哲学概論と哲学史 哲学史は「阿呆の画廊」か</p> <p>第2回 古代哲学 1 存在 「ある」とはどういうことか ミレトス学派/ ピュタゴラス学派/ 多元論</p> <p>第3回 古代哲学 2 生成 「ある」と「なる」 エレア学派/ ヘラクレイトス</p> <p>第4回 古代哲学 3 形而上学 〈イデア〉と〈エイドス〉 プラトン/ アリストテレス</p> <p>第5回 中世哲学 1 信仰と知は両立するか 中世教父哲学における神概念と人間像</p> <p>第6回 中世哲学 2 普遍が先か個物が先か スコラ哲学の論理</p> <p>第7回 近世・近代哲学 1 大陸合理論における〈精神〉と〈物質〉 デカルト</p> <p>第8回 近世・近代哲学 2 イギリス経験論による事物認識 ① ホブズ/ ロック</p> <p>第9回 近世・近代哲学 3 イギリス経験論による事物認識 ② バークリ/ ヒューム</p> <p>第10回 批判哲学とドイツ観念論 1 「私は何を知りうるか」 カント『純粋理性批判』の視座：〈現象〉と〈物自体〉</p> <p>第11回 批判哲学とドイツ観念論 2 「私は何をなすべきか」 カント『実践理性批判』の要請：〈定言命法〉</p> <p>第12回 批判哲学とドイツ観念論 3 絶対的自我と共同体 フヒテの超越論的哲学と国家論</p> <p>第13回 批判哲学とドイツ観念論 4 存在と認識の一致 人倫的自然としての民族 ヘーゲルによる主観的観念論・社会契約論・悟性国家論批判</p> <p>第14回 批判哲学とドイツ観念論 5 〈承認〉に基づく法の形成 ヘーゲルの相互承認論と法哲学</p> <p>第15回 講義の総括と展望 〈真理が顕現する過程〉としての哲学史</p>	<p>金澤 秀嗣</p> <p>金澤 秀嗣</p> <p>金澤 秀嗣</p> <p>金澤 秀嗣</p> <p>金澤 秀嗣</p> <p>金澤 秀嗣</p> <p>金澤 秀嗣</p> <p>金澤 秀嗣</p> <p>金澤 秀嗣</p> <p>金澤 秀嗣</p> <p>金澤 秀嗣</p> <p>金澤 秀嗣</p> <p>金澤 秀嗣</p> <p>金澤 秀嗣</p> <p>金澤 秀嗣</p> <p>金澤 秀嗣</p> <p>金澤 秀嗣</p> <p>金澤 秀嗣</p> <p>金澤 秀嗣</p> <p>金澤 秀嗣</p>
科目の目的	<p>哲学とは、人間と世界との関わりをめぐってなされた先人の知的営為を体系化した学である。本講ではその成り立ちにつき、歴史の展開に即してトータルに把握できるよう講義を進めたい。差し当たり古代から近代へ至る哲学史の系譜をたどり、哲学という学問の生成と構造を明らかにすることを旨とする。</p> <p>講義は「授業計画」に則るものとする。但し、履修者の理解に鑑み、必要に応じて進捗を調整する場合もあるのでその旨留意されたい。</p> <p>ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）における位置づけ：本科目は【態度】に該当する。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人類の知的遺産たる哲学を学び、学士学位取得者が具備すべき知識を修得して教養を培う。 2. 1の営為を通じて、自分なりの人間観・社会観・世界観を確立する。 3. 1・2と併せて、高度の専門的職業人に必須とされる、論理的な思考方法を涵養する。 	
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> ● 主として「生命倫理」・「人間と宗教」等の科目と関連を有する。 ● また特に近世・近代哲学が主題となる講義回にあつては、「法学（日本国憲法含む）」・「社会学」・「心理学」等の諸科目と関連するテーマも適宜取り上げられる。 	

成績評価方法・基準	<ul style="list-style-type: none"> ● 期末筆記試験（論述）の成績による（100 %）。 ● 詳細については初回講義時に教場にて説明する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ● 次回講義のために Active Academy にて供せられている講義資料（レジュメ）をダウンロード・プリントアウトし（配布期間は原則として当該講義日までとする）、精読したうえで自分なりに要点・疑問点を摘示しておくこと。 ● 準備学習に必要な学習時間については、概ね1時間程度を目安とする。
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ● 教科書は用いない。講義は講義資料（レジュメ）に基づいて行われる。 ● もっとも、哲学史を概観した書籍が手元にあると講義の理解も捗るものと思料される。 ● 参考書の一例として、岩崎武雄著『西洋哲学史（再訂版）』（有斐閣）などが挙げられよう。 ● その他については、必要に応じて教場にて紹介したい。
オフィス・アワー	<ul style="list-style-type: none"> ● 講義の前後（場所：教場若しくは非常勤講師控室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ● 事前に Active Academy を経由して講義資料（レジュメ）をダウンロード・プリントアウトし、毎講義時に持参されたい。

国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

	第15回 内村鑑三の宗教、及びまとめ 前半は、内村鑑三の宗教について講師の事例研究も交え講述する。後半は、聖典などに見られる印象的な言説や、文学作品における記述の紹介と、全講義のまとめを行う。	竹村 一男
科目の目的	宗教は私達の身近に存在する。多くの家庭には仏壇や神棚が置かれ、年中行事や冠婚葬祭も宗教により執り行われる。旅行などで各地に足を運ぶと、おおよそ神社仏閣、宗教施設が存在しない地域はない。その一方で、宗教戦争の様相を呈した民族紛争がニュースに登場することも多い。本講義においては、このように多くの諸相において人間に関わりをもつ「宗教」とは何かについて考え、さらに様々な宗教を取上げ、その教義、歴史、さらに文化社会的側面について講述する。宗教理解は私達人間の理解、さらに文化・社会理解にも繋がる。 なお、本講義は特定の宗教の視点によるものではなく、中立的な観点から広範に宗教を扱う。受講生各自の宗教観は人それぞれであろうが、医療現場における患者（被治療者）の宗教観も様々であるため、医療者には中立的かつ広範な視点での宗教理解が必要となってくる。医療に携わろうとする者はそのことを理解したうえで、私達人間に与えられた生命をまもること、与えられた生命をよりよく生きることが大切かと考える。【態度】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ● それぞれの宗教を比較し、その歴史や教義、死生観などを分析、説明することが出来る。 ● 宗教にかかわる文化や時事問題などを理解し、適切に説明することが出来る。 ● 将来の医療現場において、患者や関係者の宗教観を理解し、適切かつ発展的な行動がとれる。 	
関連科目	哲学 心理学 社会学 芸術	
成績評価方法・基準	定期試験（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1時間程度（計15回15時間）、講義内容の再確認と復習を行う。より深く学びたい受講生には、興味のある教典・聖典や、宗教に関連した文学作品などの読書に並行して、比較宗教学による文献の読解をお勧めする。最初は簡単な概説書でもよいが、以下に推薦文献をあげる。文献例：『イスラーム文化』井筒俊彦（岩波文庫）、『ヒンドゥー教』森本達雄（中公新書）、『儒教とは何か』加地伸行（中公新書）、『神道とは何か』伊藤 聡（中公新書）、『日本の民俗宗教』宮家 準（講談社学術文庫）、『世界の宗教』岸本英夫編（大明堂 絶版）、『森林の思考・砂漠の思考』鈴木秀夫（NHKブックス）、『現代医学と宗教』日野原重明（岩波書店）など。また、信仰者以外の人にとっては「聖書」や「コーラン」は難渋な書物であろうが、聴講によって基礎知識を得た後に読むと、理解が変わってくる。	
教科書・参考書	教科書 使用しない。必要に応じてその都度、プリントを配付する。 参考書1 『ブッダの言葉』中村 元訳（岩波文庫） 参考書2 『共同訳聖書』（日本聖書協会） 参考書3 『コーラン』井筒俊彦訳（岩波文庫）	
オフィス・アワー	講義終了後の教室。または講師出校時の非常勤講師室。	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	各回のプリントを事前にActive Campusにアップロードしておきます。受講者はプリントアウトして授業に出席してください。	

科目の目的	<p>この授業では、オペラ、歌舞伎から現代演劇までを含む舞台芸術を例にとって、芸術について学びます。まず、他の芸術と異なる舞台芸術ならではの特色について、西洋舞台芸術の歴史を通して考えます。次に、西洋とは異なる独自の発展をとげた日本の舞台芸術を概観します。また、難解だと思われがちな古典芸能の鑑賞のポイントも紹介します。最後に、漫画、アニメ、ゲーム、ミュージカルなどの現代の表象文化を、芸術の視点から考察します。これまでに舞台芸術が扱ってきたテーマを通して、人と社会に深い関心を持って、社会人としての教養を身につけます。【態度】</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・舞台芸術を例に、芸術学の基本を学ぶ。 ・日本の芸能の特色を学ぶ。また、伝統芸能は、江戸時代以前の文化でありながら、近代以降も同時代の文化の影響も受けていることを理解する。 ・現代のメディアに、伝統的なコンテンツがどのように取り入れられているかを学ぶ。 ・舞台芸術が扱っているテーマを通して、人と社会に深い関心を持つ力を身につける。
関連科目	社会学
成績評価方法・基準	授業中の小レポート（2回）各30%、期末教場レポート30%、授業中アンケートなど10%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	新聞、雑誌、テレビなどで紹介される舞台芸術や芸能に関する情報に関心を持つことがのぞましい。授業中のアンケートや授業後のレポートを提出に備えて1時間程度の学習をすることが望ましい。
教科書・参考書	webポータルシステムにて講義資料をデータで配布(授業日前にデータを掲載、授業終了後1週間はダウンロード可)
オフィス・アワー	木曜日 14:00～14:40
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	各テーマと、自分が現在関心をもっていることと関連づけながら学ぶことを求めます。

講義科目名称：法学（日本国憲法含む）

授業コード：2P011

英文科目名称：Law(the Constitution of Japan)

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
道下 洋夫	道下 洋夫		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 法とは何か 法とは何かについて様々な角度から考える	道下 洋夫
	第2回 法と社会・法の種類 法と社会との関わりあい方について理解する	道下 洋夫
	第3回 法の特徴・法の目的 法にはどのようなものがあるか、どのような性質を持つかについて理解する	道下 洋夫
	第4回 日本の司法制度 法的責任、訴訟事件にはどのようなものがあるかについて理解する	道下 洋夫
	第5回 憲法1 憲法の基本理念について理解する	道下 洋夫
	第6回 憲法2 基本的人権（平等権、受益権、平和的生存権）について理解する	道下 洋夫
	第7回 憲法3 基本的人権（自由権、社会権、包括的基本権）について理解する	道下 洋夫
	第8回 憲法4 統治機構（三権分立、地方自治）について理解する	道下 洋夫
	第9回 民法1 債権とは何か、契約とは何か、どんな契約があるかについて理解する	道下 洋夫
	第10回 民法2 不法行為など契約外の債権について、債権の一般的な規則について理解する	道下 洋夫
	第11回 民法3 物権とは何か、担保とは何かについて理解する	道下 洋夫
	第12回 民法4 行為能力、時効など民法の一般的な規則について理解する	道下 洋夫
	第13回 刑法1 刑法の基本原則について理解する	道下 洋夫
	第14回 刑法2 個々の犯罪、および特別法について理解する	道下 洋夫
	第15回 刑法3 構成要件、違法性、責任とは何かについて理解する	道下 洋夫
科目の目的	日本は、法治国家である。法治国家においては、法令が社会の仕組みを規定しており、その実施こそが社会を動かしているという過言ではない。したがって、諸君がこれから社会人として羽ばたいていくということは、いかに細かい法令であろうと「知りませんでした」では済まない世界に飛び込んでいくということでもある。法学を学ぶ意義はここにこそある。【知識・理解】	
到達目標	・憲法を中心とした日本の法システムの概要について理解する ・医療と法令の関わりについて理解する	
関連科目	社会福祉・地域サービス論	
成績評価方法・基準	定期試験(70%)、授業内レポート(30%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前回講義で扱った内容について目を通しておくこと(30分程度)	
教科書・参考書	教科書：特にないが適宜に資料・統計などのプリントを配布する その他、一部法令について事前に印刷して用意すべき場合がある	
オフィス・アワー	質問等があれば、講義中あるいは講義後に受け付ける	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	講義資料は当日配布するか、前日までにActive Academyにアップする	

講義科目名称：社会学

授業コード：2P012

英文科目名称：Sociology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
坂本 祐子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 家族をとらえる（1） 近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 家族とはなにか あなたが考える家族とは①（小レポート）</p> <p>第2回 家族をとらえる（2） 家族の変動 家族と世帯 世帯の動向 家族周期（小レポートのフィードバック含む）</p> <p>第3回 家族の機能（1） 近代家族が担ってきた基本機能=生活保障</p> <p>第4回 家族の機能（2） 生産機能 消費機能 社会的・個人的機能</p> <p>第5回 家族のつながり（1） 家族のつながりの変化と現状 家族行動の個別化</p> <p>第6回 家族のつながり（2） 家族のつながりの変化による影響 子育て負担の偏り</p> <p>第7回 家族をめぐる制度 “夫婦別姓”とはどういう問題か あなたが考える家族とは②（小レポート）</p> <p>第8回 家庭経済（1） 家庭経済内部の4つの活動とその循環（小レポートのフィードバック含む）</p> <p>第9回 家庭経済（2） 生活とお金 ワーキングプア</p> <p>第10回 性別役割分業（1） 性別役割分業の始まり</p> <p>第11回 性別役割分業（2） 社会保障とジェンダー</p> <p>第12回 ワーク・ライフ・バランス（1） ワーク・ライフ・バランス 働く人の生活への配慮</p> <p>第13回 ワーク・ライフ・バランス（2） 家庭責任をもつ人の仕事への支援</p> <p>第14回 ワーク・ライフ・バランス（3） 医療従事者としての成長と私生活の運営・充実 求められる家族への支援とは何か</p> <p>第15回 ふりかえり 家族とは 「家族」の存在や意味・社会のあり方</p>	坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子 坂本 祐子
科目の目的	<p>学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識の形成を目的とする。【関心・意欲】</p>	
到達目標	<p>1. 近代家族の特徴、家族機能など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する</p> <p>2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活、家庭生活と職業生活のバランス等についてより具体的に考えられるようになる</p> <p>3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる</p>	
関連科目	<p>法学（日本国憲法含む） 経済学 生活文化と医療 社会福祉・地域サービス論 地域ボランティア活動論</p>	
成績評価方法・基準	<p>講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験70%・小レポート30%</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>Active Academyにより資料を配布するので、資料内の不明な用語等を調べてくること。また、前回講義の重要事項を見直しておくこと。日頃から新聞に目を通すことを習慣にし、1週間で4時間半以上を自己学習に必要な時間の目安とする。</p>	
教科書・参考書	<p>使用しない</p>	
オフィス・アワー	<p>授業の前後（場所：非常勤講師室）</p>	

国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を配布するので（前回講義翌日から当該日まで）、各自必ず印刷して授業に持参すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
鈴木 英恵			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業の進め方の説明をします。オリエンテーションでは、病院への通院回数と健康維持について考えてみます。群馬県川場村の高齢者はとても元気です。その秘訣を日々の暮らしの中から探ってみましょう。</p> <p>第2回 医療民俗学とは！？ 生活文化を軸にした、医療とあり方について考えます。人はどのようにして病いを克服したのか、その方法について考えていきます。</p> <p>第3回 人びとの暮らしと医療民俗学 日々の暮らしの中からみた医療習俗と治癒、予防の方法についてみていきます。</p> <p>第4回 民間信仰と石仏 路傍に佇む地藏、道祖神などの石仏は、人びとの信仰対象として造立されてきました。ここでは道祖神を取り上げ、その信仰内容をみていきます。あわせて、現代社会において文化資源として機能する側面について考えてみます。</p> <p>第5回 名づけとキラキラネーム 誕生した子どもの名前は、どのようにして決まるのでしょうか。伝承的な名づけとキラキラネームの命名方法についても考えてみます。</p> <p>第6回 いのちと生死の表現 『徒然草』、熊野観心十界曼荼羅図などの文学作品や絵画を取り上げ、描かれた生死と病いの内容と表現を観ていきます。</p> <p>第7回 いのち観と人生儀礼 「いのち」とは何かをじっくり考える機会を持ちます。テキストの内容をもとに、人の一生と人生の節目となる各種儀礼について理解します。</p> <p>第8回 霊魂が宿るもの 普段私たちが何気なく使う物には、霊魂が宿るといわれています。テキストの内容を中心に、ここでは人形を取り上げて霊魂について考えてみます。</p> <p>第9回 映像鑑賞 盲目の旅芸人瞽女 越後や北陸地方の村々をめぐった瞽女さん。三味線を弾き唄を歌って自立した生活を送りました。瞽女の生活様式についてみていきましょう。</p> <p>第10回 生きがい、健康そして長寿へ 地域社会に伝承する獅子舞の担い手は、主に老年層です。地域の老年は伝統芸能を守るために、日々練習を重ねています。世代を超えて継承される獅子舞は結果的に健康維持にも結び付き、生きがいへとつながります。</p> <p>第11回 長寿祝いと民俗 全国各地の長寿祝いの方法をテキストから学び、高齢化社会を象徴する儀礼の特徴をみていきます。あわせて老いと福祉に関する回想法についても理解します。</p> <p>第12回 課題提出の説明 死生観について 本授業では「死生観」についてレポートを提出してもらいます。今後、医療従事者として患者やその家族と接する機会があると考えます。レポートでは自らの「死生観」を考え、生を探究することで、どのような最期を迎えたいのかを書いてもらいます。「死生観」に対する自分の考えを知ることが、患者の気持ちを理解して接することが出来ると考えます。このことは同時に、その家族の心理・精神的な面を考慮し接することが出来るといえます。授業のなかでレポート課題の書き方と説明をします。</p> <p>第13回 病いと民俗 暦と病いの関係と治癒祈願の方法を理解します。</p> <p>第14回 看取りと死 人は誰でも最後に死に至ります。そのとき、人はどのような思いを持つのかを考えてみましょう。家族や知人の臨終に際し、残された人はどのような行動をするのか、テキストを中心にその心情を考えます。</p> <p>第15回 まとめ（先祖供養と葬送） 現代社会における先祖供養は、さまざまな形態と方法があります。ここでは、地域社会に伝承する故人を偲ぶ習俗と先祖供養の方法について理解します。</p>	鈴木 英恵 鈴木 英恵 鈴木 英恵 鈴木 英恵 鈴木 英恵 鈴木 英恵 鈴木 英恵 鈴木 英恵 鈴木 英恵 鈴木 英恵 鈴木 英恵 鈴木 英恵 鈴木 英恵 鈴木 英恵 鈴木 英恵 鈴木 英恵 鈴木 英恵 鈴木 英恵
科目の目的	本授業では、私たちの身近な暮らしから医療にかかわる事柄を取り上げ、ひとつずつ丁寧に紹介していきます。人は病いにかかると現代医療を受ける一方で、健康を願ってまじないや御守り、護符などを心の拠り所としています。普段見過ごしてしまう日常生活に目を向けることで、日々の生活と医療の繋がりを言及します。伝統的な医療的習俗や生命観を理解し、患者や家族の心理・精神的な面を考慮できる保健医療従事者になることを目的とします。【関心・意欲】	
到達目標	現代社会にみられる伝統的な習俗や儀礼を学ぶなかで、医療と関わりの深い伝統文化の特徴と教養を身につけます。何気なく見過ごしてしまう日常生活に関心を持つことは、医療従事者として活躍するにあたり、いろいろな視点から物事を捉えて自分なりの考えを持つことができると考えます。豊かなコミュニケーション能力を保持することを目標とします。	

関連科目	生命倫理、社会学
成績評価方法・基準	試験（80％）、課題提出（20％） 試験の点数に関わらず、課題提出は必須です。課題未提出者の単位取得は認めません。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	毎日の生活のなかで、医療に関連すること（健康維持と回復、病いの予防と治療など）に興味を持ってください。人は生きている限り、日々病いと向き合って生きていきます。自分が病いにかかったとき、どのような行動をするのかを考えてみましょう。また身近な人たち（父母、祖父母、知人など）はどのようにして病いを予防し、克服してきたのかについても意識してみましょう。自分の周りを注意深く観察し、問題点を発見しその意味を考えることで「何故」という疑問を解決することが出来ます。授業前に、90分ほど時間をかけてテキストをじっくり読み、授業内容と合わせて自分なりの考えをまとめてみてください。
教科書・参考書	教科書：板橋春夫 2010『叢書・いのちの民俗学3 生死 看取りと臨終の民俗 ゆらぐ伝統的生命観』社会評論社 参考書1：福田アジオ他編 2011『図解案内 日本の民俗』吉川弘文館 参考書2：今村充夫 1983『日本の民間医療』弘文堂
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：経済学

授業コード：2P014

英文科目名称：Economics

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
飯島 正義			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 経済学で何を学ぶのか 経済学を学ぶことの意義、授業内容と進め方、成績評価等について説明します。</p> <p>第2回 経済学の歩み アダム・スミスからケインズまでの流れを取り上げます。</p> <p>第3回 国民経済の仕組み 経済の3主体（家計・企業・政府）とその関係について説明します。</p> <p>第4回 市場メカニズム 市場メカニズムとは何か、市場メカニズムのメリット・デメリットについて説明します。</p> <p>第5回 景気循環 景気循環とは何か、日本の「景気指標」を読んでいきます。</p> <p>第6回 物価 物価とは何か、物価指数、インフレ・デフレと私たちの生活について説明します。</p> <p>第7回 政府の役割 市場の失敗の是正、経済の安定化について説明します。</p> <p>第8回 金融政策と経済の安定化 金利政策、公開市場操作政策、預金準備率操作政策、金融の量的緩和策について説明します。</p> <p>第9回 財政政策と経済の安定化 税制、財政支出、日本の財政状況について説明します。</p> <p>第10回 国内総生産（GDP）（1） 国内総生産とは何か、三面等価の原則について説明します。</p> <p>第11回 国内総生産（GDP）（2） 三面等価の原則の視点から「国民経済計算」（内閣府）のデータを読んでいきます。</p> <p>第12回 経済成長 経済成長とは何か、成長の要因、日本の経済成長の推移を確認します。</p> <p>第13回 貿易・国際収支（1） 貿易に関する理論、国際収支とは何か、日本の貿易・国際収支の現状を「国際収支表」で確認します。</p> <p>第14回 為替レート 為替レートとは何か、為替レートの変動と日本経済への影響について説明します。</p> <p>第15回 少子高齢化と日本経済 少子高齢化とは何か、少子高齢化が今後の日本経済にどのような影響を及ぼすのかについて説明します。</p>	飯島 正義 飯島 正義 飯島 正義 飯島 正義 飯島 正義 飯島 正義 飯島 正義 飯島 正義 飯島 正義 飯島 正義 飯島 正義 飯島 正義 飯島 正義 飯島 正義 飯島 正義
科目の目的	経済学は、私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにすることを目的とした学問です。したがって、経済学を学ぶということは、私たちの経済生活そのものを知ることにつながります。【知識・理解】	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 経済学の基礎知識を身につけることができます。 2. 経済学の基礎知識を使って、現実の経済ニュース等を理解できるようになります。 	
関連科目	特にありません。	
成績評価方法・基準	授業内における小テスト40%（1回、プリント参照可）、定期試験60%で総合的に評価します。なお、小テストのプリントは授業時に回収し、次週返却します。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	プリント資料で前回の授業内容を復習すると共に、次回の授業内容をシラバス、Web上の資料で大筋をつかんでおいて下さい。その際、授業で紹介する参考文献等を利用して2時間復習・予習にあてて下さい。	
教科書・参考書	教科書は使用しません。授業ではプリント資料を使います。また、参考書については必要に応じて紹介します。	
オフィス・アワー	授業の前後の時間に講師室で対応します。	
国家試験出題基準	該当しません。	
履修条件・履修上の注意	授業資料をWeb上に添付しますので、各自印刷して持参して下さい。なお、資料の添付期間は前回授業翌日から2週間とします。	

講義科目名称：地域ボランティア活動論

授業コード：2P015

英文科目名称：Volunteer Activities in a Community

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
竹澤 泰子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ボランティア活動の歴史と変化 ボランティア活動が時代により変化していることについて述べる。	竹澤
	第2回 経験談の発表 学生各自が経験したボランティア活動について発表を行う。その経験を分析して学んだ点や問題点を考察する。	竹澤
	第3回 エゴグラムの記入 記入したエゴグラムから自己分析を行い、ボランティア活動時や将来の就労時に必要な、自己の性格を客観的に把握する。	竹澤
	第4回 経験談1 母親勉強会等の託児ボランティア、子供食堂、高齢者の生活支援、アルパ演奏会等長年活動しているゲストスピーカーを招聘する。	竹澤
	第5回 経験談2 3.11東日本大震災後、数十回の炊き出し、生活用品支援、わかめ販売促進活動支援等に従事し、カンボジアに小学校を十数校建設した実績をもつゲストスピーカーを招聘する。	竹澤
	第6回 ボランティア活動の分析 ゲストスピーカー2名の経験談を分析し、ボランティア活動を行う上での注意点や問題点を考察する。	竹澤
	第7回 専門職のボランティア活動 国内における専門職ボランティアの活動量の少なさに着目し、原因探求と将来への対応の仕方について討論する。	竹澤
	第8回 ボランティア活動の紹介・日米の活動比較 講師が行うディベアギフティング（悲しい経験をした方々へベアの温もりと優しさを与える活動）について紹介する。また、日米でのボランティア活動の違いについて考察する。	竹澤
科目の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動の多様性を理解する。 ・心の温もりがボランティアの基礎である事を認識する。 【関心・意欲】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会、地域社会のニーズと連携に目を向け貢献しつつ、学生自らの将来像、医療人としての職業観の確立の基礎作りができる。 ・ボランティア活動の学習から、自分の性格を再考し、他人への思いやりの気持ちを生むことができる。 	
関連科目	なし	
成績評価方法・基準	レポート（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容を分析し把握できるように、自分の価値基準を確立しておくこと。なお、自分の意見提示ができることが望ましい。準備学習に必要な時間の目安：1コマあたり4時間	
教科書・参考書	使用しない	
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：環境学

授業コード：2P016

英文科目名称：Environmental Studies

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
西菌 大実			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 環境とは 環境問題の範囲と背景	西菌 大実
	第2回 地球の環境の構造 地球の自然の成り立ち	西菌 大実
	第3回 生活を支える資源と持続可能社会 再生可能資源と再生不能資源、持続可能性とは	西菌 大実
	第4回 環境問題の変遷 公害問題から地球環境問題へ	西菌 大実
	第5回 典型七公害 大気・水・土壌の汚染、足尾鉍毒、四大公害病	西菌 大実
	第6回 有害物質による環境汚染 イタイイタイ病を事例として	西菌 大実
	第7回 水質汚濁（Ⅰ） 水質汚濁の原因、生活排水、BOD	西菌 大実
	第8回 水質汚濁（Ⅱ） 水質汚濁の対策、下水道と浄化槽、多自然川づくり	西菌 大実
	第9回 気候変動（Ⅰ） 気候変動の具体的な影響、豪雨・熱中症・感染症等の増加	西菌 大実
	第10回 気候変動（Ⅱ） 温室効果ガス、気候変動の状況と将来予測	西菌 大実
	第11回 気候変動（Ⅲ） 予防原則、先進国・途上国の責任、パリ協定	西菌 大実
	第12回 エネルギー問題と低炭素社会への流れ 1次エネルギー、再生可能エネルギー	西菌 大実
	第13回 廃棄物問題と循環型社会への流れ 一般廃棄物・産業廃棄物・感染性廃棄物と3R	西菌 大実
	第14回 低炭素社会と循環型社会の融合 再生可能エネルギー・再生可能資源を中心とした社会づくり	西菌 大実
	第15回 持続可能社会の構築をめざして 低炭素社会と循環型社会を具体化した未来社会の在り方を考える	西菌 大実
科目の目的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。【知識・理解】	
到達目標	1. 環境問題の背景と発生原因を理解する 2. 公害問題、地球環境問題とその対策の考え方を理解する 3. 資源・エネルギーの適切な利用と低炭素社会・循環型社会・持続可能社会構築への認識を持つ	
関連科目	特になし	
成績評価方法・基準	定期試験（100％）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義資料をもとに授業該当箇所の予習・復習（自筆ノートの整備）を行う。 準備学習に必要な学習時間の目安は1コマ当たり4時間。	
教科書・参考書	使用しない（プリント配布）	
オフィス・アワー	授業の前後・非常勤講師室	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	特になし	

講義科目名称：生物学A

授業コード：2P017

英文科目名称：Biology A

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
佐藤久美子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 ヒトへの進化 生命を支える物質（1） ①生命の誕生と進化、ヒトへの進化について概説 ②生命現象の普遍的な特質、一様性、多様性、連続性について ③生命活動に主要な役割を持つ構成成分(1) ・水の重要性 ・タンパク質</p> <p>第2回 生命を支える物質（2） 生命活動に主要な役割を持つ構成成分(2) ・炭水化物（糖質） ・脂質 ・核酸 ・無機質（無機塩類）</p> <p>第2回・3回 生命の単位 ①ウイルス、原核細胞（細菌類を含む）、真核細胞 ②真核細胞の構造と機能 ・細胞膜の構造と機能 ・細胞質基質の役割 ・核の構造と機能 ・粗面小胞体の構造と機能 ・滑面小胞体の構造と機能 ・ゴルジ体の構造と機能 ・リソソーム ・ペルオキシソーム ・ミトコンドリア ・色素体 ・細胞骨格の種類とその役割</p> <p>第4回・5回 細胞の増殖・生殖細胞の形成 ①細胞周期 ②間期（S期、G2期、G1期） ③細胞周期の調節 ④分裂期（M期） ・体細胞分裂～染色体の構造、娘細胞への染色体（遺伝子）の分配～ ・減数分裂～生殖細胞の形成、配偶子の形成～</p> <p>第6・7回 受精、発生、分化 ①無性生殖と有性生殖 ②受精 ③発生と分化のしくみ 卵割と胞胚形成 ④胚葉形成（中期胞胚変（遷）移と母性胚性変（遷）移） ⑤器官形成 ⑥形態形成とアポトーシス</p> <p>第8回 ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則と形質の遺伝 ①ヒトの染色体と遺伝子 ②メンデルの法則と形質の遺伝 ③A B O血液型の遺伝 ④家系図の書き方 ⑤遺伝病の原因——遺伝子変異</p>	<p>佐藤久美子</p> <p>佐藤久美子</p> <p>佐藤久美子</p> <p>佐藤久美子</p> <p>佐藤久美子</p> <p>佐藤久美子</p>
科目の目的	<p>高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、医療系専門職の専門課程の学習を理解するために必要な生命現象の基礎知識を深めることを目的とする。特に生物学Aでは生体を構成する基本単位である細胞について、その構造と機能、細胞の増殖と生殖細胞の形成などを学び、さらに生命の連続性を担保する受精、発生、形質の遺伝について知識を深めることを目的とする。【知識・理解】</p>	
到達目標	<p>ヒトの生命活動の全体像を理解するために次の事項を理解し、説明できる力を身につける。</p> <p>①生命の起源からヒトへの進化、生命現象の特質について理解する。 ②細胞構成成分である水の重要性を理解し、タンパク質、糖、脂質、核酸、無機質について説明できる ③細胞の構造、細胞構成成分、細胞内小器官の働きや仕組みを理解する ④細胞の周期とその調節、体細胞分裂と減数分裂を図示して詳細に説明できる。 ⑤生殖、発生、分化のしくみ、形態形成とアポトーシスについて理解する。 ⑥ヒトの染色体と遺伝子、メンデルの法則とヒト正常形質の遺伝について説明できる。</p>	
関連科目	化学A、解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、生化学	
成績評価方法・基準	定期試験の成績（75%）及び講義終了時に提出するリアクションペーパー（25%）により評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を1時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてわからないときには生物学事典（岩波書店、東京化学同人社など）で調べ、理解しておくこと。	
教科書・参考書	<p>教科書：「人の生命科学」 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄（医歯薬出版株式会社）</p> <p>参考書：1. 「Essential細胞生物学原書第4版」中村桂子、松原謙一 監訳（南工堂） 2. アメリカ版 大学生物学の教科書1巻～3巻」 D. サダヴァ他著 ブルーバックス（講談社） 3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝（羊土社）</p>	

オフィス・アワー	授業終了後に教室で、または随時e-mailで質問を受ける。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	生物学全般、特に生命活動を支えるエネルギーの産生や基礎生物学分野の研究が医療に生かされている現状、ヒトの遺伝などを理解するために、後期に開講される生物学Bを併せて履修することが望ましい。

講義科目名称：生物学B

授業コード：2P018

英文科目名称：Biology B

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
佐藤久美子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回・2回 生命活動とエネルギー ①酵素の性質と酵素反応 ②生命活動とエネルギー ・光合成：光エネルギーを利用して二酸化炭素から炭水化物を作り出す過程について ・人工光合成研究開発の現状と未来計画 ・呼吸：生体のエネルギー産生とミトコンドリアの役割（解糖系からTCA回路、電子伝達系によるエネルギーの産生）について ・外呼吸と内呼吸の関係 ・動物と植物のエネルギー連関～光合成と呼吸～</p> <p>第3回・4回 遺伝－ヒトを中心に－その1 ①DNA複製のしくみ ②DNAの変異と修復 ③遺伝情報発現のしくみ ④原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール ⑤性染色体の不活性化 ⑥エピジェネティクス</p> <p>第5回・6回 遺伝－ヒトを中心に－その2 ①単一形質（メンデル形質）で発現する遺伝病 ・常染色体性優性遺伝病、劣性遺伝病と伴性遺伝病 ・保因者、患者の出現頻度－ハーディーワインベルグの法則の有用性－ ②多因子遺伝病 ③染色体異常 ④ミトコンドリア病 ⑤体細胞遺伝病</p> <p>第6回・7回 ヒトの受精と初期発生 ①ヒトの配偶子形成：減数分裂と遺伝子の組み換え、精子と卵子の形成 ②受精：精子の先体反応、受精と多精拒否の機構 ③胚盤胞の形成と着床 ・始原生殖細胞の形成 ・内細胞塊の分化と胚葉の形成 ⑤胚葉の分化 ⑥前胚子期と胚子期 ⑦発生をつかさどる遺伝子 ⑧先天異常発生の要因</p> <p>第8回 細胞科学の先端研究と医療への応用 ①オミックス解析の現状と課題 ②細胞内タンパク質の再利用 ・ユビキチン－プロテアソーム系 ・オートファジー ③iPS細胞 基礎研究と応用研究の進捗状況 ④細胞周期調節のしくみとがん化 ⑤細胞分裂の限界と老化</p>	<p>佐藤久美子</p> <p>佐藤久美子</p> <p>佐藤久美子</p> <p>佐藤久美子</p> <p>佐藤久美子</p>
科目の目的	<p>高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、保健医療の専門職として、先進・高度化しつつある専門領域の学習を理解するために必要な生命科学の基礎知識を深めることを目的とする。本講義では、生物学Aで学んだ知識をベースに、生命活動を支えるエネルギー獲得、真核細胞のDNA複製や遺伝子の情報発現、情報発現の調節などを詳しく学ぶ。また、ヒトの遺伝病、先天異常及びヒトの初期発生について学ぶ。さらに医療分野に直接関連する基礎生物学分野の研究進捗状況について理解する。【知識・理解】</p>	
到達目標	<p>生物学Aの学習内容を基礎として次の事項を理解し、説明できる力を身につける。 ①光合成によるエネルギー獲得の詳細と呼吸による生命活動のエネルギー産生について詳細に説明できる。 ②真核細胞におけるDNAの複製、遺伝情報発現、情報発現コントロール、DNAの変異などについて知識を深める。 ③ヒトのメンデル様式による遺伝病およびそれ以外の要因による遺伝病について学び、説明できる。 ④ヒトの受精、発生初期における細胞分裂の詳細と形態形成及び先天異常発生の要因について学び、説明できる。 ⑤細胞科学の先端基礎研究と医療分野との関連について理解し、説明できる力を身につける。</p>	
関連科目	生物学A、化学A、解剖学Ⅰ、生理学Ⅰ、生化学	
成績評価方法・基準	定期試験の成績（75%）及び講義終了時に提出するリアクションペーパー（25%）により評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を1時間程度復習しておくこと。特に、授業範囲の専門用語についてわからないときには生物学事典（岩波書店、東京化学同人社など）で調べ、理解しておくこと。	

教科書・参考書	教科書：「人の生命科学」 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄（医歯薬出版株式会社） 参考書：1. 「Essential細胞生物学原書第4版」中村桂子、松原謙一 監訳（南工堂） 2. アメリカ版 大学生物学の教科書1巻～3巻」 D. サダヴァ他著 ブルーバックス（講談社） 3. 「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝（羊土社）
オフィス・アワー	授業終了後に教室で、または随時e-mailで質問を受ける
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	生物学Aを履修していることが望ましい。

講義科目名称：数学A

授業コード：2P019

英文科目名称：Mathematics A

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
井上 浩一			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 数と式 多項式の四則演算を復習する。日常で数や式を操作するセンスを伸ばすことを促す。</p> <p>第2回 方程式と不等式 1次不等式、2次方程式の復習をする。日常や医療の場でもそのセンスを役立てることを促す</p> <p>第3回 2次関数 関数とグラフの概念を復習する。 関数の最大・最少の求め方を整理する。 2次関数のグラフと2次方程式・2次不等式の関係。 生活の中で数量的なセンスを発揮することを促す。</p> <p>第4回 図形と計量 三角比、正弦定理と余弦定理、図形の計量に関して復習する。 生活の中でそのセンスを磨くことを考える。</p> <p>第5回 個数の処理 集合とその要素の個数、場合の数、順列、組み合わせ・二項定理の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを促す。</p> <p>第6回 確率 事象と確率、確率の性質、反復試行の確率、期待値の復習。生活の中でそのセンスを役立てることを考える。</p> <p>第7回 論理と命題 命題と条件、必要条件、十分条件、逆、裏、対偶の復習。生活や医療の場で論理的にものごとをとらえるセンスを磨くことを促す。</p> <p>第8回 基礎統計学 統計学の基礎的な概念と方法を学ぶ。</p>	井上 浩一 井上 浩一 井上 浩一 井上 浩一 井上 浩一 井上 浩一 井上 浩一
科目の目的	<p>高校数学の基礎を復習し、数学の各分野の概念を再確認し、それを医療を含む生活での現象に結びつけて応用するセンスと技能を伸ばし、将来、医療従事者として数理現象を見出し、定量的に表現し、その上で分析、評価するための基礎的な能力を磨く。具体的には、数と式、方程式と不等式、二次関数、図形と軽量、場合の数と確率、基礎統計学について学ぶ。【知識・理解】</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的な数学の概念の復習をする。 2. 数学の概念や道具を自力で扱えるようにする。 3. 定量的にものごとを評価するセンスを磨く。 	
関連科目	数学B、化学A・B、物理学A・B	
成績評価方法・基準	筆記試験(100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・高校数学教科書の相当部分を読んでから講義に臨めばより効果的であるが、予習よりも講義内容の復習を期待する。前回の内容が定着したかどうかを確認しておくことが、次の講義の準備学習である。 ・1コマあたりの学習時間の目安は4時間 	
教科書・参考書	<p>教科書・参考書：特になし。</p> <p>毎回、講義内容に関連する内容のプリントを準備し、Active Academyで配布する。</p> <p>配布期間：前回授業翌日から当該日まで</p> <p>持参方法：各自印刷して授業に持参すること</p>	
オフィス・アワー	授業前後の休憩時間	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲があれば数学Bも履修することが望ましい。 ・毎回、講義内容に関連する内容のプリントを準備し、Active Academyで配布する。 <p>配布期間：前回授業翌日から当該日まで</p> <p>持参方法：各自印刷して授業に持参すること</p>	

講義科目名称：数学B

授業コード：2P020

英文科目名称：Mathematics B

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
井上 浩一			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 三角関数 一般角と弧度法，三角関数の加法定理，三角関数の合成，和と積の変換	井上 浩一
	第2回 複素数 複素数の導入と計算方法，複素共役，剰余の定理，因数定理	井上 浩一
	第3回 指数関数と対数関数 指数法則，実数のべき，対数の導入，対数法則，底の変換公式	井上 浩一
	第4回 ベクトルと行列 ベクトル・行列の導入，基本的な性質	井上 浩一
	第5回 微分の導入 微分の定義，整式の微分，極大値・極小値	井上 浩一
	第6回 微分の基本性質 積・商の微分，合成関数の微分，三角関数・指数関数・対数関数の微分	井上 浩一
	第7回 積分の導入 積分の定義，整式の積分，図形の面積	井上 浩一
	第8回 積分の応用 置換積分，部分積分，三角関数・指数関数・対数関数の積分，微分方程式。	井上 浩一
科目の目的	医療従事者には、個々の患者の生理的状態や疾病状態、患者集団の動向などを種々のデータによって定量的にとらえ、分析・評価する能力が求められる。また患者への治療・検査刺激の量的な理解と評価も重要である。本科目はそれらのための基礎的数学知識の確認に加えて、発展的な知識を身につけ、専門科目の円滑な理解につながることを目指す。具体的には、三角関数、複素数、指数関数、対数関数、ベクトルと行列、微分・積分、微分方程式、部分積分などについて学ぶ。 【知識・理解】	
到達目標	1. 医療や科学を学ぶためのやや進んだ数学的な知識と技能を学ぶ。 2. 数理現象を理解したり、評価したり、扱ったりする数学的なセンスを養う。	
関連科目	数学A、化学A・B、物理学A・B	
成績評価方法・基準	筆記試験（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	・高校数学の教科書の該当する部分を読んでから講義に臨めばより効果的であるが、受講生には予習よりも、講義の復習を期待する。前回学んだ内容を理解し復習しておくことが次の講義の準備となる。 ・1コマあたりの学習時間の目安は4時間	
教科書・参考書	教科書・参考書：特になし。 毎回資料を作成し、Active Academyで配布する。 配布期間：前回授業翌日から当該日まで 配布方法：各自印刷して授業に持参すること	
オフィス・アワー	授業前後の休憩時間	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	・数学Aも履修することが望ましい ・毎回資料を作成し、Active Academyで配布する。 配布期間：前回授業翌日から当該日まで 配布方法：各自印刷して授業に持参すること	

講義科目名称：化学A

授業コード：2P021

英文科目名称：Chemistry A

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
日置 英彰			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 化学の立場から医療を考える 歴史的に重要な化学物質を取り上げて、化学物質がどのように医療に貢献してきたか考える。</p> <p>第2回 物質の成り立ち 物質を構成している分子と原子の構造、原子軌道、分子軌道について解説する。</p> <p>第3回 元素と周期表 自然にはどのような元素があるのか、元素の分類と周期表の読み方について解説する。</p> <p>第4回 イオン イオンとイオン結合の原理、生体内でのイオンの役割について解説する。</p> <p>第5回 共有結合化合物と有機分子 生体を構成している物質のほとんどは有機分子である。有機分子の結合様式、特異な形、一般的な性質について解説する。</p> <p>第6回 水の性質と物質の状態変化 ヒトの体の半分以上を占める水の性質と浸透や物質の三態（気体、液体、固体）について解説する。</p> <p>第7回 酸と塩基 酸、塩基、緩衝液について解説する。</p> <p>第8回 酸化と還元 物質の酸化と還元、生体内での酸化還元反応について解説する。</p>	<p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p>
科目の目的	地球上に生きるすべての生命を持つものを物質から見れば、巨視的に見えるものから究極を突き詰めれば見えないものは原子や分子の世界まで行きつくことになる。本科目では、物質の科学であると言われる化学について、物質についての基本的な事項を高校化学の基礎にさかのぼり学び、専門課程の理解のための基礎的知識を身につけることを目的とする。【知識・理解】	
到達目標	専門課程で学習する内容を理解するために、化学分野の基礎的知識を習得する。	
関連科目	生化学	
成績評価方法・基準	試験（80%）、毎講義ごとのリアクションペーパーの提出（20%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は必要ないが、毎回の講義の理解度を確認するために、各講義ごとに出题されるチェックテストを活用して復習してください。準備学習時間の目安：1時間	
教科書・参考書	教科書：看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人 参考書：特に指定なし	
オフィス・アワー	講義前後の時間	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	特にありません。	

講義科目名称：化学B

授業コード：2P022

英文科目名称：Chemistry B

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
日置 英彰			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 病気と闘う化学物質 くすりは体の中でどのように作用するのか概説しながら、医療と化学がどのように関わっているのか考える。</p> <p>第2回 生体内ではたらく有機化合物 ホルモンや神経伝達物質をはじめ多くの有機化合物が生命活動を維持する上で重要な役割を果たしている。これら有機化合物の性質を官能基別に解説する。</p> <p>第3回 生体高分子 糖、タンパク質、核酸の化学構造とその性質について解説する。</p> <p>第4回 合成高分子 医療機器には多くの高分子素材が使われている。各種合成高分子の性質と医療機器への応用について解説する。</p> <p>第5回 化学反応の速度 化学反応の速度の測定方法、速度に影響を与える要因について解説する。</p> <p>第6回 触媒と酵素 生体内の化学反応は酵素が触媒している。化学反応における触媒の役割、酵素の構造と触媒作用について解説する。</p> <p>第7回 化学分析 化学分析の原理を学ぶ。医学で利用されている分析法についても触れる。</p> <p>第8回 放射線と放射能 放射性崩壊と半減期、医療における放射性同位体の利用について解説する。</p>	<p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p> <p>日置 英彰</p>
科目の目的	医療と化学の関係は深い、生命活動自身が秩序だった化学反応であり、医薬品、医用材料、臨床検査薬等を扱うには化学的な見方・考え方は重要である。本講義ではその基本的知識を習得する。【知識・理解】	
到達目標	生体関連物質、医薬品、医用材料など医療に密接に関係している化学物質の性質や反応を理解する。	
関連科目	生化学	
成績評価方法・基準	試験（80%）、毎講義ごとのリアクションペーパーの提出（20%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は必要ないが、毎回の講義の理解度を確認するために、各講義ごとに出题されるチェックテストを活用して復習してください。準備学習時間の目安：1時間	
教科書・参考書	教科書：看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人 参考書：特になし	
オフィス・アワー	講義前後の時間	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	特にありません。	

講義科目名称：物理学A

授業コード：2P023

英文科目名称：Physics A

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
佐藤 求			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 物理量の次元と単位 補助単位、組立単位、同次元の単位の変換。 第2回 静止系 力の釣り合い、モーメントの釣り合い、バネの力。 第3回 運動 瞬間の速度、加速度。等速直線運動、等加速度運動。 第4回 運動方程式 1 力学の問題の標準的な手続き。 第5回 運動方程式 2 坂道、バネなどの典型問題。 第6回 仕事とエネルギー 位置エネルギー、運動エネルギー、弾性エネルギー。エネルギー保存則。 第7回 円運動 等速円運動。 第8回 バネと単振動 単振動	佐藤求 佐藤求 佐藤求 佐藤求 佐藤求 佐藤求 佐藤求 佐藤求
科目の目的	高等学校で物理を履修していない学生を想定し、物理の基礎を身につける。 高校物理を履修済みの学生にとっても新たな発見があるよう、別の視点の紹介も行う。 [知識・理解]	
到達目標	物理学の基礎的な概念を知り、標準的なアプローチを身につけ、物理現象を定量的・定性的に取り扱えるようになる。 分野は概ね初等力学。	
関連科目	物理学B、運動学I・II、物理療法学	
成績評価方法・基準	定期試験(100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校物理教科書や参考書を読んでから講義に臨めばより効果的だが、受講生には予習よりも講義の復習を期待する。前回分の演習問題を解いておくこと。 30分～1時間程度（定期試験前の復習は別）	
教科書・参考書	教科書：自作テキスト 参考書：新しい高校物理の教科書 ー現代人のための高校理科（講談社ブルーバックス）山本 明，左巻 健男	
オフィス・アワー	木曜日 15時～17時は部屋にいますようにします。 （その他の時間も空いている限り対応します）	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	特になし	

講義科目名称：物理学B

授業コード：2P024

英文科目名称：Physics B

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
佐藤 求			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 熱現象 1 熱と温度、比熱	佐藤求
	第2回 熱現象 2 気体の状態方程式、仕事と熱	佐藤求
	第3回 熱現象 3 気体分子運動論	佐藤求
	第4回 波動 1 回折、屈折、波の式、干渉	佐藤求
	第5回 波動 2 ドップラー効果	佐藤求
	第6回 電気の基礎 1 抵抗回路の基礎、電位の概念	佐藤求
	第7回 電気の基礎 2 キルヒホッフの法則、電力	佐藤求
	第8回 電磁波・放射線 電磁波と各種核崩壊	佐藤求
科目の目的	高等学校で物理を履修していない学生を想定し、物理の基礎を身につける。 物理学Aに続き熱と波動、電気の基礎を学ぶ。 [知識・理解]	
到達目標	物理学の基礎的な概念を知り、標準的なアプローチを身につけ、物理現象を定量的・定性的に取り扱えるようになる。	
関連科目	物理学A、運動学I・II、物理療法学	
成績評価方法・基準	定期試験(100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校物理教科書や参考書を読んでから講義に臨めばより効果的だが、受講生には予習よりも講義の復習を期待する。前回分のプリントの演習問題を解いておくこと。 30分～1時間程度(定期試験前の復習は別)	
教科書・参考書	教科書：自作テキスト 参考書：新しい高校物理の教科書 一現代人のための高校理科 (講談社ブルーバックス) 山本 明, 左巻 健男	
オフィス・アワー	木曜日 15時～17時は部屋にいます。 (その他の時間も空いている限り対応します)	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	特になし	

講義科目名称：英語リーディング

授業コード：2P025

英文科目名称：General English Reading

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
高坂 徳子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Introduction、Self Introduction 授業の説明、自己紹介	高坂徳子
	第2回 Lesson 1 Global Warming and Climate Change videoとCDによるlistening practice。topicについての英文読解。	高坂徳子
	第3回 Lesson 1 Global Warming and Climate Change topicについての英文読解。グループワーク：調べてまとめる。 Tips1: 図書館での検索方法	高坂徳子
	第4回 Lesson 2 Diet and Health and Long Lives videoとCDによるlistening practice。topicについての英文読解。	高坂徳子
	第5回 Lesson 2 Diet and Health and Long Lives topicについての英文読解。グループワーク：調べてまとめる。 Tips 2: インターネットによる検索方法	高坂徳子
	第6回 Lesson 3 Self-Driving for the Future videoとCDによるlistening practice。topicについての英文読解。	高坂徳子
	第7回 Lesson 3 Self-Driving for the Future topicについての英文読解。グループワーク：インタビューする。 Tips 3: インタビューの方法	高坂徳子
	第8回 Lesson 4 Sustaining Biodiversity and Protecting Species videoとCDによるlistening practice。topicについての英文読解。	高坂徳子
	第9回 Lesson 4 Sustaining Biodiversity and Protecting Species topicについての英文読解。グループワーク：ペアワークを行う。 Tips 4: ペアワークを円滑に進める方法	高坂徳子
	第10回 Lesson 5 3D Printers for Creating Body Parts videoとCDによるlistening practice。topicについての英文読解。	高坂徳子
	第11回 Lesson 5 3D Printers for Creating Body Parts topicについての英文読解。グループワーク：アイデアを出しまとめる。 Tips 5: BrainstormingとKJ法	高坂徳子
	第12回 Lesson 6 IT and Education videoとCDによるlistening practice。topicについての英文読解。	高坂徳子
	第13回 Lesson 6 IT and Education topicについての英文読解。グループワーク：調べてまとめる。 Tips 6: グループワークの際の役割	高坂徳子
	第14回 Lesson 7 Protection from Natural Disasters videoとCDによるlistening practice。topicについての英文読解。	高坂徳子
	第15回 Lesson 7 Protection from Natural Disasters topicについての英文読解。グループワーク：調べてまとめる。 Tips 7: グループ内の話し合いを活性化化する思考のヒント	高坂徳子
科目の目的	専門分野の英語に取り組むための基礎力、とくにリーディング力とリスニング力を養成する。英語を学ぶことを通して、将来の医療従事者として、人間や社会に対する興味・関心の幅を広げ、興味・関心を持った事柄に関して調べ、自分の意見を持ち、それらを表現する。【技能・表現】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストや各自の力と興味に合わせた本を読むことを通じて、多くの英文に接し、構文を正しく理解し、英文の内容を理解することができる。 ・テキストのトピックについて調べ、自分の意見を持ち、グループ内での討論を通じて、他者の意見も聞き、まとめ、発表することができる。 ・テキスト、テキストに準じたweb教材、graded readerの音声を聴いて、単語や文章を聴き取り、発音することができる。 ・extensive readingの目標は10,000words。口語表現や日常生活での英語表現が理解でき、使うことができる。 ・テキストに準じたweb教材を自分のペースで学習できる。 	
関連科目	医療英語会話、医療英語リーディング、英語会話、英語アカデミックリーディング・ライティング	
成績評価方法・基準	前期末試験（60%） グループワーク（20%） extensive reading（10%） web学習（10%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：個人として、次回に学習する範囲の英文や英単語の音声を聴く。読んでわからない単語は、辞書で調べ、英文の大まかな内容をつかむ。どこがわからないのかを明確にする。グループワークにおいては、グループでの話し合いに向けての準備をする。 復習：その日に学習したことを整理し、英語構文を理解する。Web学習により、単語や文法の定着を図る。	

	予習・復習合わせて約90分。 extensive readingについては、目標達成に向けて、各自のペースで計画的に進める。
教科書・参考書	教科書：AFP World Focus—Environment, Health, and Technology—『AFPで見る環境・健康・科学』 宍戸真、Kevin Murphy、高橋真理子（成美堂）2017年。
オフィス・アワー	質問は講義の前後に受け付ける。（非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	高校までの基本的英文法は理解しておくこと。 英和辞典を必ず持参すること。電子辞書でも構わない。携帯電話の辞書機能は不可とする。

講義科目名称：医療英語会話

授業コード：2P120 2P121

英文科目名称：Medical English Conversation

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
David Andrews			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Introduction/Icebreaking Introduction to the course, class format, expectations, syllabus, and grading scale, as well as personal introductions	David Andrews
	第2回 Unit 1: Meeting patients	David Andrews
	第3回 Quiz (short test) on Unit 1 + Unit 2: Taking a medical history	David Andrews
	第4回 Quiz (short test) on Unit 2 + Unit 3: Assessing symptoms	David Andrews
	第5回 Quiz (short test) on Unit 3 + Part I of Unit 4: Taking vital signs + Prepare for Presentations	David Andrews
	第6回 Presentations + Part II of Unit 4: Taking vital signs Presentations will consist of performing skits in pairs based on the model dialogs in Units 1-4.	David Andrews
	第7回 Unit 5: Taking a specimen	David Andrews
	第8回 Quiz (short test) on Unit 5 + Unit 6: Conducting a medical examination	David Andrews
	第9回 Quiz (short test) on Unit 6 + Unit 7: Assessing pain	David Andrews
	第10回 Quiz (short test) on Unit 7 + Part I of Unit 8: Advising about medication + Prepare for Presentations	David Andrews
	第11回 Presentations + Part II of Unit 8: Advising about medication Presentations will consist of performing skits in pairs based on the model dialogs in Units 5-8.	David Andrews
	第12回 Unit 9: Improving Patients' mobility	David Andrews
	第13回 Quiz (short test) on Unit 9 + Unit 10: Maintaining a good diet	David Andrews
	第14回 Quiz (short test) on Unit 10 + Unit 11: Caring for inpatients	David Andrews
	第15回 Unit 12: Coping with emergencies + Prepare for Final Presentation	David Andrews
科目の目的	Medicine is undeniably a global field in which ideas are shared in the international language of English. This course will introduce students to helpful communication strategies and explore communicative skills in English that are of particular relevance to the field of medicine. [技能・表現]	
到達目標	Students will be able to: 1) handle a wide variety of medical situations using English, 2) understand and actively use accepted terminology and phraseology to explain and discuss major medical topics, and 3) build a foundation in medical English upon which to further their studies toward becoming professionals in their chosen field of medicine.	
関連科目	Related to all English courses	
成績評価方法・基準	1. Active participation in class activities (20%) During each class session, we will discuss issues and questions related to the weekly chapter. 2. Mini-presentations (20%) Students will prepare and give presentations in pairs on relevant topics. 3. In-class quizzes (40%) These will cover material from the text. 4. Final presentation (20%) Students will prepare and give presentations on relevant topics.	

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	Each week we will practice and review a chapter from the text. Please read the dialogue, understand key vocabulary, and be prepared to speak in class. Each chapter will require about 30 minutes on your own to review and study. In addition, you will need about 5 hours during the semester to prepare for presentations.
教科書・参考書	Caring For People
オフィス・アワー	During lunch of class day
国家試験出題基準	
履修条件・履修上 の注意	Be prepared to speak in class individually, in pairs, and in small groups. Review the vocabulary and grammar from the text in order to use it in class. This syllabus is subject to change.

講義科目名称：医療英語リーディング

授業コード：2P027

英文科目名称：Medical English Reading

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
高坂 徳子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Introduction、Self Introduction 授業の説明、自己紹介	高坂徳子
	第2回 Unit 1 Medical Professional Communication Skills topicの英文読解、内容の把握。 接頭辞と接尾辞 1	高坂徳子
	第3回 Unit 1 Medical Professional Communication Skills topicの英文読解、内容の把握。医療コミュニケーションに関する英語表現。 listening practice 接頭辞と接尾辞 2	高坂徳子
	第4回 Unit 2 The Internet and Self Diagnosis topicの英文読解、内容の把握。 接頭辞と接尾辞 3	高坂徳子
	第5回 Unit 2 The Internet and Self Diagnosis topicの英文読解、内容の把握。一般的疾患の英語表現。 listening practice 接頭辞と接尾辞 4	高坂徳子
	第6回 Unit 3 Resistant Diseases and Drug Economics topicの英文読解、内容の把握。 接頭辞と接尾辞 5	高坂徳子
	第7回 Unit 3 Resistant Diseases and Drug Economics topicの英文読解、内容の把握。治療に抗生物質が使われる疾患の英語表現。 listening practice 接頭辞と接尾辞 6	高坂徳子
	第8回 Unit 4 Death and Dying topicの英文読解、内容の把握。 接頭辞と接尾辞 7	高坂徳子
	第9回 Unit 4 Death and Dying topicの英文読解、内容の把握。 老年期医療の英語表現。 listening practice 接頭辞と接尾辞 8	高坂徳子
	第10回 Unit 5 Sleep in the 21st Century topicの英文読解、内容の把握。 接頭辞と接尾辞 9	高坂徳子
	第11回 Unit 5 Sleep in the 21st Century topicの英文読解、内容の把握。睡眠と認知機能に関する英語表現。 listening practice 接頭辞と接尾辞 10	高坂徳子
	第12回 Unit 6 How Medicine Works in Your Body topicの英文読解、内容の把握。 接頭辞と接尾辞 11	高坂徳子
	第13回 Unit 6 How Medicine Works in Your Body topicの英文読解、内容の把握。薬物接種に関する英語表現。 listening practice 接頭辞と接尾辞 12	高坂徳子
	第14回 Unit 7 Gut Microbiota: Flower Garden inside You topicの英文読解、内容の把握。 接頭辞と接尾辞 13	高坂徳子
	第15回 Unit 7 Gut Microbiota: Flower Garden inside You topicの英文読解、内容の把握。消化に関する英語表現。 listening practice 接頭辞と接尾辞 14	高坂徳子
科目の目的	専門分野の英語に取り組むためのリーディング力とリスニング力の養成と強化。 医療系の基本的英語語彙力と英語表現力の強化。【技能・表現】	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療全般に関するトピックを読み、構文を正しくとらえ、内容を理解することができる。 ・テキストの音声を聴くことにより、単語や文章を正しく聴き取ることができる。 ・医療の基本的英単語や英語表現を覚え、声に出して読んで書くことができる。 	
関連科目	英語リーディング、医療英語会話、英語会話、英語アカデミックリーディング・ライティング	
成績評価方法・基準	後期末試験（90%） 医療英単語テスト（10%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>予習：次回に学習する範囲の英文、英単語の音声を聴く。英文を読んでわからない単語は辞書で調べ、英文の大まかな内容をつかむ。どこがわからないのかを明確にする。</p> <p>復習：その日に学習したことを整理し、英語構文を理解する。英単語、英語表現は覚え、正しく発音できるように音声教材をよく聴き、また、正しく書けるまで練習する。</p> <p>予習・復習合わせて約90分。</p>	
教科書・参考書	教科書：The World of Medicine『医学・薬学の世界』黒澤麻美、和治元義博、James A. Goddard（朝日出版社）2018年。	
オフィス・アワー	質問は講義前後に受け付ける。（非常勤講師室）	

国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	高校までの基本的英文法は理解しておくこと。 英和辞典を必ず持参すること。電子辞書でも構わない。携帯電話の辞書機能は不可とする。

講義科目名称：英語会話

授業コード：2P028

英文科目名称：General English Conversation

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
Joseph Boland			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 Course introduction and procedures. Commonly used phrases and questions for use in class.	Joseph Boland
	第2回 Self:greetings and introductions, name order. Family Identifying family members and describing family relationships.	Joseph Boland
	第3回 Appearances Identifying & describing people through physical appearances.	Joseph Boland
	第4回 Personality Identifying personal qualities and expressing opinions.	Joseph Boland
	第5回 Homes Understanding descriptions of homes. Describing homes and furnishings.	Joseph Boland
	第6回 Cities Understanding description of places and describing cities & landmarks. Understanding and giving directions.	Joseph Boland
	第7回 Travel & Sightseeing Identifying & describing locations in a country, region, or city. Planning a trip.	Joseph Boland
	第8回 Weather Understanding weather reports. Identifying & understanding weather, climate, and related natural phenomena.	Joseph Boland
	第9回 Music Identifying likes & dislikes. Understanding & describing different genres of music.	Joseph Boland
	第10回 Routines Understanding & identifying times, events, and schedules.	Joseph Boland
	第11回 Food & Dining Understanding & describing food. Ordering food at a restaurant.	Joseph Boland
	第12回 Sports Understanding & describing different kinds of sports.	Joseph Boland
	第13回 Entertainment Recognizing & giving invitations. Understanding & describing different forms of entertainment.	Joseph Boland
	第14回 Money & Finance Understanding numbers, currency, and personal finance.	Joseph Boland
	第15回 Shopping Recognizing types stores and shopping. Understanding locations within a store. Expressing likes & desires and asking for assistance.	Joseph Boland
科目の目的	The primary purpose of this course is to encourage and challenge students to use and improve their existing English ability. The course introduces students to practical strategies useful for communication in English. Though reading and writing English is an important aspect of this course, the emphasis is oral comprehension (listening) and communication (speaking).	
到達目標	By the end of the course students will be able to communicate basic information about themselves and their surroundings. Students will learn to express practical needs and give instructions. Students will be able to communicate past experiences and future desires. Students will also learn to evaluate information critically and express opinions.	
関連科目	All English courses.	
成績評価方法・基準	Grades are based on class participation (30%), individual and group projects and assignments (30%), quizzes (20%), and final exam (20%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Students are advised to study approximately 3 hours per week in preparation for each 90-minute lesson. Students will listen to typical English conversation audio recordings, study relevant grammar and vocabulary and complete exercises.	
教科書・参考書	There is no textbook for this course. The instructor provides learning materials. The course will make extensive use of the Internet both in class and for individual study outside of class. Instructor assumes students own or have access to an Internet enabled device. Use of smartphone,	

	tablet, or notebook computers in class is encouraged.
オフィス・アワー	Fridays 12:00-13:00 at 1号館非常勤講師室
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	Students are expected to participate in class discussions and projects. Attendance policy is consistent with university rules. Students are expected to conduct themselves with academic integrity and honesty.

講義科目名称：英語アカデミックリーディング・ライティング 授業コード：2P029

英文科目名称：Academic Reading and Writing in English

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
柴山森二郎			

授業形態	講義(演習を含む)	担当者
授業計画	第1回 Unit 1. Stress and Anxiety Reading, パラグラフとは, 小テスト (小テストは採点して次週に返却)	柴山
	第2回 同上 Watch the Video, 課題: 複数の文を書く (課題は添削して次週に返却)	柴山
	第3回 Unit 2. Vitamins and Supplements Reading, 文のつながり(1), 小テスト	柴山
	第4回 同上 Watch the Video, 課題: 文のつながりに留意して複数の文を書く(1)	柴山
	第5回 Unit 3. Alzheimer's Reading, 文のつながり(2), 小テスト	柴山
	第6回 同上 Watch the Video, 課題: 文のつながりに留意して複数の文を書く(2)	柴山
	第7回 Unit 4. Music Therapy Reading, トピックセンテンス(1), 小テスト	柴山
	第8回 同上 Watch the Video, 課題: トピックセンテンスに留意して複数の文を書く(1)	柴山
	第9回 Unit 5. Laughter as Medicine, Reading, トピックセンテンス(2), 小テスト	柴山
	第10回 同上 Watch the Video, 課題: トピックセンテンスに留意して複数の文を書く(2)	柴山
	第11回 Unit 6. Robotic Surgery Reading, パラグラフの結びの文(1), 小テスト	柴山
	第12回 同上 Watch the Video, 課題: 結びの文に留意してパラグラフを書く(1)	柴山
	第13回 Unit 7. Safe Anesthetics Reading, パラグラフの結びの文(2), 小テスト	柴山
	第14回 同上 Watch the Video, 課題: 結びの文に留意してパラグラフを書く(2)	柴山
	第15回 Physical Therapy Reading, パラグラフからエッセイへ, エッセイの読解	柴山
科目の目的	英語の文献を読む力と英語で考えを述べる力をつける。	
到達目標	英語のパラグラフィティングの基礎を学び、そのうえで、専門分野の英語文献をパラグラフィティングの観点から分析的に読み、専門分野の英語文献を読む力をつけ、同時に英語でのレポートの力を養う。	
関連科目	英語リーディング、医療英語リーディング、英語会話、医療英語会話	
成績評価方法・基準	授業中の課題、小テスト等の評価(40%)、定期試験(60%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習と復習(1時間)	
教科書・参考書	教科書: English for Health and Medicine(ビデオレポート: 健康と医療)、朝日出版、¥1,800+税	
オフィス・アワー	時間: 講義の前後、場所: 非常勤講師室	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	真面目に、積極的に学習に取り組む。分からないことがあったら質問をする。	

講義科目名称：中国語

授業コード：2P030

英文科目名称：Chinese

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
深町 悦子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 中国語とは？ 中国語の発音 発音、漢字、声調	深町 悦子
	第2回 中国語の発音のきまり 単母音、複合母音、声調	深町 悦子
	第3回 子音の発音 子音と声調	深町 悦子
	第4回 第1課の学習 自己紹介 名前を中国語で読む練習	深町 悦子
	第5回 第1課の復習とドリル 発音と声調の組み合わせ練習	深町 悦子
	第6回 第2課の学習 どうなさいましたか 会話と表現の学習	深町 悦子
	第7回 第2課の復習とドリル 身体各部位の名称	深町 悦子
	第8回 発音と声調の総復習 中間レポート提出	深町 悦子
	第9回 第3課の学習 この薬はどう飲みますか 会話と表現の学習	深町 悦子
	第10回 第3課の復習とドリル 人体解剖図（各臓器の読み方）	深町 悦子
	第11回 第4課の学習 病室はどこですか 会話と表現	深町 悦子
	第12回 第5課の学習 具合はいかがですか 会話と表現	深町 悦子
	第13回 第6課の学習 心配いりません 会話と表現	深町 悦子
	第14回 第7課の学習 退院おめでとう 会話と表現	深町 悦子
	第15回 第1課から第7課までの復習 総合復習	深町 悦子
科目の目的	現代のグローバル化の社会の中で、一国際人として、多言語ができる人材を育成する。[技能・表現]	
到達目標	日常生活及び仕事の中で、簡単な会話ができること。	
関連科目	特になし	
成績評価方法・基準	期末に筆記試験を行う。基準は筆記試験が80%、授業内にレポート及び感想文の提出が20%。提出されたレポートについては次回授業内でフィードバックを行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業前の予習と授業後の復習をすること。1時限ごとに30分ぐらい必要である。発音の練習は必ずしっかりする事、特に四声については、CDを聞きながら発声して覚えるように。	
教科書・参考書	教科書：医療系中国語会話（白帝社） 参考書：なし	
オフィス・アワー	講義の前後	
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意	教科書の購入が必要である	

講義科目名称：コリア語

授業コード：2P031

英文科目名称：Korean

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
青木 順			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ハングルの読み方 基本母音 朝鮮半島、ソウル市などを簡単に紹介し、ハングルの由来、構造を簡単に説明。 基本母音10個の読み方、基本母音を含んだ単語、挨拶言葉等を学習する。	青木 順
	第2回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音4個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として伝統料理を紹介する。	青木 順
	第3回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音4個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。	青木 順
	第4回 ハングルの読み方 激音（濃音と比較しながら） 濃音と比較しながら激音5個の読み方、激音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。	青木 順
	第5回 文化として伝統茶を紹介する。 ハングルの読み方 濃音（激音と比較しながら） 激音と比較しながら濃音5個の読み方、濃音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。	青木 順
	第6回 合成母音 合成母音11個の読み方、合成母音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。	青木 順
	第7回 ハングルの読み方 パッチム パッチムの読み方、パッチムを含んだ単語、挨拶言葉を学習する。 文化として食事のマナー、1歳の誕生日を紹介する。	青木 順
	第8回 「私は青木順です」① サンパッチム、連音の説明、練習を行う。	青木 順
	第9回 「私は青木順です」② 「は」「です」「～と申します」という文法の学習、関連会話文の読み、訳を行う。 文化として伝統家屋、伝統舞踊を紹介する。	青木 順
	第10回 「私は青木順です」のまとめと「何人家族ですか？」① 韓国語での自己紹介を一人一人行う。 関連単語、「ます」「ますか」等の文法の学習と練習を行う。 文化として伝統的結婚式、楽器等を紹介する。	青木 順
	第11回 「何人家族ですか」② 「お～になります」「が」「と」などの文法の学習と練習を行う。	青木 順
	第12回 「何人家族ですか」③ 固有数字、関連会話文の読み、訳、会話練習等を行う。 文化として伝統遊びを紹介する。	青木 順
	第13回 「すみません」① 関連単語、「～してください」、意志を含んだ「ます」等の文法の学習と練習を行う。	青木 順
	第14回 「すみません」② 「いる（いない）」「ある（ない）」の説明と練習。 固有数字を使う助数詞、関連会話文の読み、訳を行う。 文化として伝統刺繍を紹介する。	青木 順
	第15回 「すみません」③とまとめ 会話練習、文法のまとめ、試験問題の説明を行う。	青木 順
科目の目的	基礎的なコリア語を学ぶと同時に、韓国社会や文化への理解も深める。（技能・表現）	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。 ・正確な発音をマスターする。 ・挨拶をはじめ、簡単な日常会話を身につける。 	
関連科目	特になし。	
成績評価方法・基準	課題への取り組み（40%）・期末テスト（60%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で学習した内容はその都度復習しておくこと。 外国語の学習は反復・継続することが何より大切なので、毎日10分でもよいので、積極的に取り組むこと。	
教科書・参考書	講師作成教材使用予定（コピー）	

オフィス・アワー	コリア語の授業のある日12:30～12:50非常勤教員室
国家試験出題基準	特になし。
履修条件・履修上の注意	講師作成の教材を使用する。 配布期間：前回の授業翌日から当該日まで。 持参方法：各自印刷して授業に持参すること（課題も含まれているため、印刷必須）。

講義科目名称：ドイツ語

授業コード：2P032

英文科目名称：German

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
白井 智美			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ガイダンス ドイツ語の学習のための導入、ドイツ語の発音の特徴、挨拶表現	白井 智美
	第2回 Lektion 1 ドイツ語のアルファベット、あいさつ表現、人称代名詞	白井 智美
	第3回 Lektion 1 人称代名詞、動詞の現在人称変化	白井 智美
	第4回 Lektion 1 動詞の現在人称変化、ドイツ語の語順	白井 智美
	第5回 Lektion 2 名詞の性・冠詞、代名詞の使い方	白井 智美
	第6回 Lektion 2 名詞の性・冠詞、名詞の格変化	白井 智美
	第7回 Lektion 2 名詞の格変化、疑問代名詞	白井 智美
	第8回 まとめ・小テスト 第7回までの内容に関する小テスト	白井 智美
	第9回 小テスト返却・解説 小テスト解説	白井 智美
	第10回 Lektion 3 不規則動詞	白井 智美
	第11回 Lektion 3 不規則動詞・命令形	白井 智美
	第12回 Lektion 3 人称代名詞の3格・4格	白井 智美
	第13回 Lektion 4 名詞の複数形	白井 智美
	第14回 Lektion 4 冠詞類	白井 智美
	第15回 Lektion 4 冠詞類、これまでのまとめ	白井 智美
科目の目的	ドイツ語の初歩的な文法だけではなく、発音や会話表現の習得を主な目的とします。これら学習を通じて、これまで学習してきた英語以外に多様な言語があること、そして言語が多様なだけではなく世界には多様な文化や風習があることを理解することが重要な目的となります。また、本科目は本学ディプロマ・ポリシーにおける「技能・表現」に示された能力向上の一環として行われます。	
到達目標	ドイツ語文法の基礎的な知識・短い文の理解・簡単な会話表現の理解・運用。日本語やこれまで学習した英語との違いの認識。	
関連科目	「多職種理解と連携」	
成績評価方法・基準	期末試験（70%）、小テスト（20%）、宿題（10%）。積極的な参加が好ましいです。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習として、予習にはそれほど時間や労力を割く必要はありません（15分程度）が、復習が極めて重要であるため予習より多くの時間を費やしてください。また1度の復習だけでは記憶に定着しづらいため、数回に分けて行うのが良いでしょう（30分×3程度）。最初の復習はその日のうちに、授業から時間を置かずに行うことが望ましいです。また次の点に注意をしてください。 1) 予習として、知らない文法用語や文法事項等をチェックしておき、授業の際に注意を向けられるようにしてください。 2) 復習として、授業の内容を理解できているか確認し、また何が理解できていないかを把握する必要があります。理解の有無や不明確な部分は演習問題や宿題を通じて確認してください。また授業で使用した語や文あるいは表現は、できるだけ次の授業までに覚えるようにしてください。	
教科書・参考書	アー・ツェット 楽しく学ぶドイツ語 (Deutsch A-Z) ISBN978-4-255-25420-3	

オフィス・アワー	主に授業の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	学習のため小さいものでよいので独和辞典を用意してください。授業中には辞書は使用しません。授業へは積極的な参加が好ましいです。

講義科目名称：ポルトガル語

授業コード：2P033

英文科目名称：Portuguese

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
宮入 亮			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 オリエンテーション ポルトガル語について、簡単な挨拶、ポルトガル語の読み方 ポルトガル語の読み方	宮入 亮
	第2回 自己紹介ができる 自己紹介の表現 国籍の表現 動詞ser (be動詞) 疑問文と否定文	宮入 亮
	第3回 好きなものを伝えることができる 趣味の表現 色の表現 動詞gostar	宮入 亮
	第4回 家族を紹介することができる 家族の表現 動詞の現在形(規則・不規則)	宮入 亮
	第5回 予定の表現や約束の表現ができる 誘いかけの表現 曜日の表現 動詞ir	宮入 亮
	第6回 今おこなっていることの表現、天気 of 表現ができる 進行の表現 天候の表現 動詞estar	宮入 亮
	第7回 週末にしたことを表現できる 過去の表現 動詞の完了過去形(規則・不規則)	宮入 亮
	第8回 過去の習慣の表現ができる 子どもの頃の習慣の表現 動詞の未完了過去形	宮入 亮
	第9回 「もし～だったら」と誘う表現ができる 「もし～だったら」、「～する時は」の表現 誘う表現 動詞の接続法未来形	宮入 亮
	第10回 指示や命令の表現ができる 道案内の表現 指示やお願いの表現 動詞の命令法	宮入 亮
	第11回 願望や要求の表現ができる したいことを伝える表現 してほしいことを伝える表現 動詞querer 目的語の代名詞	宮入 亮
	第12回 許可の表現、お願いの表現、時刻の表現ができる 許可の表現 動詞poder 時刻の表現・時点の表現	宮入 亮
	第13回 丁寧なお願いや許可の表現 丁寧の表現 動詞の過去未来形	宮入 亮
	第14回 比較の表現ができる 比較の表現	宮入 亮
	第15回 別れや感謝の表現ができる 別れや感謝の表現	宮入 亮

科目の目的	<p>【技能・表現】 ポルトガル語は主にブラジルで話される言語で、1万人以上のブラジル系住民が生活する群馬県内でも接する機会の多い言語です。群馬県内(特に東毛地区)において地域に関わる仕事(例えば、公務員や教員、医療関係など)を希望している学生にはポルトガル語の習得をお勧めします。</p> <p>また、ポルトガル語はブラジル以外の国々でも公用語とされているところがあり、国際的に活動したいという際にも役立てることができます。</p> <p>ポルトガル語は英語に近い構造のヨーロッパ言語で、英文法や語彙の知識が応用できる項目もあり、一方で英</p>
-------	--

	<p>語の理解にも役立ちます。</p> <p>本授業の目標はポルトガル語の入門にとどまりますが、初級、中級へと学習を進めるためのきっかけとなると同時に、「英語以外のヨーロッパ言語」に関心を持っていただくこと、加えて可能な限り、ブラジルを中心としたポルトガル語圏の文化についても授業内で紹介し、ポルトガル語に関わる事柄の知見を広めることも目指します。</p>
到達目標	<p>本授業では欧州言語共通参照枠(CEFR)のA1レベルを習熟目標とし、ポルトガル語の基本中の基本となる以下の基礎文法と基礎的なコミュニケーション表現を習得することを目指します。</p> <p>(1)ポルトガル語を読める (2)名詞や形容詞の性数の考え方が理解できる (3)挨拶など基礎的な表現ができる (4)基礎的な語彙を使うことができる (5)動詞の活用ができる</p> <p>これらに加え、とりわけブラジル人との日常的なコミュニケーションに関わる文化の知識(食文化、交通など)を身につけることも目標とします。</p>
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	<p>期末試験(70%)、授業5回毎に行う小テスト(3回実施で各10%、計30%) 小テストは第5回、第9回、第13回の授業内で実施します。各小テストは、翌週に返却し解説します。</p>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>毎回先入観なく新しい内容を学習していただきたいため、予習は不要とします。 ただし、復習は授業直後と授業直前に必ず毎回30分ほど行ってください。</p>
教科書・参考書	<p>(教科書) 市之瀬敦他. 『Boa Sorte!-会話で学ぶポルトガル語-』. 朝日出版社.</p> <p>(参考書) 黒澤直俊他(編). 『デイリー日葡英・葡日英辞典』. 三省堂. 市之瀬敦他(編). 『プログレッシブポルトガル語辞典』. 小学館.</p> <p>その他、資料配布や、自習用アプリの紹介などいたします。</p>
オフィス・アワー	<p>授業前、授業後の時間 (火曜日1限は授業前後、火曜日4限は授業前、水曜日2限は授業前後)</p>
国家試験出題基準	特になし
履修条件・履修上の注意	<p>5回以上の欠席がある場合は期末試験を受けられません。 また、特別な事情がない場合の30分以上の遅刻は欠席と見なします。 就職活動や特別な事情による欠席は考慮いたします。</p> <p>大学生として相応な英語力と意欲、情熱があることが望ましいです。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
西谷 泉			

授業形態	演習	担当者
授業計画	第1回 情報と検索の活用 情報の意義と情報収集の方法、具体的な活用について学ぶ テキスト：(A:第1章)情報と検索の活用 参照 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第2回 インターネットの仕組み インターネットの仕組みと情報活用について学ぶ テキスト：(A:第13章)インターネットの仕組み、 参考(B:第3章)インターネットの技術 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第3回 情報セキュリティ 情報セキュリティの基本的な考え方を学ぶ テキスト (A:第12章)情報セキュリティ 参考(B:第5章)情報セキュリティ 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第4回 情報発信の方法とモラル 情報発信、ICTコミュニケーションの特徴と情報モラルについて学ぶ テキスト (A:第14章)情報発信の方法とモラル 参考(B:第6章)情報倫理 参照 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第5回 文書作成の基本 文書作成の基本、文章作成の基本事項を学ぶ テキスト (A:第2章)文書作成の基本 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第6回 レポートの作成 (1) ～基本形式とワープロの基礎～ レポートの作成について MS-Wordを用いて、基本形式を学ぶ テキスト(A:第3章)レポートの作成 (1) ～基本形式とワープロの基礎～ 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第7回 レポートの作成 (2) ～表作成とデータ管理～ レポート作成における表作成、データ管理について基本事項を学ぶ テキスト (A:第4章)レポートの作成 (2) ～表作成とデータ管理～ 参照 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第8回 レポートの作成 (3) ～画像の挿入と文章校正～ レポート作成における画像挿入、文書校正について基本事項を学ぶ テキスト (A:第5章)レポートの作成 (3) ～画像の挿入と文章校正～ 参照 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第9回 プレゼンテーション (1) ～スライド作成の基本～ プレゼンテーションの基本的な概念と具体的方法を学ぶ テキスト (A:第10章)プレゼンテーション (1) ～スライド作成の基本～ 参照 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第10回 プレゼンテーション (2) ～効果的なプレゼンとは～ 効果的なプレゼンテーションを行うための基本事項について学ぶ テキスト (A:11章)プレゼンテーション (2) ～効果的なプレゼンとは～ 参照 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第11回 表計算 (1) ～表計算の基本～ スプレッドシートによるデータ処理の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第6章)表計算 (1) ～表計算の基本～ 参照 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第12回 表計算 (2) ～絶対参照とIF～ スプレッドシートによるセル参照の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第7章)表計算 (2) ～絶対参照とIF～ 参照 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第13回 表計算 (3) ～グラフ作成と分析～ スプレッドシートによるグラフ作成の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第8章)表計算 (3) ～グラフ作成と分析～ 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第14回 表計算 (4) ～抽出と並べ替え～ スプレッドシートによるデータ処理の基本的概念をMS-Excelを用いて学ぶ テキスト (A:第9章)表計算 (4) ～抽出と並べ替え～ 参照 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第15回 情報を集め、まとめる 情報収集と情報発信、情報をまとめることの意義について学ぶ テキスト (A:第15章)情報を集め、まとめる 参照 課題等は返却はしない	西谷 泉

科目の目的	現代社会には情報があふれており、私たちはそのかなりの量を情報通信機器を使って得る。大学での学習も情報通信機器を扱うスキルによって影響を受けることは確実である。本科目では大学での学びを充実させるために、情報通信機器の基本的な操作を学ぶ。具体的には、Wordを使用した文書作成・編集の基本技術、Excelの基本、計算機能、ビジュアルな文書作成、インターネットの活用、ワークシートの活用などについて学び、合計、平均の計算、関数の活用、最大・最小、グラフ作成、データベースの基本事項、データのソート、検索、集計、Power Point、プレゼンテーションなどについての演習を行う。[技能・表現]
到達目標	パーソナルコンピュータや、インターネットを通して情報を活用する能力を身につける。また、情報の意味、伝達の意義について学習する。 個別目標： 1. 情報の概念について説明できる。 2. パーソナル・コンピュータのの基本操作が行える。 3. ワードプロセッサ、スプレッドシート、プレゼンテーション・アプリケーションを用いて情報表現、情報操作が行える。
関連科目	情報リテラシー
成績評価方法・基準	演習課題（授業毎の演習課題60%、Eラーニング・ミニテスト40%）100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	この授業では、インターネット上のクラウド型学習コンテンツサービスを利用して、授業、自己学習、関連項目の学習、ミニテストを演習を通して実施します。関連する項目を1時間程度の事前学習で理解し、併せて関連サイトを自己学習することが望まれます。
教科書・参考書	教科書：日経パソコンEduクラウド型教育コンテンツ提供サービス：日経BP出版 (A)基本から分かる情報リテラシー 日経BP出版（群馬パース大学団体契約版）
オフィス・アワー	未定
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	大学から恵与されるWindowsタブレットを持参してください。

講義科目名称：情報リテラシー

授業コード：2P035

英文科目名称：information literacy

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
西谷 泉			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 OSとアプリケーションソフト ハードウェアとソフトウェア パソコンEdu. (B) 第1章 OSとアプリケーションソフト 1. OSとは何か 2. アプリケーションソフト 課題等は返却はしない</p>	西谷 泉
	<p>第2回 コンピュータの仕組み（1） コンピューターシステムの基本的なしくみについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第2章 コンピューターの仕組み 1. コンピューターの歴史 2. コンピューターの処理の基本 3. 文字コードとフォント 課題等は返却はしない</p>	西谷 泉
	<p>第3回 コンピュータの仕組み（2） コンピューターシステムの基本的なしくみについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第2章 コンピューターの仕組み 4. パソコンの仕組み 5. タブレットとスマートフォン 6. 周辺機器と光ディスク 課題等は返却はしない</p>	西谷 泉
	<p>第4回 インターネットの技術（1） インターネットの仕組みについて技術的側面から学ぶ パソコンEdu. (B) 第3章 インターネットの技術 1. LAN/無線LAN 2. インターネットの仕組み 3. Webページとブラウザ 課題等は返却はしない</p>	西谷 泉
	<p>第5回 インターネットの技術（2） インターネットの仕組みについて技術的側面から学ぶ パソコンEdu. (B) 第3章 インターネットの技術 4. 電子メールの仕組み 5. ネットサービスとは何か 課題等は返却はしない</p>	西谷 泉
	<p>第6回 マルチメディア 様々なマルチメディアについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第4章 マルチメディア 1. マルチメディアと音声データ 2. 画像データと動画データ 3. ファイル圧縮 課題等は返却はしない</p>	西谷 泉
	<p>第7回 情報セキュリティ（1） 情報を扱う上で重要な情報セキュリティについてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第5章 情報セキュリティ 1. コンピューターウイルスの正体 2. ネット詐欺から身を守る法 課題等は返却はしない</p>	西谷 泉
	<p>第8回 情報セキュリティ（2） 情報を扱う上で重要な情報セキュリティについてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第5章 情報セキュリティ 3. 情報漏洩と暗号化 4. パスワードの正しい管理法 パソコンEdu. ネットの脅威と対策 強いパスワードの現実解 課題等は返却はしない</p>	西谷 泉
	<p>第9回 情報倫理 情報を扱う上で重要な情報倫理についてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第6章 情報倫理 1. 情報社会の権利と法律 課題等は返却はしない</p>	西谷 泉
	<p>第10回 著作権と個人情報保護 情報を扱う上で重要な著作権についてその基本的概念を学ぶ パソコンEdu. (B) 第6章 情報倫理 2. 著作権の基礎と著作物の活用 パソコンEdu. 著作権の基礎と著作物の活用 参考 課題等は返却はしない</p>	西谷 泉
	<p>第11回 ネットコミュニケーション インターネットに代表されるネットワークコミュニケーションについて学ぶ パソコンEdu. (B) 第6章 情報倫理 3. ネットコミュニケーションの作法 パソコンEdu. パソコン法律相談所、メールの作法 参考 課題等は返却はしない</p>	西谷 泉

	第12回	情報と社会 身の回りのコンピューターシステムを通して情報と社会について学ぶ パソコンEdu. (B) 第7章 情報と社会 1. 身の回りのコンピューターシステム 2. 電子マネー 3. 情報デザインの作法 参考 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第13回	SNSによる情報収集と情報発信 ソーシャルネットワークサービスについて情報収集と発信について学ぶ パソコンEdu. ネットサービス活用術 SNS (ソーシャルネットワークサービス) 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第14回	情報収集と保管・管理 クラウドサービスによる情報保管と管理について学ぶ パソコンEdu. ネットサービス活用術 Web/クラウドサービス 参考 課題等は返却はしない	西谷 泉
	第15回	情報リテラシーのまとめ 情報リテラシーのまとめ この科目を通して、学んだこと習得した知識、技術を確認しよう。 課題等は返却はしない	西谷 泉
科目の目的	情報通信技術の発展に伴い、その技術に通じることは現代社会で生きていくためには不可欠な要素となっている。情報通信技術は便利で欠かせないものではあるが、その使い方を一歩誤ると、他者を傷つけたり、犯罪となったり、あるいは犯罪に巻き込まれたりすることになる。大きな社会問題に発展するケースも少なくない。本科目では、情報通信機器にあふれた現代社会を生きる一員として、情報通信技術を使う際の基本的なルールやモラルについて学ぶ。また学生各自が自らの学習や研究、将来医療専門職として仕事に利用するための情報セキュリティの考え方を学ぶ。[知識・技能]		
到達目標	情報と意思決定の関係やメディアリテラシーの重要性を理解する。 個別目標： 1. さまざまな情報メディアを通して情報を活用する能力を身につける。 2. マルチメディアによる情報表現の手法を理解し、基本的ルールやモラルを説明できる。 3. 情報表現における倫理を理解し、情報セキュリティを実践できる。		
関連科目	情報処理		
成績評価方法・基準	演習課題（授業毎の演習課題60%、Eラーニング・ミニテスト40%）100%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	この授業では、インターネット上のクラウド型学習コンテンツサービスを利用して、授業、自己学習、関連項目の学習、ミニテストを演習を通して実施します。 関連する項目を1時間程度の事前学習で理解し、併せて関連サイトを自己学習することが望まれます。		
教科書・参考書	教科書：日経パソコンEduクラウド型教育コンテンツ提供サービス；日経BP出版 (A)基本から分かる情報リテラシー 日経BP出版（群馬バース大学団体契約版） （＊ 前期「情報処理」で使用した教科書ですので、再度購入する必要はありません。）		
オフィス・アワー	未定		
国家試験出題基準			
履修条件・履修上の注意	大学から恵与されるWindowsタブレットを持参してください。		

講義科目名称：囲碁で学ぶ情報戦略

授業コード：2P036

英文科目名称：Strategic Information by Go

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
土屋 仁	青木喜久代	徳重祐美子	内林 由香

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（自己紹介） 授業進行の説明</p> <p>第2回 ルール解説（6路盤） 基本を理解する。：囲碁の5つのルールに関する説明、石を取る練習</p> <p>第3回 ルールの復習、終局の説明（6路盤） 工夫をする重要性を学ぶ。：6路盤を用いて実践対局、囲碁の終局の解説</p> <p>第4回 9路対局と終局の理解（9路盤） 状況判断ができる。：9路盤模範囲碁の解説と実践</p> <p>第5回 9路対局と石を取るための初歩的技術 自分で決断できる。：9路盤模範囲碁の解説と実践</p> <p>第6回 問題演習①（19路盤） 布石の考え方を身に着ける。：ルールの理解と確認</p> <p>第7回 模範碁の解説と対局①（19路盤） 実行した結果に責任を持つ。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第8回 模範碁の解説と対局②（19路盤） 見えていることが見えていないことを知る。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第9回 模範碁の解説と対局③（19路盤） 欲張ると破たんすることを知る。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第10回 模範碁の解説と対局④（19路盤） 正しい大局観を持てるようになる。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第11回 9子局の解説、連碁対局（19路盤） 局所的判断と大局観が両立できる。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第12回 模範碁の解説と対局⑤ ペア碁対局（19路盤） 先を読み力できる。：19路盤模範囲碁の解説とペア碁の実践対局</p> <p>第13回 模範碁の解説と対局⑥（19路盤） 考える習慣がつく。：19路盤模範囲碁の解説と実践対局</p> <p>第14回 問題演習① 解説、囲碁の世界 頑張ってもできない経験ができる。：石の取り方、二眼生きの解説</p> <p>第15回 代表者対局（まとめ）（19路盤） すぐすべきこと、後でも可能なことの判断力を磨く。：19路盤で学生代表ペア2組、と9子局での対局</p>	<p>青木喜久代</p> <p>青木喜久代</p> <p>青木喜久代</p> <p>青木喜久代</p> <p>青木喜久代</p> <p>青木喜久代</p> <p>青木喜久代</p> <p>青木喜久代</p> <p>青木喜久代</p> <p>青木喜久代</p> <p>青木喜久代</p> <p>青木喜久代</p> <p>青木喜久代</p> <p>青木喜久代</p> <p>青木喜久代</p> <p>青木喜久代</p> <p>青木喜久代</p> <p>青木喜久代</p>
科目の目的	<p>囲碁のルールを習得し、19路盤で対局ができるようになること。囲碁は日本の伝統文化だけではなく、国際的にも広く普及し親しまれているゲームである。このゲームに勝つには大局観が必要であり、この大局観を実践を通じて判断力、分析力、集中力、問題を解決する能力を養うことができる。この大局観は、医療現場において、必要欠くべからざるものである。特に当直や、日直等、業務を一人でこなす場合には、自己判断でトリアージ（検査における優先順位）を付け、業務を行わなければならない。このトリアージを実践に置き換えて学ぶことができる。このことは、多様な情報を適切に分析し、問題を解決する方法を身に着けることができる。</p>	
到達目標	「考える力」、「判断力」を磨き、先を読む力を習得する。	
関連科目	救急・免疫・感染症学	
成績評価方法・基準	ミニテスト（実践アンケート含む：毎回、次回の講義で解説する）（20%）、6、12回演習問題（80%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の授業内容について復習を行い理解しておくこと。 ・準備学習時間の目安は20分。 	
教科書・参考書	<p>教科書：光文社新書「東大教養囲碁講座」</p> <p>参考書：日本棋院「実践囲碁総合演習」</p>	
オフィス・アワー	随時（昼休みが良い）	
国家試験出題基準		

履修条件・履修上の注意	
-------------	--

講義科目名称：大学の学び入門

授業コード：2P124 2P125

英文科目名称：Introduction to College Learning

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
杉田 雅子	星野 修平	榎本 光邦	

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 科目の説明、大学生の学習・生活、アカデミック・スキルとスチューデント・スキル 科目の目的・目標・進め方の説明、高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違い、アカデミック・スキル、スチューデント・スキルとは</p> <p>第2回 調べる 情報を探す</p> <p>第3回 インターネットリテラシー インターネット利用のルールとマナー 1</p> <p>第4回 インターネットリテラシー インターネット利用のルールとマナー 2</p> <p>第5回 聞く・読む・考える 授業の受け方、本や資料の読み方、考える力をつけるには</p> <p>第6回 書く：レポートの書き方 1 レポートとは何か レポート作成の手順</p> <p>第7回 書く：レポートの書き方 2 論文作法</p> <p>第8回 書く：レポートの書き方 3 レポートの形式</p> <p>第9回 相手の話を聴く ロールプレイを通して基本的なカウンセリングの技法を体験する。</p> <p>第10回 自分の気持ちや考えを伝える グループワークを通し、自分の感情や意思をわかり易く伝える練習をする。</p> <p>第11回 協力して作業する これまでのワークを通して身につけたスキルを活用し、周囲と協力して課題を達成する</p> <p>第12回 自分自身の課題を見つける 入学以来の自身の学習と生活を検証し、学習、生活両面の自己課題を見出す</p> <p>第13回 書く：レポートを書く レポート作成の実践</p> <p>第14回 書く：レポートを書く レポート作成の実践</p> <p>第15回 書く：レポートを書く レポート作成の実践、提出（レポートは後日、評価コメントとともに返却する）</p>	<p>杉田</p> <p>杉田</p> <p>星野</p> <p>星野</p> <p>杉田</p> <p>杉田</p> <p>杉田</p> <p>杉田</p> <p>榎本</p> <p>榎本</p> <p>榎本</p> <p>杉田</p> <p>杉田</p> <p>杉田</p> <p>杉田</p>
科目の目的	<p>大学での学習形態や学問に対する姿勢、大人としての生活態度を認識、理解し、高校生までの学習・生活から大学生の学習・生活に移行することができるように、基本的なスキル、姿勢を学ぶ。</p> <p>1. 与えられた知識や技術を身に付けていく高校までの学習から、自ら課題を見つけ、それを解決していく大学の学習のためのスキルの習得、姿勢の理解</p> <p>2. 高校までの大人に守られた生活から、責任ある大人としての生活のためのスキルと姿勢の理解。【知識・理解】</p>	
到達目標	<p>1. 大学での学習に必要な学習習慣・学習技術（アカデミック・スキル、情報処理に関するスキル、ルール、マナー）を理解し、授業やレポートで実践できる。</p> <p>2. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、大学生活で実践できる。（スチューデント・スキル、コミュニケーションスキル）</p>	
関連科目	全科目	
成績評価方法・基準	杉田担当課題（50%）、星野担当課題（20%、課題に対するフィードバックはAAにて掲示を行う）、榎本担当意見文・感想文（30%、意見文・感想文の内容に対するフィードバックは次回の講義の冒頭に行う）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前回授業の重要事項を見直しておくこと。約45分間。	
教科書・参考書	なし。プリントを使用。	
オフィス・アワー	杉田：授業の前後、昼休み、4号館8階26研究室 星野：授業の前後、昼休み、4号館7階研究室 榎本：月、水、木、金の昼休み、1号館3階305、1号館学生相談室、4号館学生相談室	

国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	講義資料はActive Academy上で配布するので、各自プリントアウトして授業に持ってきてください。配布期間は授業の前後1週間。

講義科目名称：大学の学び－専門への誘い－

授業コード：2P038

英文科目名称：Introduction to Healthcare Profession

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
中 徹	岡崎・木村あ	黒川・城下	高橋ま・鈴木
	北村・橋口	目黒・浅田	鳥海

授業形態	講義5コマ・演習10コマ			担当者
授業計画	第1回	保健科学総論【講義】 保健科学の概要と成り立ちを学ぶ 学ぶ 1. 病と人間 2. 保健科学の基礎としてのヘルスリテラシーのあらまし		木村あ
	第2回	保健科学総論【講義】 保健科学を具他のな事例に即して理解する 1. ヘルスリテラシーの活用 2. 文化とヘルスリテラシー		木村あ
	第3回	グループワークへの導入～専門を学ぶということ【講義】 専門を学ぶことの実践的な意義を知った上で、グループワークの方法論を理解		中・岡崎
	第4回	グループワーク：理学療法を学ぶ学生が、今すべきことの検討1【演習】 理学療法士としての能力を習得するために今すべき（できる）ことの模索1		中・岡崎
	第5回	グループワーク：理学療法を学ぶ学生が、今すべきことの検討2【演習】 理学療法士として具体化した能力を習得するために今すべき（できる）ことの模索2		中・岡崎
	第6回	グループワーク：理学療法を学ぶ学生が、今すべきことの検討3【演習】 理学療法士として能力を習得するために今すべき（できる）ことの視覚的具体化1		中・岡崎
	第7回	グループワーク：理学療法を学ぶ学生が、今すべきことの検討4【演習】 理学療法士として能力を習得するために今すべき（できる）ことの視覚的具体化2		中・岡崎
	第8回	グループワーク：理学療法を学ぶ学生が、今すべきことの共有 グループワークの結果のプレゼンテーション		中・岡崎
	第9回	理学療法士像の探求1：理学療法士の学科教員から話題提供と集団討論【演習】 理学療法士の経験談からのメッセージを受けて論議する		中・岡崎・黒川・城下
	第10回	理学療法士像の探求2：理学療法士の学科教員から話題提供と集団討論【演習】 理学療法士の経験談からのメッセージを受けて論議する		中・岡崎・目黒・橋口
	第11回	理学療法士像の探求3：理学療法士の学科教員から話題提供と集団討論【演習】 理学療法士の経験談からのメッセージを受けて論議する		中・岡崎・浅田・鳥海
	第12回	理学療法士像の探求4：理学療法士の学科教員から話題提供と集団討論【演習】 理学療法士の経験談からのメッセージを受けて論議する		中・岡崎・鈴木・北村
	第13回	理学療法士像の探求5：理学療法士の学科教員から話題提供と集団討論【演習】 理学療法士の経験談からのメッセージを受けて論議する		中・岡崎・木村
	第14回	理学療法士像の探求6：理学療法士の学科教員から話題提供と集団討論【演習】 理学療法士の経験談からのメッセージを受けて論議する		中・岡崎・高橋
	第15回	理学療法士像の探求のまとめ【講義】 集団討議で提案された内容を整理して理解する		中・岡崎
科目の目的	グループワーク学習と集団ディスカッションを通じて、保健学の観点をを持った上で、自らの理学療法士像を育み、明確専門基礎分野、専門分野の学習の学ぶ意義とを明確にすること。 本授業はディプロマポリシー4の「関心・意欲を高めること」を目的とした科目である。			
到達目標	1. 保健学の概要の理解の上に理学療法の職務内容と職域が説明できる。 2. 理学療法士を目指す学生として必要な社会的な礼節およびコミュニケーションをもって行動できる。 3. 自らの理学療法士像を説明することができる。 4. 理学療法を学ぶことに興味を持ち、主体的・意欲的に学ぶ姿勢を示すことができる。			
関連科目	全ての専門基礎科目、理学療法概論			
成績評価方法・基準	提出課題（40％）、発言や司会および記録などグループ討議への参加状況（30％）、発表点（30％）			
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1-2講義は公衆衛生学を復習しておくこと（毎回45分程度） その他の回は講義と演習なので、毎回の復習や振り返り作業を行うこと（毎回30～45分程度） グループディスカッション時を中心にフィードバックを行う			
教科書・参考書	木村朗担当分 身体活動学入門 三共出版 必要に応じて資料を配布する。			
オフィス・アワー	毎週月曜日12:00～13:00（担当教員全員）			
国家試験出題基準	国家試験出題基準には該当しない			

履修条件・履修上の注意	他人の意見をよく聞き、自ら発信するトレーニングとしても位置づけている授業ですので、積極的に受講してください。
-------------	--

講義科目名称：多職種理解と連携

授業コード：2P039

英文科目名称：Multidisciplinary Understanding and Cooperation

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
中 徹	矢島 正栄	亀子 光明	土屋 仁
	芝本 隆		

授業形態	講義15コマ	担当者
授業計画	第1回 チーム医療についての総説的な理解	中 徹
	第2回 チーム医療における理学療法士の役割を知る	中 徹
	第3回 臨床検査技師とは－職務と職域を知る	亀子 光明
	第4回 臨床検査技師の仕事の実際を知る	亀子 光明
	第5回 臨床検査技師とチーム医療について	亀子 光明
	第6回 診療放射線技師とは－職務と職域を知る	土屋 仁
	第7回 診療放射線技師の仕事の実際を知る	土屋 仁
	第8回 診療放射線技師とチーム医療について	土屋 仁
	第9回 臨床工学技士とは－職務と職域を知る	芝本 隆
	第10回 臨床工技士の仕事の実際を知る	芝本 隆
	第11回 臨床工技士とチーム医療について	芝本 隆
	第12回 看護師・保健師・助産師とは 看護師・保健師・助産師の職務と職域	矢島 正栄
	第13回 看護師・保健師・助産師の仕事 看護師・保健師の仕事の実際を知る	矢島 正栄
	第14回 看護師・保健師・助産師の仕事 助産師の仕事	早川有子
	第15回 チーム医療における理学療法士の役割の発展的理解	中 徹
科目の目的	医療は複数の職種がそれぞれの専門性を全うし、かつ相互に協力し合って行われて人間を守る行為であるというチーム医療論を理解する。 本授業はディプロマポリシー1の「知識・理解能力を高めること」を目的とした科目である。	
到達目標	①各医療専門職の職務と職域が説明できる ②各医療専門職の具体的な仕事内容を知ることができる ③自らの専門職と他専門職との連携について考えることができる	
関連科目	理学療法概論 リハビリテーション概論	
成績評価方法・基準	レポート100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習として、学科の職種におけるチームワーク医療、および各回の他の学科の職種について事前に下調べを30分程度で行うこと。復習として、理解し得た事項を箇条書きにしてノートにまとめておくこと（30分程度）。	
教科書・参考書	特に指定しないが、授業資料が提供される可能性がある。	
オフィス・アワー	藤田先生は講義終了後の時間に対応可 芝本先生は月曜日～木曜日の午後（16:00～18:00）メール可（tshibamoto@paz.ac.jp） 中先生は月曜日12：15～15：00 土屋先生は随時相談可能 矢島先生は随時相談可能	
国家試験出題基準	特に該当しない	

履修条件・履修上の注意	最初2コマと最後1コマが学科のチーム医療論で、残りは3コマずつ他学科の職種理解とチーム医療の話です。最終回の1コマでレポート課題が出されますので、全ての講義をよく聴いて受講してください。
-------------	---

講義科目名称：解剖学Ⅰ

授業コード：2P040

英文科目名称：AnatomyⅠ

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
浅見知市郎			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 序論1 解剖学とは何か 器官とその系統 上皮組織 支持組織	浅見知市郎
	第2回 序論2 筋組織 神経組織 人体の外形と方向用語	浅見知市郎
	第3回 骨格系1 骨格とは何か 骨の形 骨の構造 骨の発生と成長 骨の連結・関節	浅見知市郎
	第4回 骨格系2 頭部の骨 脳頭蓋 顔面頭蓋 鼻腔・副鼻腔	浅見知市郎
	第5回 骨格系3 脊柱 胸郭 上肢帯の骨 上腕の骨	浅見知市郎
	第6回 骨格系4 前腕の骨 手の骨 下肢帯の骨 骨盤 大腿の骨 下腿の骨 足の骨	浅見知市郎
	第7回 筋系1 筋の構造と機能 頭頸部の筋	浅見知市郎
	第8回 筋系2 胸腹部の筋 上肢帯の筋 上腕の筋 前腕の筋 手の筋	浅見知市郎
	第9回 筋系 3 下支帯の筋 大腿の筋 下腿の筋 足の筋	浅見知市郎
	第10回 神経系1 神経系の構成 中枢神経系（脊髄 延髄 橋 中脳 小脳）	浅見知市郎
	第11回 神経系2 中枢神経系（間脳 大脳）	浅見知市郎
	第12回 神経系3 脳室 脳脊髄膜 脳脊髄液 末梢神経（脳神経）	浅見知市郎
	第13回 神経系4 末梢神経（脳神経 脊髄神経）	浅見知市郎
	第14回 神経系5 末梢神経（脊髄神経） 自律神経（交感神経 副交感神経）伝導路（反射路 求心性伝導路 遠心性伝導路）	浅見知市郎
	第15回 総復習 ここまでの内容に関する練習問題で総復習を行う。	浅見知市郎
科目の目的	医療技術者としての基本知識となる運動器・神経系の肉眼解剖学的構造を習得する。 【知識・理解】	
到達目標	骨格・筋・神経系の基本的な構造を説明できる。	
関連科目	解剖学Ⅱ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ	
成績評価方法・基準	定期試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyで事前配布するレジュメを理解しながら通読すると、概ね1時間かかるはずである。	
教科書・参考書	教科書：「入門人体解剖学」藤田恒夫（南江堂） 参考書：「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学」野村嵯ほか（医学書院） 「ネッター解剖学アトラス」相磯貞和訳（南江堂）	
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける（木曜10：30～10：40）。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する（asami@paz.ac.jp）。	
国家試験出題基準	【理学療法士】 ≪専門基礎≫-Ⅰ-1-A-a B-a, b, c, d C-a, b D-a, b H-d, e I-a, b J-a	
履修条件・履修上の注意	Active Academyによるレジュメの配付期間：講義の1週間前から1週間後まで。各自印刷して持参するか、PCにダウンロードして持参するかは自由。	

講義科目名称：解剖学Ⅱ

授業コード：2P041

英文科目名称：Anatomy II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
浅見知市郎			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 脈管系1 血管系総論 心臓 刺激伝導系 心臓の血管(冠状動脈) 肺循環と体循環	浅見知市郎
	第2回 脈管系2 動脈系 静脈系	浅見知市郎
	第3回 脈管系3 胎生時の循環系 リンパ系(リンパ節 リンパ本幹) 脾臓 胸腺	浅見知市郎
	第4回 脈管系4 消化器系1 血液 血球 造血組織 内臓学総論(粘膜 腺) 口腔(歯)	浅見知市郎
	第5回 消化器系2 口腔(口蓋 舌 唾液腺) 咽頭 食道 胃	浅見知市郎
	第6回 消化器系3 小腸(十二指腸 空腸 結腸) 大腸(盲腸 結腸 直腸) 肝臓	浅見知市郎
	第7回 消化器系4 呼吸器系1 胆嚢 膵臓 鼻腔 副鼻腔	浅見知市郎
	第8回 呼吸器系2 喉頭 気管 気管支 肺	浅見知市郎
	第9回 泌尿器系 生殖器系1 腎臓 尿管 膀胱 尿道 男性生殖器(精巣 精巣上体精管 精嚢 前立腺)	浅見知市郎
	第10回 生殖器系2 男性生殖器(陰茎 精液 精子) 女性生殖器(卵巣 卵管 子宮 膣 外陰部 胎盤) 腹膜	浅見知市郎
	第11回 内分泌系 内分泌系(下垂体 松果体 甲状腺 上皮小体 副腎 膵島)	浅見知市郎
	第12回 感覚器系1 視覚器(眼球 眼球の付属器) 平衡聴覚器(外耳 中耳 内耳)	浅見知市郎
	第13回 感覚器系2 発生学1 皮膚(表皮 真皮 皮下組織 角質器 皮膚の腺) 受精から着床 発生の第2週・第3週	浅見知市郎
	第14回 発生学2 発生の第4週～第8週 胎生第3月～出生	浅見知市郎
	第15回 総復習 ここまでの内容に関する練習問題で総復習を行う。	浅見知市郎

科目の目的	医療技術者としての基本知識となる脈管・内臓・発生の肉眼解剖学的構造を習得する。 【知識・理解】
到達目標	脈管・内臓の基本的な構造と発生学について説明できる。
関連科目	解剖学Ⅰ 生理学Ⅰ 生理学Ⅱ
成績評価方法・基準	定期試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyで事前配布するレジュメを理解しながら通読すると、概ね1時間かかるはずである。
教科書・参考書	教科書：「入門人体解剖学」藤田恒夫(南江堂) 参考書：「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学」野村嵯ほか(医学書院) 「ネッター解剖学アトラス」相磯貞和訳(南江堂)
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける(火曜14:30~14:40)。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する(asami@paz.ac.jp)。
国家試験出題基準	【理学療法士】 《専門基礎》-I-1-A-b A-b E-a, b, c, d F-a, b, c, d G-a I-c 2-K-f, g L-a, b, c M-a P-a, b Q
履修条件・履修上の注意	Active Academyによるレジュメの配付期間：講義の1週間前から1週間後まで。各自印刷して持参するか、PCにダウンロードして持参するかは自由。

講義科目名称：解剖学実習

授業コード：2P042

英文科目名称：Practice in Anatomy

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
浅見知市郎			

授業形態	講義17回 実習6回	担当者
授業計画	第1回 骨学各論1 頭蓋（外面・内面・個々の骨） 脊柱・胸郭 第2回 骨学各論2 上肢帯・自由上肢骨 第3回 骨学各論3 下肢帯・骨盤・自由下肢骨 第4回 骨学実習1 骨標本のスケッチ1回目 第5回 骨学実習2 骨標本のスケッチ2回目 第6回 骨学実習3 骨標本のスケッチ3回目 第7回 骨学実習4 骨標本のスケッチ4回目 第8回 骨学実習5 骨標本のスケッチ5回目 第9回 骨学実習6 骨標本のスケッチ6回目 第10回 関節靭帯総論 骨の連結 関節の構造と機能 第11回 関節靭帯各論1 頭蓋の連結 脊柱、脊柱と頭蓋および胸郭の連結 第12回 関節靭帯各論2 上肢の連結（上肢帯の連結 自由上肢骨の連結） 第13回 関節靭帯各論3 上肢の連結（手の連結） 下肢の連結（下肢帯の連結 股関節） 第14回 関節靭帯各論4 下肢の関節（膝関節 膝蓋大腿関節 脛骨と腓骨の連結 足の関節） 第15回 神経系総論 神経系の発生（脊髄の発生 脳の発生 末梢神経系の発生） 第16回 神経系各論1 中枢神経系（脊髄 延髄 橋 中脳） 第17回 神経系各論2 中枢神経系（小脳 間脳 大脳半球） 第18回 神経系各論3 中枢神経系（大脳基底核 神経路） 第19回 神経系各論4 末梢神経系 脊髄神経（頸神経 頸神経叢 腕神経叢 胸神経） 第20回 神経系各論5 脊髄神経（腰神経 腰神経叢 仙骨神経 仙骨神経叢 尾骨神経叢） 第21回 神経系各論6 脳神経（嗅神経 視神経 動眼神経 滑車神経 三叉神経 外転神経） 第22回 神経系各論7 脳神経（顔面神経 内耳神経 舌咽神経 迷走神経 副神経 舌下神経） 第23回 神経系各論8 自律神経系（交感神経系 副交感神経系 壁内腸神経系）	浅見知市郎
科目の目的	解剖学Ⅰ・Ⅱで学んだ知識の上に理学療法士として必要な骨格・関節・靭帯・神経系の詳細な知識を習得する。 【技能・表現】	
到達目標	1、全身の骨の詳細な構造について説明できる。	

	2、全身の重要な関節・靭帯について説明できる。 3、中枢神経系（脳・脊髄）、末梢神経（脳神経・脊髄神経）の詳細な構造について説明できる。
関連科目	解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、各専門科目
成績評価方法・基準	定期試験70% 授業内レポート30%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyに事前配布するレジユメを理解に努めながら通読すると、概ね1時間かかるはずである。
教科書・参考書	教科書：「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学」野村嗟ほか（医学書院） 「ネッター解剖学アトラス」相磯貞和訳（南江堂） 参考書：特になし
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける（前期木曜14：30～14：40、後期月曜16：10～16：20）。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する（asami@paz.ac.jp）。
国家試験出題基準	《専門基礎》- I -1-B-a, b, c, d C-a, b D-a, b
履修条件・履修上の注意	Active Academyによるレジユメの配付期間：講義の1週間前から1週間後まで。 各自印刷して持参するか、PCにダウンロードして持参するかは自由。

講義科目名称：表面解剖学と触診法

授業コード：2P043

英文科目名称：Surface Anatomy and Palpation

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
浅田 春美	黒川 望		

授業形態	小人数グループによる実技演習	担当者
授業計画	<p>第1回 触診の準備<解剖学の知識を復習> 骨標本（全身）を用いての演習<骨、骨部位の名称と特徴の確認.> 「骨・骨部位（主に筋の付着部・骨指標となる部位）の名称を指し示して言うことができる」 「頭蓋骨から足部まで左右を区別して骨を並べることができる」</p> <p>第2回 触診講義の学習の仕方/触診手技の練習 体表面から触診する場合の骨、関節、筋、靭帯の触れ方（ポイント）の練習 ・第1回講義内容（骨・骨部位の名称）の小テスト ⇒第3回講義にて返却</p> <p>第3回 頭頸部・上肢<肩甲帯・肩・上腕> 主に骨・関節の触診</p> <p>第4回 上肢<肩甲帯・肩・上腕>・体幹 主に軟部組織（筋・靭帯・動脈の拍動）の触診</p> <p>第5回 上肢<前腕・肘・上腕> 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第6回 上肢<前腕・手関節・手> 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第7回 上肢<前腕・手関節・手> 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第8回 上肢実技の確認 前半（上肢部分）の骨・関節・筋について触診の実技確認を実施<3分/1人程度></p> <p>第9回 下肢<骨盤・股関節> 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第10回 下肢<骨盤・股関節> 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第11回 下肢<膝関節・下腿> 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第12回 下肢<膝関節・下腿> 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第13回 下肢<下腿・足関節・足部> 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第14回 下肢<下腿・足関節・足部> 主に骨・関節・軟部組織の触診</p> <p>第15回 実技試験（全範囲） 全範囲（上肢・下肢）の骨・関節・靭帯・動脈の拍動について触診の実技確認 実技確認終了後、個別でフィードバックを実施。60%未満の場合、補習を行った後、再度、実技確認を行う。</p>	<p>浅田春美, 黒川望</p> <p>浅田春美, 黒川望</p> <p>浅田春美, 黒川望</p> <p>浅田春美, 黒川望</p> <p>浅田春美, 黒川望</p> <p>浅田春美, 黒川望</p> <p>浅田春美, 黒川望</p> <p>浅田春美, 黒川望</p> <p>浅田春美, 黒川望</p> <p>浅田春美, 黒川望</p> <p>浅田春美, 黒川望</p> <p>浅田春美, 黒川望</p> <p>浅田春美, 黒川望</p> <p>浅田春美, 黒川望</p> <p>浅田春美, 黒川望</p> <p>浅田春美, 黒川望</p> <p>浅田春美, 黒川望</p>
科目の目的	<p>1. 解剖学の知識を基に手または指を用いて、皮下にある組織の形・大きさ・硬さ・位置・固有の運動性などを識別する 技術を習得する。</p> <p>2. 運動学Ⅰ，理学療法評価学と並行して授業が進むため，運動器の構造と機能の関連をより深く理解し，検査・測定技術の基礎固めを目的とする。 【技能・表現】</p>	
到達目標	<p>1. 骨の部位，関節裂隙，靭帯，筋，腱，動脈を触知により区別できる（対学生）。</p> <p>2. 体表から触れることができるそれらの部位を解剖学アトラスで参照できる。</p> <p>3. これらの名称（筋については，起始・停止・作用）を述べることができる。</p> <p>4. 実技では，最も触知しやすい肢位や運動を相手に分かりやすい言葉で指示できる。</p>	
関連科目	解剖学Ⅰ，運動学Ⅰ，運動学Ⅱ，専門科目全般	
成績評価方法・基準	筆記定期試験（50%）・実技授業内試験（50%） それぞれ60%以上の正解率	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>・解剖学で学んだ骨や筋の名称を復習しておくこと</p> <p>・筋の「起始・停止・作用」は、教科書「運動療法のための機能解剖学的触診技術」において予習・復習しておく</p> <p>・配布資料の実施予定日の内容を確認し、該当する教科書のページを予習・復習とも読んでおく</p>	

	<p>・講義終了後、学生同士で実技練習を行い、不明な点を積極的に教員に質問する（直後または次回講義開始時）</p> <p><予習・復習：各1時間程度要する></p>
教科書・参考書	<p>【教科書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 林 典雄著：「運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢」，メディカルビュー，2017 2. 林 典雄著：「運動療法のための機能解剖学的触診技術 下肢」，メディカルビュー，2017 3. 相磯貞和 訳：「ネッター解剖学アトラス」第6版，南江堂，2016 <p>【参考書】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Stanley Hoppenfeld著・野島元雄監訳：図解 四肢と脊椎の診かた，医歯薬出版，1984 2. 藤原理著：筋と骨格の触診術の基本，マイナビ，2013 3. 竹井仁著：触診機能解剖カラーアトラス上下，文光堂，2008.
オフィス・アワー	水曜日： 12：10～13：00，17：50～18：30
国家試験出題基準	≪専門基礎≫－I－1－B－d、C－b、D－a、H－a、b
履修条件・履修上の注意	<p>実技演習を行うため、準備をしていない場合、履修できないことがある</p> <p><指輪、時計など不必要なものを外し、手や手指のケアを心がける（爪・傷など）></p> <p><可能な限り直接、皮膚に触れるため脱衣しやすく、動きやすい服装を準備する></p>

講義科目名称：生理学 I

授業コード：2P044

英文科目名称：Physiology I

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
洞口 貴弘			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 ガイダンス 生理学の基礎の基礎 生理学講義を受講するにあたって 細胞・組織・器官 第2・3回 神経の基本的機能 神経細胞の形態、興奮伝導、興奮伝達 第4・5回 筋肉の基本的機能 筋細胞の形態と興奮、骨格筋の収縮 第6-8回 神経系の機能 末梢神経系(体性神経系、自律神経系)、中枢神経系、運動機能の調節 第9-12回 感覚の生理学 様々な感覚の受容と知覚のメカニズム 第13-15回 睡眠・記憶・情動 脳の高次機能	洞口 貴弘 洞口 貴弘 洞口 貴弘 洞口 貴弘 洞口 貴弘 洞口 貴弘
科目の目的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける(ディプロマポリシー01「知識・理解」に相当)	
到達目標	選択肢の中から、正しい人体の機能や、それを生み出すしくみを選ぶことができる	
関連科目	解剖学 I・II、生化学	
成績評価方法・基準	講義題目毎に小テストを行う(解答・解説はAAにて行う) 小テストの平均点×0.7+期末試験の点数×0.3 で最終的な評価を決定する 公欠以外の欠席は、原則最終成績から1回につき10点減点する	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容および小テストや期末テストの内容は、指定した教科書に準ずる そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる(約2時間)	
教科書・参考書	教科書：「シンプル生理学 第7版」貴邑富久子、根木英雄(南江堂) 参考書：「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 「トートラ 人体の構造と機能」(丸善) 他	
オフィス・アワー	講義実施日の18:00~19:00	
国家試験出題基準	<<専門基礎>>-I-2-A-a <<専門基礎>>-I-2-B-a, b <<専門基礎>>-I-2-C-a, b, c, d, e, f, g, h, i <<専門基礎>>-I-2-D-a, b, c, d, e <<専門基礎>>-I-2-E-b <<専門基礎>>-I-2-F-a, b, c, d <<専門基礎>>-I-2-G-a, b	
履修条件・履修上の注意	15コマ講義なので、5回の欠席で履修放棄となるので注意	

講義科目名称：生理学Ⅱ

授業コード：2P045

英文科目名称：Physiology II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
洞口 貴弘			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1・2回 内分泌系の機能 ホルモンの一般的特徴、内分泌器官の機能 第3-5回 循環の生理学 心臓血管系の基本構造と機能、調節 第6・7回 呼吸の生理学 呼吸器系基本構造と機能、調節 第8・9回 尿の生成と排泄および体液とその調節 腎臓の構造と機能、調整、尿生成、蓄尿と排尿、体液の恒常性を維持する仕組み 第10・11回 消化と吸収 消化管の基本構造と機能、調節 第12・13回 血液の生理学 血液の組成とその機能 第14・15回 体温とその調節 体温の意義とその調節メカニズム	洞口 貴弘 洞口 貴弘 洞口 貴弘 洞口 貴弘 洞口 貴弘 洞口 貴弘 洞口 貴弘
科目の目的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける(ディプロマポリシー01「知識・理解」に相当)	
到達目標	選択肢の中から、正しい人体の機能や、それを生み出すしくみを選ぶことができる	
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生化学	
成績評価方法・基準	講義題目毎に小テストを行う(解答・解説はAAにて行う) 小テストの平均点×0.7+期末試験の点数×0.3 で最終的な評価を決定する 公欠以外の欠席は、原則最終成績から1回につき10点減点する	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容および小テストや期末テストの内容は、指定した教科書に準ずる そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる(約2時間)	
教科書・参考書	教科書：「シンプル生理学 第7版」貴邑富久子、根木英雄(南江堂) 参考書：「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 「トートラ 人体の構造と機能」(丸善) 他	
オフィス・アワー	講義実施日の18:00~19:00	
国家試験出題基準	<<専門基礎>>-I-2-E-a <<専門基礎>>-I-2-H-a, b, c, d <<専門基礎>>-I-2-I-a, b, c, d <<専門基礎>>-I-2-J-a, b, c, d <<専門基礎>>-I-2-K-a, b, c, d, e, f, g <<専門基礎>>-I-2-L-a, b, c <<専門基礎>>-I-2-M-a <<専門基礎>>-I-2-N-a, b, c <<専門基礎>>-I-2-O-a, b <<専門基礎>>-I-2-P-a, b	
履修条件・履修上の注意	15コマ講義なので、5回の欠席で履修放棄となるので注意	

講義科目名称：生理学実習

授業コード：2P046

英文科目名称：Practice in Physiology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
洞口 貴弘			

授業形態	実習		担当者
授業計画	第1-2回	ガイダンス 生理学実習履修にあたっての諸注意 レポートの書き方 統計処理法を学ぶ	洞口 貴弘
	第3-4回	浸透圧 卵半透膜を使用し、浸透圧を理解する	洞口 貴弘
	第5-6回	血圧 血圧を測定し、そのメカニズムを理解する	洞口 貴弘
	第7-8回	酸塩基平衡 酸性・塩基性物質を摂取し、酸塩基平衡のメカニズムについて理解する	洞口 貴弘
	第9-10回	血糖値とその変化 糖質を摂食し、血糖値制御のメカニズムについて理解する	洞口 貴弘
	第11-12回	随意運動時の筋電図 荷重負荷時の筋電図を記録し、筋の収縮メカニズムについて理解するとともに、電気生理学機器について習熟する	洞口 貴弘
	第13-14回	心電図 標準肢誘導により心電図を記録し、心臓の活動電位について理解する	洞口 貴弘
	第15-16回	ストレス反応 ストレス負荷をかけた際の生体反応を計測し、その発生メカニズムを理解する	洞口 貴弘
	第17-18回	記録電極と刺激電極の極性の違いによる活動電位の向きと神経の興奮性 尺骨神経を刺激して誘発される筋電図を用い、記録電極と刺激電極の極性を変えることで波形にどのような変化が生じるかを理解するとともに、刺激装置について習熟する	洞口 貴弘
	第19-20回	骨格筋の収縮 カエル神経筋標本を作成・刺激し、骨格筋の収縮メカニズムを理解する	洞口 貴弘
	第21-22回	神経の興奮と伝導 カエル神経標本を作製・刺激し、神経の興奮とその伝導メカニズムを理解する	洞口 貴弘
	第23-24回	誘発筋電図 ヒト脛骨神経を刺激して下腿三頭筋の筋電図を誘発し、中枢および末梢神経系と筋を理解する	洞口 貴弘
科目の目的	生理学の講義で学習した人体の機能について実際に確認し、理解を深める(ディプロマポリシー01「知識・理解」に相当)		
到達目標	種々の生理学機能測定器具を用い、人体の機能に関するデータの収集し、判読できるようになる 他者に得られたデータを分かりやすく報告することができるようになる		
関連科目	生理学Ⅰ・Ⅱ、解剖学Ⅰ・Ⅱ		
成績評価方法・基準	試験60%、レポート30%(実習内でフィードバックする)、実習態度10% で最終成績を算出する 公欠以外の欠席は、原則前半または後半の最終成績から10点減点する		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	既に履修済みである、生理学Ⅰ、Ⅱの復習(約1時間)		
教科書・参考書	教科書：特に無し 参考書：「シンプル生理学」(南江堂) 「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 他		
オフィス・アワー	実施日の18:00~19:00		
国家試験出題基準	<<専門基礎>>-I-2-B-b <<専門基礎>>-I-2-C-b, c, d, f, g, h <<専門基礎>>-I-2-D-c, d <<専門基礎>>-I-2-F-a <<専門基礎>>-I-2-G-a <<専門基礎>>-I-2-H-b, c, d <<専門基礎>>-I-2-N-a		
履修条件・履修上の注意	毎週レポートが課せられ、その量は決して少なくない そのため、自らを律し、効率良くレポートを作成するよう心がけること		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
江口 勝彦			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 コースオリエンテーション・運動生理学概論 この科目のコースオリエンテーションと学習方法などについて 理学療法と運動生理、運動生理学の定義・分類、体力とは</p> <p>第2回 筋の運動生理学 1 筋の分類と骨格筋構造</p> <p>第3回 筋の運動生理学 2 筋収縮とエネルギー供給、筋収縮の様式と筋線維分類、筋のタンパク質</p> <p>第4回 筋の運動生理学 3 筋節長と張力、筋の粘弾性、筋力、筋の形態（筋長、筋線維長、羽状角）と機能</p> <p>第5回 筋の運動生理学 4 トレーニングと筋節長・筋断面積・筋線維タイプの変化</p> <p>第6回 筋の運動生理学 5 筋肥大のメカニズム、筋疲労、筋電図</p> <p>第7回 呼吸の運動生理学 1 呼吸整理の記号と用語、呼吸運動、換気</p> <p>第8回 呼吸の運動生理学 2 血液ガス</p> <p>第9回 呼吸の運動生理学 3 酸素解離曲線、呼吸と酸塩基反応、運動と呼吸</p> <p>第10回 呼吸の運動生理学 4 運動と呼吸調整、呼吸筋と呼吸筋トレーニング</p> <p>第11回 循環の運動生理学 1 身体運動と心血管反応</p> <p>第12回 循環の運動生理学 2 心電図の異常とその臨床的意義</p> <p>第13回 循環の運動生理学 3 心電図の異常とその臨床的意義</p> <p>第14回 エネルギー代謝と運動生理学 1 嫌気性代謝と好気性代謝、代謝当量 (METS)</p> <p>第15回 エネルギー代謝と運動生理学 2 エネルギー消費と運動負荷試験、持久性トレーニング</p>	江口 勝彦 江口 勝彦 江口 勝彦 江口 勝彦 江口 勝彦 江口 勝彦 江口 勝彦 江口 勝彦 江口 勝彦 江口 勝彦 江口 勝彦 江口 勝彦 江口 勝彦 江口 勝彦 江口 勝彦
科目の目的	<p>理学療法は、英語でPhysical Therapy（主に米国を中心に）、Pysiothrapy（主に英国を中心に）と表されるが、このPhysio-とは、PhysiologyのPhysio-であり、「治療介入により生理学的作用を得るもの」であると理解できる。運動の制御に関係する「神経生理学」とならんで、運動の発現や維持に関係するこの「運動生理学」は大変重要な領域であり、深い理解が求められる。通常、「生理学」は、安静時を中心とした人体の正常生理学であるのに対し、運動生理学は、運動する（行っている）人体の生理学である。</p> <p>本講義においては、特に理学療法学上、重要かつ必須とされる運動生理学の中から「運動と筋」、「運動と呼吸」、「運動と循環」、「運動とエネルギー代謝」に関する正常生理学を中心に学習する。特に、呼吸・循環を含むエネルギー代謝について理解し、各種運動療法を施行する上で生体に対する運動の影響、さらには、運動の効用として各種スポーツ、メタボリックシンドローム対策など健康増進分野の理学療法を考える。（知識・理解）</p>	
到達目標	<p>「運動と筋」、「運動と呼吸」、「運動と循環」、「運動とエネルギー代謝」に関する正常生理学の基礎を理解し、運動時の各種反応、身体変化を生理学的に理解できることを到達目標とする。</p> <p>到達目標の一部を下記に示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動生理学とは何かを理解する ・体力について理解する ・筋肉とは何かを理解する ・筋収縮について理解する ・呼吸運動について理解する ・換気について理解する ・呼吸と酸塩基反応について理解する ・運動と呼吸について理解する ・運動時の循環反応について理解する ・急激な運動時の心血管反応について理解する ・心電図の異常波形とその臨床的意義について理解する ・基本的なエネルギー代謝について理解する ・酸素摂取能力の診断について理解する 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器負荷試験について理解する ・持久性トレーニングの生理学的効果について理解する <p>各单元ごとに、到達目標・行動目標を示すとともに、学生自身が学習の到達状況を知る為に、形成的評価の一部としてミニクイズを実施する。</p>
関連科目	<p>関連し合う科目－解剖学，生理学，生化学，栄養学 この科目が基礎となる科目－各理学療法評価・治療学</p>
成績評価方法・基準	<p>形成的評価（ミニクイズ），総合評価（筆記試験），受講態度などを総合的に評価する。ミニクイズおよび筆記試験では，すべてにおいて毎回60%を合格最低ラインと定める。原則として欠席時の点数は0点と扱う。講義期間を通して任意に出席を確認する。出席を確認した内，出席率2/3に満たない場合は，総合評価の試験を受けることができない場合がある。講義の邪魔になるような態度（遅刻・私語・他）がみられた場合は，受講を許可しない。成績の配分は，形成的評価（ミニクイズ）30%，総合評価（筆記試験）70%を基準とする。</p>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>1) 毎回，事前に講義予定部分に関する「生理学」の復習を十分しておくこと。講義の中で該当部分の生理学（静的人体正常生理）についても復習するが，基本的には既に理解しているものとして講義を進める。 2) ほぼ毎回，講義の最初に，基礎事項と前回の講義内容の理解度を確認する為にミニクイズを行う。復習を必ず行うこと。 3) 講義時間内に質問などを行い十分理解することが望ましいが，理解不足や疑問点などは参考図書などで補い，それでもわからない場合は電子メール（別途指示）にて質問を受け付ける。</p> <p>1単位30時間の講義なので，15時間の自己学習が必要である。すなわち，1回の講義に対し，予習復習を含め1時間の自己学習を要する。</p>
教科書・参考書	<p>指定教科書： ・小山勝弘・安藤大輔 編著：運動生理学。三共出版。 ・オリジナル印刷教材</p> <p>参考書： コースオリエンテーション時，紹介する。</p>
オフィス・アワー	<p>講義の前後とする。 電子メール（別途指示）にて質問を受け付ける。</p>
国家試験出題基準	<p>《専門基礎》－I-2-B, I-2-C, I-2-F, I-2-G, I-2-H, I-2-I, I-2-O, I-3-A-d, I-3-A-e, I-3-A-f 《専門》－I-3-B-c, I-3-D, II-3-C-d, II-3-C-e, II-7-F, II-8-A,</p>
履修条件・履修上の注意	<p>印刷資料の配布方法は別途指示する。 運動負荷試験の実技演習（少人数グループによる）については，別途専任教員より指示がある。</p>

講義科目名称：生化学

授業コード：2P048

英文科目名称：Biochemistry

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
高橋 克典			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 生化学入門～ 生体化学成分の基礎 ～ 生体を構成する主な化学成分について概説する。また細胞の基本構造および、それぞれの細胞小器官の役割について生化学的な視点から解説する。</p> <p>第2・3回 生体成分の構造と機能 I～ 糖質と病態 ～ 三大栄養素の一つである糖質について、その分類や代謝経路などを中心に解説する。また、インスリンやグルカゴンのような糖質制御ホルモンと病態との関係を解説する。</p> <p>第4-6回 生体成分の構造と機能 II～ 脂質と病態 ～ 三大栄養素の一つである脂質について、①エネルギー源としての役割、②生体膜構成成分としての役割、③生理活性シグナル因子としての役割を中心に解説する。また、生体内における脂質の代謝異常と病態との関係を解説する。</p> <p>第7・8回 生体成分の構造と機能 III～ タンパク質・アミノ酸と病態 ～ 三大栄養素の一つであるタンパク質について、その分類や代謝経路などを中心に解説する。また、タンパク質を構成するアミノ酸の分類、性質、病態との関連などについて解説する。</p> <p>第9回 生体成分の構造と機能 IV～ 遺伝子と病態 ～ RNAやDNAを構成する核酸の構造や性質を解説する。また、DNAの翻訳からタンパク質の生合成までのメカニズムを解説する。さらに、遺伝子の変異に伴い発症する病態について解説する。</p> <p>第10・11回 生体成分の構造と機能 V～ ビタミンの役割と病態 ～ 微量栄養素であるビタミンの分類と機能を解説する。また、脚気、懐血病などビタミン欠乏に伴い発症する病態について解説する。</p> <p>第12・13回 生体成分の構造と機能 VI～ ミネラルの役割と病態 ～ 生体に不可欠なミネラルの種類および欠乏症、過剰症について解説する。</p> <p>第14回 ホメオスタシスとホルモン ホルモンの分類とそれぞれの標的組織について解説する。また、ホルモンの分泌異常による疾患について解説する。</p> <p>第15回 臓器の生化学 人体の各臓器（循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経系）における生化学的な代謝機能および関連疾患を概説する。</p>	高橋 克典 高橋 克典 高橋 克典 高橋 克典 高橋 克典 高橋 克典 高橋 克典 高橋 克典 高橋 克典
科目の目的	生命現象の基本原則とそれに関連する病態を分子レベルで理解することで、化学的根拠に基づいた視点を養う。【知識・理解】	
到達目標	生体内の様々な化学物質による生命現象を理解したうえで、それらが各種病態においてどのように変化するかを理解する。	
関連科目	化学A・B、生物学A・B、生理学I・II	
成績評価方法・基準	定期試験（90%）章末テスト（10%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	有機化学および生物学の基礎知識を必要とする。準備学習に必要な学習時間の目安は概ね1時間程度。	
教科書・参考書	教科書：栄養科学シリーズ NEXT 生化学（講談社） 参考書：シンプル生化学（南江堂）	
オフィス・アワー	講義終了後（10時30～12時10分）教室または研究室にて質問を受け付ける 質問は E-mail（k-takahashi@paz.ac.jp）でも随時受け付ける	
国家試験出題基準	人体の構造と機能及び心身の発達-I-2-N-a, 人体の構造と機能及び心身の発達-I-2-N-b, 人体の構造と機能及び心身の発達-I-2-J-a, 人体の構造と機能及び心身の発達-I-2-K-d, 人体の構造と機能及び心身の発達-I-2-K-e, 人体の構造と機能及び心身の発達-I-2-K-f, 人体の構造と機能及び心身の発達-I-2-K-g	
履修条件・履修上の注意	特になし	

講義科目名称：運動学 I

授業コード：2P049

英文科目名称：Kinesiology I

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
高橋 正明			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 コースオリエンテーション 運動学とは？ 関節運動 形態と機能	高橋正明
	第2回 運動の原則1 生体力学 てこ バランス 支持基底面と重心	高橋正明
	第3回 運動の原則2 生体力学 てこ バランス 支持基底面と重心	高橋正明
	第4回 運動器系組織1 骨・関節・靭帯の組織と役割	高橋正明
	第5回 運動器系組織2 筋の発生と組織 収縮のメカニズム	高橋正明
	第6回 運動器系組織3 筋力 収縮様式 筋張力 共同運動	高橋正明
	第7回 機能解剖足部1 足関節の形態と運動	高橋正明
	第8回 機能解剖足部2 足部・足関節の形態と機能	高橋正明
	第9回 機能解剖足部3 筋の働き	高橋正明
	第10回 機能解剖足部4 アーチ構造	高橋正明
	第11回 機能解剖膝関節1 膝関節の形態と機能 (足部・足関節クイズ・フィードバック)	高橋正明
	第12回 機能解剖膝関節2 半月・靭帯の構造と機能	高橋正明
	第13回 機能解剖膝関節3 筋の働き	高橋正明
	第14回 機能解剖膝関節4 立位での膝の役割	高橋正明
	第15回 機能解剖股関節1 股関節の形態と機能 (膝関節クイズ・フィードバック)	高橋正明
	第16回 機能解剖股関節2 骨盤・股関節の運動	高橋正明
	第17回 機能解剖股関節3 筋の働き	高橋正明
	第18回 機能解剖股関節4 股関節の力学	高橋正明
	第19回 機能解剖体幹1 脊柱の形態と機能 (股関節クイズ・フィードバック)	高橋正明
	第20回 機能解剖体幹2 脊柱の運動	高橋正明
	第21回 機能解剖体幹3 筋の働き	高橋正明
	第22回 機能解剖体幹4 胸郭運動	高橋正明
	第23回 機能解剖体幹5 骨盤の運動	高橋正明
	第24回 機能解剖肩・肩甲帯1 肩甲帯・肩関節の機能と構造 (体幹クイズ・フィードバック)	高橋正明
	第25回 機能解剖肩・肩甲帯2 肩甲帯の関節と運動	高橋正明

	第26回	機能解剖肩・肩甲帯3 肩関節の運動	高橋正明
	第27回	機能解剖肩・肩甲帯4 筋の働き	高橋正明
	第28回	機能解剖肘関節1 肘関節の機能と構造 (肩甲帯クイズ・フィードバック)	高橋正明
	第29回	機能解剖肘関節2 肘関節の運動	高橋正明
	第30回	機能解剖肘関節3 筋の働き	高橋正明
科目の目的	人の身体運動を機能－構造の視点から分析するのに必要となる基本的な知識や概念を学び、自分自身の関節運動を説明することができる。【知識・理解】		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関節運動の原則とバランス保持について説明できる。 2. 頸部・体幹・肢節の関節運動を機能－構造的見方で説明できる。 3. 骨、関節、筋等の運動器が関節運動において果たす役割を説明できる。 4. 代表的な関節の構造物が果たす役割について可動性と安定性の要素で分類、説明できる。 		
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ 生理学Ⅰ・Ⅱ 運動学Ⅱ 運動学実習 運動生理学 表面解剖学と触診法 臨床動作分析学 運動療法総論 運動器系理学療法評価・治療学 神経系理学療法評価・治療学 日常生活活動学 他		
成績評価方法・基準	各関節ごとの機能解剖学小テスト(クイズ)を80%、骨・関節・筋および力学についての試験を20%として総合点を算出し60点以上を合格とする。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	運動学は応用科学であるため、四肢体幹の解剖学の基礎知識を前提に授業を進める。該当する部分を解剖学の教科書で確認しておくこと。30分～45分の準備学習が必要。		
教科書・参考書	<p>教科書 「標準理学療法学・作業療法学 運動学」高橋正明編 (医学書院) 「基礎運動学 第6版補訂」中村隆一, 他著(医歯薬出版)</p> <p>参考書 「関節の生理学Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ」Kapandjid LA 著おいお(医歯薬出版) 「筋骨格系のキネシオロジー」D. A. Neumann著(医歯薬出版) 「Kinesiology」Oatis CA (Lippincott Williams & Wilkins)</p>		
オフィス・アワー	火曜日 15:00～16:00、木曜日 12:30～13:30 「10月16日 訂正」		
国家試験出題基準	≪専門基礎≫-Ⅰ-3-A-abcdef, B-abcde		
履修条件・履修上の注意	解剖学用語の知識を前提に授業を進めるため、それらを教科書で確認しておくこと。		

講義科目名称：運動学Ⅱ

授業コード：2P050

英文科目名称：Kinesiology II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
浅田 春美	高橋 正明		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 機能解剖 1 肘関節の形態と機能	高橋正明
	第2回 機能解剖 2 肘関節、手関節の形態と機能	高橋正明
	第3回 機能解剖 3 前半：肘関節のクイズとフィードバック 後半：指の形態と機能)	高橋正明
	第4回 機能解剖 4 手指の筋の働き 手の役割	高橋正明
	第5回 機能解剖5 手指の筋の働き 手の役割	高橋正明
	第6回 機能解剖 6 手関節・手指のクイズとフィードバック	高橋正明
	第7回 機能解剖 7 顎関節と咀嚼運動 仙腸関節の機能と構造	高橋正明
	第8回 力のモーメント 力のモーメントとは 3つのテコ	浅田春美
	第9回 神経組織と反射 1 中枢神経の働き 反射運動	浅田春美
	第10回 神経組織と反射 2 姿勢反射と立ち直り反応	浅田春美
	第11回 神経組織と反射 3 姿勢保持 平衡反応と感覚器 随意運動	浅田春美
	第12回 姿勢と動作 姿勢の定義	浅田春美
	第13回 正常歩行動作 1 歩行の定義/歩行周期	浅田春美
	第14回 正常歩行動作 2 歩行の決定要因	浅田春美
	第15回 正常歩行動作 3 歩行周期と筋活動	浅田春美
科目の目的	運動学Ⅰで触れなかった肘関節、手指および顎関節の機能解剖、および反射と運動、姿勢と動作(基本動作、歩行動作を含む)、について学習する。【知識と理解】	
到達目標	1. 肘関節、手指・手関節、顎関節、仙腸関節の運動を機能一構造的見方で説明できる。 2. 運動に必要な感覚器を同定しそれらのメカニズムが説明できる。 3. 運動に関する神経組織の役割を説明できる。 4. 正常歩行動作についてそのメカニズムを説明できる。 5. 力のモーメントの基本、テコについて説明できる。	
関連科目	関連し合う科目：解剖学Ⅰ・Ⅱ 運動学Ⅰ 表面解剖学と触診法 生理学Ⅰ・Ⅱ この科目が基礎となる科目：理学療法評価学 運動器系理学療法評価・治療学 神経系理学療法評価・治療学 臨床動作分析学 日常生活活動学 他	
成績評価方法・基準	機能解剖については小テストを実施(50%)、それ以外の内容については定期試験に含む(50%)。60%以上を合格とする	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	項目が多岐にわたるため各項目毎に3時間以上の予習・復習を必要とする	
教科書・参考書	教科書 ・高橋正明編：「標準理学療法学・作業療法学 運動学」,医学書院,2012 ・中村隆一他著：「基礎運動学 第6版」,医歯薬出版, ・「病気がみえるvol.7脳・神経」,MEDIC MEDIA,2015	
オフィス・アワー	高橋：火曜日15：00～16：00、木曜日12：30～13：30 浅田：火曜日12：10～13：00、金曜日12：10～13：00	

国家試験出題基準	《専門基礎》- I -3-D, E, F
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：運動学実習

授業コード：2P051

英文科目名称：Practice in Kinesiology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
岡崎 大資	目黒 力	城下貴司	橋口 優

授業形態	実習16回・講義8回		担当者
授業計画	1. 講義	オリエンテーション 実習の手引きと実修書を配布し、授業内容とレポート作成の方法についてオリエンテーションする。	岡崎
	2. 講義	姿勢・動作の基礎 姿勢の運動学的基礎	岡崎
	3. 講義	歩行の基礎と評価法 歩行の運動学的基礎	岡崎
	4. 講義	歩行の基礎と評価法 歩行時の関節運動の観察	岡崎
	5. 講義	重心位置測定のオリエンテーション 重心位置の測定	目黒 岡崎
	6. 講義	バランス時重心位置推定のオリエンテーション バランス時重心位置推定	目黒 岡崎
	7. 実習	重心位置の測定 (1) てこを用いた身体重心位置の推定1	目黒 岡崎
	8. 実習	重心位置の測定 (2) てこを用いた身体重心位置の推定2	目黒 岡崎
	9. 実習	重心位置の測定 (3) (目黒 力・岡崎大資) セグメント法に基づく身体重心計測1	目黒 岡崎
	10. 実習	重心位置の測定 (4) セグメント法に基づく身体重心計測2	目黒 岡崎
	11. 実習	バランス時重心位置推定 (1) ランドマークを基準とした立位姿勢アライメントの計測1	目黒 岡崎
	12. 実習	バランス時重心位置推定 (2) (目黒 力・岡崎大資) ランドマークを基準とした立位姿勢アライメントの計測2	目黒 岡崎
	13. 実習	バランス時重心位置推定 (3) 重心動揺計を用いた重心線の測定1	目黒 岡崎
	14. 実習	バランス時重心位置推定 (4) 重心動揺計を用いた重心線の測定2	目黒 岡崎
	15. 講義	筋電計・筋収縮様式測定のオリエンテーション	岡崎 城下 橋口
	16. 講義	3次元動作解析・運動学習のオリエンテーション	岡崎 城下 橋口
	17. 実習	筋電計を用いた動作分析 (1) 筋電計を用いた筋収縮様式の計測	岡崎 城下 橋口
	18. 実習	筋電計を用いた動作分析 (2) 筋電図処理方法の実習	岡崎 城下 橋口
	19. 実習	3次元動作解析装置を用いた動作分析 (1) 歩行路を設定し、歩行時の床反力、関節モーメントの計測1	岡崎 城下 橋口
	20. 実習	3次元動作解析装置を用いた動作分析 (2) 歩行時の床反力、関節モーメントの分析1	岡崎 城下 橋口
	21. 実習	筋収縮様式の理解と関節モーメント (1) 等尺性・等速性筋収縮様式を理解し、関節モーメントを測定	岡崎 城下 橋口
	22. 実習	筋収縮様式の理解と関節モーメント (2) 環境操作に伴う、関節モーメントの相違の検討	岡崎 城下 橋口
	23. 実習	運動学習過程の理解と測定 (1) 運動学習過程の理解と測定	岡崎 城下 橋口
	24. 実習	運動学習過程の理解と測定 (2) 学習の転移の検討	岡崎 城下 橋口
科目の目的	(1) レポートを作成するために必要な単位や数値のまとめ方、レポートの構成や体裁などを学び、自分自身の		

	<p>歩行に関する測定実習を行い、身体動作を運動としてとらえる視点と定量的にとらえるということを学ぶ。</p> <p>(2) 身体重心の位置や重心動揺、姿勢保持時の各肢節間のアラインメントの測定など自分自身を対象とした測定実習を行い、基本的姿勢と動作について力学的理解を深める。</p> <p>(3) 運動や動作を解析する各種手法についてグループで実習し、運動学における分析法を修得する。</p> <p>【技能・表現】</p>
到達目標	<p>(1) 人の運動・動作を分析し、運動学的用語を用いた記述ができる。</p> <p>(2) 運動学的分析方法を習得し得られた結果より臨床的意義について理解を深める。</p> <p>(3) 実習内容を客観的に記述したレポート作成できる。</p>
関連科目	運動学Ⅰ、運動学Ⅱ、臨床動作分析学、解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、生理学Ⅰ、生理学Ⅱ
成績評価方法・基準	実習レポート（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習：運動学Ⅰ・Ⅱで学んだ内容の復習と実習の手引き、実習書を熟読のうえ各実習単元にて行う内容を理解した状態で授業に臨むこと。（60分）
教科書・参考書	<p>教科書：指定しない。</p> <p>運動学実習の手引き、実習書を各自に配布する。</p> <p>参考書：基礎運動学（第6版）中村隆一．医歯薬出版</p>
オフィス・アワー	各担当教員の授業後とする
国家試験出題基準	<p>《専門基礎》- I-3-B-b, c, d</p> <p>《専門基礎》- I-3-D, E, F</p>
履修条件・履修上の注意	<p>運動学・解剖学・生理学等で学んだ知識をリンクさせ各計測・分析を実施するため、基礎知識の予習が必要である。</p> <p>講義開始前に実習書を熟読し、スムーズな実習を行えるように準備をすること。また、実習を中心とした授業であるため、受け身ではなく自ら学ぼうとする態度で受講すること。積極的な授業への参加を望む。</p> <p>実習レポートの成績が不良の者は再提出を課す場合がある。原則として遅刻・欠席は認めない。</p>

講義科目名称：人間発達学

授業コード：2P052

英文科目名称：Human Development

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
中 徹			

授業形態	講義6コマ・演習9コマ	担当者
授業計画	<p>第1回 発達学の学問の周辺と発達の定義・運動発達と秩序性の理解（講義） 発達に関する用語の概念を解説する 発達に関する用語の概念を解説する</p> <p>第2回 マイルストーンと機能的な重要性・機能的メカニズム（講義） 発達学の方法論について解説する・発達の現象学と機能学について解説する</p> <p>第3回 正常運動発達の体験学習 実技1（演習） 背臥位・腹臥位の正常運動発達を体験学習する</p> <p>第4回 正常運動発達の体験学習 実技2（演習） ずり這いと四つ這い・座位と起き上がりの正常運動発達を体験学習する</p> <p>第5回 正常運動発達の体験学習 実技3（演習） 立ち上がり・つたい歩きの正常運動発達を体験学習する</p> <p>第6回 正常運動発達の体験学習 実技4（演習） 歩行の正常運動発達を体験学習する</p> <p>第7回 正常運動発達の体験学習 ワークショップ（演習）【時間内提出課題】 これまでの実技のプレゼンテーションを行う</p> <p>第8回 正常運動発達の体験学習実技まとめ（講義） 実技と講義を交えて正常運動発達についての知識を整理する</p> <p>第9回 姿勢反射と反応の基礎知識（講義） 運動制御における姿勢反射と反応の神経学的・運動学的な役割を理解する</p> <p>第10回 姿勢反射・反応の臨床と誘発実技1（演習） 原始反射の体験と誘発実技を行う</p> <p>第11回 姿勢反射・反応の臨床と誘発実技2（演習） 平衡反応の体験と誘発実技を行う</p> <p>第12回 姿勢反射・反応の臨床と誘発実技3（演習） 立ち直り反応の体験と誘発実技を行う</p> <p>第13回 姿勢反射・反応の臨床と誘発ワークショップ（演習） これまでの実技のプレゼンテーションを行う</p> <p>第14回 姿勢反射・反応の臨床と誘発実技まとめ（講義） 実技と講義を交えて姿勢反射・反応についての知識を整理する</p> <p>第15回 定型的な発達と非定型的な発達 発達の知識を理学療法に応用する（講義） 臨床における発達の障がいの現れ方について紹介する 理学療法に発達学の知識を応用するメリットを理解する 臨床における発達の障がいの現れ方の紹介・理学療法に発達学の知識を応用するメリットを理解する</p>	中 徹
科目の目的	理学療法に発達の知識を利用できることを知る 本授業はディプロマポリシー1の「知識・理解を高めること」を目的とした科目である。	
到達目標	定型発達の現象を説明でき、かつ模倣ができる 姿勢反射・反応の神経学的意義、臨床的意義を説明でき、姿勢反射検査ができる	
関連科目	基礎となる科目・・・運動学 将来繋がる科目・・・小児理学療法学・小児科学・臨床神経学Ⅰ（神経内科学）	
成績評価方法・基準	実技到達度確認40%＋提出課題10%＋定期試験50%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に配布する講義資料の該当部分およびテキストの該当部分を予習する（各回45分程度） 各回の内容と演習を復習する（各回45分程度）	
教科書・参考書	教科書1 理学療法・作業療法のための神経生理学プログラム演習2 運動発達と反射 反射検査の手技と評価 教科書2 シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト	
オフィス・アワー	月曜日12:15～15:00	
国家試験出題基準	《専門基礎》Ⅰ-3-M・N	
履修条件・履修上	演習をとるため、動きやすい服装にて受講すること	

講義科目名称：栄養学(含食品学)

授業コード：2P053

英文科目名称：Nutrition (inc. Food Science)

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
後藤 香織	看護学科と合同授業		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 栄養学の目的 1 食と私たち 食育を忘れないで 食育の必要性	後藤 香織
	第2回 主食と主菜と副菜 どのように選択するのか 自分たちの今の状況を把握せよ	後藤 香織
	第3回 献立の立て方 糖質の種類 献立とはなにか どうして重要なのか 糖質の構造を覚える	後藤 香織
	第4回 糖質の消化と吸収 糖質は最も重要な栄養素であり いかに体は賢く摂取しているのか知る	後藤 香織
	第5回 糖質の代謝 これが運動のエネルギー源である だから人間は進化できた	後藤 香織
	第6回 エネルギー量の算出 それぞれの学生諸君の使ったエネルギーはどれだけなのか 正しいのか 間違っているのか	後藤 香織
	第7回 脂質の化学 食べ物の脂と体の脂 悪玉は本当に悪玉なのか	後藤 香織
	第8回 脂質の代謝 脂質はどうやって体で使われるのか スポーツではどうしたら燃焼しているのか	後藤 香織
	第9回 蛋白質の化学 筋肉をつけるにはどうしたらいいのか	後藤 香織
	第10回 蛋白質の消化と吸収と代謝 どんな蛋白質が質が高い蛋白質なのか	後藤 香織
	第11回 ビタミンとはなにか どのように摂取する 森鷗外の大失態 ビタミン戦争 ビタミンと病気	後藤 香織
	第12回 ミネラルとは どんな病気になるのか カルシウムと鉄 賢い摂取方法は	後藤 香織
	第13回 どんな献立を作って食べればいいのか 献立の立て方 日本料理と西洋料理の献立 食品成分の計算	後藤 香織
	第14回 献立とスポーツ選手と病気 13回の続き 食品の選び方 スポーツと献立 嚥下障害 病気の時はどうしたらいいのか	後藤 香織
	第15回 まとめ 1回から14回までの内容の確認と復習	後藤 香織
科目の目的	捕食という行動は全てを中心であることを深く理解し、人が食べるという行為をどれだけ重要と考えなくてはならないかを知り、人体が必要とする栄養素を学ぶ。さらに自身の摂取エネルギーと消費エネルギーから必要な栄養量、栄養素、運動、休養を求め、よりよい健康状態を保つことを身に漬ける方法を学ぶ。国の施策である「食育」が大学生には危機的な状況であることを知り改善する為に、栄養・休養・運動の三要素を含めて解説する。本学のディプロマポリシーに沿い、保健医療専門職としての栄養学の基礎的知識と、社会人としての食に関する教養を身につけ、食に関する多様な情報を適切に分析し、問題解決する方法を理解し、保健医療分野と栄養学との関係を見出し、科学的洞察による的確な判断ができ、先進・高度化する栄養分野の基本的知識と技術を提供することや、栄養補給に関わるコミュニケーション能力を身につけ、生涯にわたって栄養に関する知識を身に付けて、自身が健康に過ごすことを身に付け、それを社会に貢献させる。【知識・理解】	
到達目標	基礎医学（解剖学、生理学、生化学）に関連した栄養学の基礎を学ぶ。また日々の食品摂取の判断ができるようにする。 栄養素と消化、吸収、代謝に関わる知識の習得、一日の消費カロリーの計算、一日の摂取エネルギーの計算、運動時の代謝、和食の伝統文化、美味しく感じる為の脳科学的方法を身につけます。 <ul style="list-style-type: none"> ・栄養学の基礎的知識と教養を身につけている。 ・栄養に関わる多様な情報を適切に分析し、問題解決する方法を理解している。 ・栄養分野の諸課題を見出し、科学的洞察による的確な判断ができる。 ・栄養学分野の基本的技術を提供することができる。 ・NSTを実践するための、コミュニケーション能力を身につけている。 ・生涯にわたって栄養分野を探索し、その発展に貢献する意欲を持っている。 ・人と社会に深い関心を持って、地域の栄養保健医療に寄与できる。 ・人権を尊重し、高い倫理観を持って社会に貢献する姿勢を身につけている。 	
関連科目	①解剖学Ⅰ・Ⅱ ②生化学 ③生理学 ④病理学	

成績評価方法・基準	定期試験85%（定期試験を85点満点とする） ミニテスト15%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校の生物学および、解剖学、生理学とを見直しておく。 成分表の後半のページを読んでおく。20分予習する。
教科書・参考書	教科書：新選 食品成分表（実教出版） 参考書：新体系看護学 人体の構造と機能2 栄養生化学（メジカルフレンド社） 看護栄養学（医歯薬出版） リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 第2版 栢下淳・若林秀隆 編著（医歯薬出版）
オフィス・アワー	授業の前後
国家試験出題基準	<理学療法士> 専門基礎分野 1-F-a 2-K-a～g 2-N a, b, c 3-G-1 5-f 13-h
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：医療概論

授業コード：2P054

英文科目名称：Survey of Medical Science

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
宗宮 真	宗宮 真		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 医療のシステムと実際 (1) 「医療関連職種」	宗宮 真
	第2回 医療のシステムと実際 (2) 「保健医療の提供体制・医療保険制度」	宗宮 真
	第3回 医療のシステムと実際 (3) 「医療・保健・福祉の現状」	宗宮 真
	第4回 医療のシステムと実際 (4) 「診療の流れ (患者中心の医療)」	宗宮 真
	第5回 医療のシステムと実際 (5) 「診療の流れ (診断、診療記録、チーム医療)」	宗宮 真
	第6回 医療のシステムと実際 (6) 「医療安全」	宗宮 真
	第7回 健康と疾病 (1) 「健康・疾病予防」	宗宮 真
	第8回 健康と疾病 (2)、既出事項の確認 「加齢・疾病・障害」、既出事項の確認	宗宮 真
	第9回 医学・医療の歩み 「医学・医療の歩み」	宗宮 真
	第10回 医療における課題 (1) 「医療機器・技術の発達」「医療従事者と生命倫理」	宗宮 真
	第11回 医療における課題 (2) 「臓器移植医療」	宗宮 真
	第12回 医療における課題 (3) 「遺伝子診断・出生前診断」	宗宮 真
	第13回 医療における課題 (4) 「救急医療・災害医療」	宗宮 真
	第14回 医療における課題 (5) 「ターミナルケア1 (総論：思想、ケアの実際)」	宗宮 真
	第15回 医療における課題 (6)、既出事項の確認 「ターミナルケア2 (各論：学生の意見発表)」、既出事項の確認	宗宮 真
科目の目的	医学・医療分野に関する各講義に先立ち、医学・医療の問題を幅広く概観し、専門分野の学習につなげる。 【知識・理解】	
到達目標	医療のシステム、医療の実際、健康と疾病、医学・医療の歩み、医療が抱える課題を幅広く理解し、考えることを目標とする。	
関連科目	臨床医学 (内科学、臨床神経学、整形外科学、臨床医学特殊講義、臨床検査・画像診断学、精神医学、小児科学、リハビリテーション医学、老年医学、救急・免疫・感染症学、公衆衛生学)、生命倫理など	
成績評価方法・基準	講義内で行う試験 (筆記試験を2回行う。時期や範囲等の詳細については教員が講義内で説明する。70%)、課題提出 (20%)、授業中の質問や確認問題への回答 (10%)。試験・課題等については、講義内で解説を行うなど、フィードバックを行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、次回授業までに、重要事項については自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。概ね1.5時間の授業外学習の時間を確保すること。	
教科書・参考書	教科書： 使用しない 参考書：「学生のための医療概論 (第3版増補版)」千代豪昭、黒田研二 (医学書院) 参考書：「ケースブック医療倫理」赤林朗、大林雅之ほか (医学書院)	
オフィス・アワー	講義終了後または水曜日昼休み (12時10分～50分、場所：6階研究室)。質問の内容により、別に時間を設定する場合がある。	
国家試験出題基準	《専門基礎》- II-1-A-a, b, c 《専門基礎》- II-1-B-a, b	
履修条件・履修上	前回講義の復習に利用する場合があるため、前回の配布資料を持参すること。	

講義科目名称：病理学

授業コード：2P055

英文科目名称：Pathology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
岡山 香里			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 病理学序論・組織細胞障害と修復機構1 病理学とは、変性	岡山香里
	第2回 組織細胞障害と修復機構2 アポトーシス、壊死	岡山香里
	第3回 組織細胞障害と修復機構3 再生、化生、瘢痕治癒	岡山香里
	第4回 物質代謝異常1 糖質代謝異常	岡山香里
	第5回 物質代謝異常2 脂質代謝異常	岡山香里
	第6回 物質代謝異常3 核酸代謝異常、生体内色素代謝異常、無機物代謝異常	岡山香里
	第7回 循環障害 1 循環血液量の異常	岡山香里
	第8回 循環障害2 閉塞性の循環障害	岡山香里
	第9回 循環障害3 傍側循環、全身性の循環障害	岡山香里
	第10回 炎症1 炎症とは、炎症の分類、炎症の経過	岡山香里
	第11回 炎症2 炎症の各型、自己免疫性疾患	岡山香里
	第12回 先天異常 遺伝子・染色体異常と発生発達異常	岡山香里
	第13回 腫瘍1 定義、分類、良性腫瘍と悪性腫瘍	岡山香里
	第14回 腫瘍2 腫瘍の発生、発育、分化度	岡山香里
	第15回 腫瘍3 腫瘍の発生要因、腫瘍の種類	岡山香里
科目の目的	病理学とは疾病の原因、発生メカニズムなど、疾病の本態を解明する学問である。病理学総論として代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍について疾病で生じる変化、経過、疾病の予後を捉え、理解ができるようにする。 【知識・理解】	
到達目標	1. 疾病の原因、経過、治療法、予後を説明できる。 2. 疾病の検査事項を説明できる。 3. 疾病の病理所見を説明できる。	
関連科目	解剖学	
成績評価方法・基準	定期試験80%、小テスト20%により成績を評価する。試験形態は筆記試験とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について予習、復習を行うこと。準備学習に必要な時間は1時間程度とする。	
教科書・参考書	教科書：講師が配布する資料（授業ごとに配布する） 参考書：なるほどなっとく！病理学 病態形成の基本的な仕組み 小林正伸著 南山堂	
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡(okayama@paz.ac.jp)によって随時対応する。	
国家試験出題基準	《疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進》-II-2-A-a 《疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進》-II-2-A-b	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：薬理学

授業コード：2P056

英文科目名称：Pharmacology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
栗田 昌裕			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 薬理学とは 薬理学の基本知識。薬物治療に影響を与える因子。	栗田昌裕
	第2回 薬物動態 投与経路と薬の吸収。分布、代謝、排泄。	栗田昌裕
	第3回 麻酔薬と中枢興奮薬 全身麻酔薬。局所麻酔薬。中枢興奮薬。	栗田昌裕
	第4回 解熱鎮痛薬・抗炎症薬と麻薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬。麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗性鎮痛薬。	栗田昌裕
	第5回 向精神薬と抗痙攣薬 向精神薬。抗痙攣薬（抗てんかん薬）。	栗田昌裕
	第6回 筋弛緩薬と抗パーキンソン薬 筋弛緩薬の作用と応用。パーキンソン症候群の理解と抗パーキンソン薬の作用。	栗田昌裕
	第6回 自律神経薬 自律神経の基礎知識。 コリン作動薬とコリン作動性効果遮断薬。 アドレナリン作動薬とアドレナリン遮断薬。	栗田昌裕
	第7回 オータコイド オータコイドの種類とその作用。プロスタグランディンの臨床応用。	栗田昌裕
	第8回 強心薬 強心薬（ジギタリス）の投与方法。ジギタリスの副作用とその対策。 抗狭心症薬と抗不整脈薬 狭心症治療薬の作用と投与方法。不整脈の分類と治療。抗不整脈薬の種類。	栗田昌裕
	第9回 利尿薬と降圧薬 利尿薬。利尿薬の臨床的応用。降圧薬。抗動脈硬化薬。	栗田昌裕
	第10回 消化器病薬と駆虫薬 消化性潰瘍治療薬。健胃・消化薬。消化管運動促進薬。 制吐薬。下痢と止痢薬。潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬。駆虫薬。	栗田昌裕
	第11回 呼吸器病薬 呼吸器病薬。抗結核薬。	栗田昌裕
	第12回 内分泌薬 下垂体ホルモン・甲状腺ホルモン・糖尿病治療薬。 副腎皮質ホルモン・男性ホルモン・生殖系内分泌薬。	栗田昌裕
	第13回 血液病薬と抗癌薬 貧血の薬。止血薬。抗血栓療法薬。 抗癌薬の開発と化学療法。抗癌薬の副作用と組み合わせ。	栗田昌裕
	第14回 化学療法薬と免疫療法薬 化学療法薬。抗ウイルス剤。免疫について。免疫療法。	栗田昌裕
第15回 消毒薬 滅菌・消毒法。消毒薬の濃度と殺菌速度。	栗田昌裕	
科目の目的	ディプロマ・ポリシーとの関連では、「知識・理解」の項目の「保険医療専門職としての基本的知識」を得ることを目的とする科目である。具体的には、医療の中で投薬（服薬、注射、輸液、外用など）の役割は大きい。そこで、医療に携わる者は「薬物の種類とその作用に関する基本的な知識」を持ち、しかもそれに「的確な理解」が伴っている必要がある。薬理学概論ではそれらを見通しよく学習する。具体的にはその内容は以下の通りである。1) 薬理学の役割、構成、新薬の開発、医薬品の歴史、など薬理学の基本的知識を学ぶ。2) 薬物治療に影響を与える因子として、生体側、薬物側の因子を学び、副作用に関しても学ぶ。3) 薬の生体内運命と薬効との関係を学ぶ。ここでは、投与経路と吸収、分布・代謝・排泄に関して学ぶ。4) 薬物の種類と作用メカニズムの概略を系統的に学ぶ。	
到達目標	薬物動態に関する基本的知識を得ること、薬物の作用機序による分類を知ること、主要な薬剤の適用に関する基礎的知識を持つこと、禁忌に関して学ぶこと。以上に関して、理学療法の実践に必要なとされるレベルに到達することを目標とする。	
関連科目	生理学Ⅰ・Ⅱ、生化学	
成績評価方法・基準	試験（100％）。	

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	短期間の間に広範な内容を学ぶことになるので、毎回の講義で学んだことをよく復習することが望ましい。その際に、これまでに学んだ疾患に関する知識をよく思い出し、関連付けを明確にしておこう。それが次回の内容を受け入れやすくなり、準備学習を兼ねることになる。復習時間は約1時間。
教科書・参考書	教科書：使用しない。 参考書：「系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進3」（医学書院）。
オフィス・アワー	火曜日の昼休み。
国家試験出題基準	【理学療法士】 《専門基礎》Ⅱ-2-B-e
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を事前配布します。配布期間は「授業前日から授業日まで」。持参方法は「各自印刷して授業に持参すること」。

講義科目名称：公衆衛生学

授業コード：2P057

英文科目名称：Public Health

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
木村 博一	木村 朗	高橋 篤	

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 公衆衛生学総論 公衆衛生学の概要について講義する。	木村 博一
	第2回 疫学総論（集団の健康と疾病の概念） 疫学概要、記述疫学、分析疫学ならびにコホート研究について概説する。	木村 朗
	第3回 疫学各論（疫学の方法） 系統誤差・偶発誤差、因果関係論ならびに保健統計概要について概説する。	木村 朗
	第4回 感染症疫学総論 感染症疫学について概説する。	木村 博一
	第5回 感染症各論 結核、エイズならびに新興再興感染症について概説する。	木村 博一
	第6回 生活習慣病総論（ライフスタイルと健康） NCDの概要、動脈硬化性疾患、予防ならびに健康教育について概説する。	木村 朗
	第7回 親子保健（発達・成長と健康） 親子保健（発達・成長と健康）の概要と課題について概説する。	木村 朗
	第8回 労働衛生・産業保健の概要 社会・環境と健康の概要と課題について概説する。	木村 朗
	第9回 成人保健概説 精神保健や自殺対策について概説する	高橋 篤 （木村 博一）
	第10回 生活環境・環境と健康・地球温暖化 生活環境・環境と健康・地球温暖化などの諸問題について概説する。	高橋 篤 （木村 博一）
	第11回 健康危機管理(1) 食品衛生・食の安全について概説する。	高橋 篤
	第12回 健康危機管理(2) 感染症発生時や災害時の対応について概説する。	高橋 篤 （木村 博一）
	第13回 保健医療行政概説 地域包括ケアシステムを含む保健医療行政について概説する。	高橋 篤
	第14回 院内感染対策概説 院内感染の現状と対策について概説する。	高橋 篤 （木村 博一）
	第15回 がんの統計と疫学 がん対策・がん登録について概説する。	高橋 篤 （木村 博一）
科目の目的	健康及び公衆衛生の基本的概念を学習する。各種疾患対策、環境対策と統計、疫学、健康教育、試験検査が織りなす総合科学であり、活動であることを理解する。【知識・理解】	
到達目標	1. 生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。 2. 公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。 3. 公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する。	
関連科目	生命倫理、環境学、社会学、情報処理、救急・免疫・感染症学	
成績評価方法・基準	試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習に必要な学習時間の目安 1コマあたり2時間	
教科書・参考書	【教科書】 「社会・環境と健康 公衆衛生学 2019年版」柳川 洋、尾島 俊之 編集（医歯薬出版） 【参考書】 特になし	
オフィス・アワー	講義の前後	
国家試験出題基準	《専門基礎》-Ⅲ-1-B-abcdefghijkl	

履修条件・履修上の注意	
-------------	--

学習時間の目安	
教科書・参考書	<p>教科書：「系統看護学講座 別巻6 臨床検査」/大久保昭行 編（医学書院）</p> <p>参考書：「放射線画像医学 医用放射線科学講座7」/稲本一夫 別府慎太郎 編（医歯薬出版） 「リハビリテーション診断学（下）リハビリテーション医学全書Ⅱ-3」/千野直一 編（医歯薬出版）</p> <p>その他はその都度紹介する。</p>
オフィス・アワー	<p>古田島：講義終了後 土屋：講義終了後 谷口：講義終了後</p>
国家試験出題基準	<p>I 人体の構造と機能及び心身の発達</p> <p>1 -E-a, b, c F-b, c, d</p> <p>2 -C-a, b, c, f, g, h H-a, b, c, d I-a, b, c, d J-a, b, c, d N-a</p> <p>II 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進</p> <p>2 -A-a, b, c B-b, c, d</p> <p>5 -C-k</p> <p>1 0 -C-d, e</p> <p>1 1 -C-a, b, c, d, e, f, g, h</p> <p>1 2 -C-a, e, f</p>
履修条件・履修上の注意	<p>・状況に応じて内容が変更される場合があります。</p>

講義科目名称：臨床医学特殊講義

授業コード：2P059

英文科目名称：Special Lecture of Clinical Medicine

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
宗宮 真	宗宮 真	正田 純史	

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 外科領域 (1) 総論 外科領域の疾患と治療の概要について理解する。	宗宮 真
	第2回 外科領域 (2) 胸部疾患 外科領域のうち胸部疾患とその治療の概要について理解する。	宗宮 真
	第3回 外科領域 (3) 腹部疾患 外科領域のうち腹部疾患とその治療の概要について理解する。	宗宮 真
	第4回 眼科領域 眼科領域における疾患の概要について理解する。	宗宮 真
	第5回 皮膚科領域、既出事項の確認 皮膚科領域における疾患の概要について理解する。既出事項の確認。	宗宮 真
	第6回 感染症科・滅菌法・消毒法 感染症科領域における疾患と滅菌法・消毒法の概要について理解する。	正田 純史
	第7回 耳鼻咽喉科領域 耳鼻咽喉科領域における疾患を理解する。	正田 純史
	第8回 泌尿器科領域 泌尿器科領域における疾患を理解する。	正田 純史
	第9回 産婦人科領域 産婦人科領域における疾患を理解する。	正田 純史
	第10回 分子生物学 最近の動向について学習する。	正田 純史
	第11回 臓器移植 最近の動向について学習する。	正田 純史
	第12回 リハビリテーション診療に必要な画像の診方 (1) 脳疾患 リハビリテーション領域で重要な脳疾患の画像の概要を理解する。	宗宮 真
	第13回 リハビリテーション診療に必要な画像の診方 (2) 骨関節疾患 リハビリテーション領域で重要な骨関節疾患の画像の概要を理解する。	宗宮 真
	第14回 リハビリテーション診療に必要な画像の診方 (3) 脊椎・脊髄疾患 リハビリテーション領域で重要な脊椎・脊髄疾患の画像の概要を理解する。	宗宮 真
	第15回 リハビリテーション診療に必要な画像の診方 (4) 胸部疾患、既出事項の確認 リハビリテーション領域で重要な胸部疾患の画像の概要を理解する。既出事項の確認。	宗宮 真
科目の目的	臨床医学のうち、外科、眼科、皮膚科、感染症科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、産婦人科の概要と医学の最近の動向、理学療法士に必要な画像の診方について理解する。【知識・理解】	
到達目標	臨床医学の各科で診る疾患の概要、最近の動向、理学療法士に必要な画像の診方について理解し、説明できる。	
関連科目	内科学、小児科学、病理学、解剖学Ⅰ・Ⅱ、解剖学実習、生理学Ⅰ・Ⅱ、生理学実習、臨床神経学ⅠⅡ、整形外科ⅠⅡ、リハビリテーション医学、老年医学、臨床検査・画像診断学	
成績評価方法・基準	講義内で行う試験（筆記試験を2回行う。時期や範囲等の詳細については教員が講義内で説明する。80%）、授業中の質問や確認問題への回答（20%）試験については、講義内で解説を行うなど、フィードバックを行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、次回授業までに、重要事項については自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。概ね1.5時間の授業外学習の時間を確保すること。	
教科書・参考書	教科書：使用しない。 参考書：各授業の際に適宜提示する。	
オフィス・アワー	講義終了後または水曜日昼休み（12時10分～50分、宗宮真、場所：6階研究室）、講義終了後（正田純史）。質問の内容により、別に時間を設定する場合がある。	
国家試験出題基準	《専門基礎》－Ⅱ－2－B－f	
履修条件・履修上の注意	前回講義の復習に利用する場合があるため、前回の配布資料を持参すること。	

講義科目名称：内科学

授業コード：2P060

英文科目名称：Internal Medicine

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
岩崎 俊晴			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 概論 1 ＜内科疾患の分類、薬物療法、食事療法＞内科疾患の分類、薬物療法の実際。薬物の作用、濃度。処方箋、医薬品に関する法令。薬用量。食事療法の目的。栄養と疾患の関係。各種病態と食事療法の基本方針。病院食とは。嚥下と栄養補給。	岩崎
	第2回 概論 2 一般検査。血液検査。生化学検査。内分泌検査。感染症検査。免疫的検査。腫瘍マーカーとは。生理学的検査。画像検査。	岩崎
	第3回 消化器疾患 1 消化器疾患の食事・栄養療法。口腔、食道、胃疾患、腸疾患。	岩崎
	第4回 消化器疾患 2 肝、胆のう、膵臓疾患。腹膜疾患。急性腹症。	岩崎
	第5回 呼吸器疾患 1 感染性呼吸器疾患。気管支疾患。産業性呼吸器疾患。	岩崎
	第6回 呼吸器疾患 2 突発性間質性肺炎。肺腫瘍。肺循環障害。サルコイドーシス。	岩崎
	第7回 アレルギー、自己免疫疾患。 アレルギーとは。アレルギー性鼻炎。気管支喘息。アレルギー性肺疾患。膠原病。	岩崎
	第8回 循環器疾患 1 心不全。不整脈。	岩崎
	第9回 循環器疾患 2 虚血性心疾患。弁膜症。心筋炎。リウマチ熱。	岩崎
	第10回 循環器疾患 3 高血圧症。大動脈疾患。末梢動脈疾患。静脈・リンパ系の疾患。	岩崎
	第11回 内分泌・代謝疾患 1 内分泌疾患の特徴。間脳、下垂体疾患。甲状腺、副甲状腺疾患、副腎疾患。	岩崎
	第12回 内分泌・代謝疾患 2 糖代謝異常（糖尿病、低血糖）	岩崎
	第13回 内分泌・代謝疾患 3 脂質代謝異常。尿酸代謝異常。その他の代謝異常。	岩崎
	第14回 血液疾患 血液量の異常。脱水。貧血、多血症。血小板の異常。白血球の異常。	岩崎
	第15回 内科学における遺伝性疾患。環境因子と内科疾患。 遺伝性疾患の形式。家族性高コレステロール血症について。公害病について。原発事故における健康被害。	岩崎
科目の目的	臨床医学の中で内科学はすべての疾患を知る上で重要な学問である。特に、疾患の病理生理、診断、治療を学ぶことは臨床の現場で患者の状況を理解し、的確な判断に基づいて検査、治療を施す上で重要である。【知識・理解】	
到達目標	疾病の病態生理、診断、治療を一連の流れの中で理解する力を養う。国家試験に役立つ疾患について理解を深め、実際の問題に対応できるようにする。	
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、病理学、生理学Ⅰ・Ⅱ	
成績評価方法・基準	試験とレポートの総合評価（試験 95%、レポート5%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	毎回の講義内容をよく復習し、重要事項を頭にしておくこと。講義前に授業資料に目を通し、どのような流れの授業なのかを把握しておくこと。授業内容を深く理解するためには30分以上の予習が必要である。	
教科書・参考書	参考書：「病気が見える」シリーズ 教科書なし	
オフィス・アワー	講義の後20分ほど学内に滞在している。講義した内容に質問があれば出席表を利用する。	
国家試験出題基準	＜＜専門基礎＞＞-Ⅱ-11-ABCDE-abcdefg	

履修条件・履修上の注意	特になし。
-------------	-------

講義科目名称：整形外科学 I

授業コード：2P061

英文科目名称：Orthopedics I

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
宗宮 真	宗宮 真		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 総論1 整形外科の基礎知識(骨・関節・筋肉・神経・血管の基本構造と機能)	宗宮 真
	第2回 総論2 運動器の評価・診察・検査・治療	宗宮 真
	第3回 整形外科疾患総論1 骨関節・軟部組織の感染症	宗宮 真
	第4回 整形外科疾患総論2 関節リウマチとその類縁疾患	宗宮 真
	第5回 整形外科疾患総論3 慢性関節疾患(退行性・代謝性)	宗宮 真
	第6回 整形外科疾患総論4 先天性骨系統疾患	宗宮 真
	第7回 整形外科疾患総論5、既出事項の確認 先天異常症候群、既出事項の確認	宗宮 真
	第8回 整形外科疾患総論6 代謝性骨疾患	宗宮 真
	第9回 整形外科疾患総論7 骨腫瘍	宗宮 真
	第10回 整形外科疾患総論8 軟部腫瘍、四肢循環障害と阻血壊死性疾患	宗宮 真
	第11回 整形外科疾患外傷論1 外傷総論	宗宮 真
	第12回 整形外科疾患外傷論2 上肢の骨折・脱臼	宗宮 真
	第13回 整形外科疾患外傷論3 下肢の骨折・脱臼(1) 股関節、大腿骨	宗宮 真
	第14回 整形外科疾患外傷論4 下肢の骨折・脱臼(2) 膝関節、下腿骨、足関節、足部	宗宮 真
	第15回 整形外科疾患外傷論5、既出事項の確認 体幹の骨折、既出事項の確認	宗宮 真
科目の目的	整形外科疾患の病態、症状、検査、診断、治療についての知識を習得する。特に、整形外科学 I では、整形外科の診断と治療、疾患や外傷の病態を中心とする総論について学ぶ。【知識・理解】	
到達目標	整形外科疾患の病態、症状、検査、診断、治療および理学療法を行う際の注意点について説明できる。	
関連科目	整形外科学 II、病理学、解剖学、解剖学実習、生理学、生理学実習、運動学、運動学実習、運動生理学、老年医学、臨床検査・画像診断学、リハビリテーション医学、スポーツ医学、義肢学、装具学	
成績評価方法・基準	講義内で行う試験(筆記試験を2回行う。時期や範囲等の詳細については教員が講義内で説明する。80%)、授業中の質問や確認問題への回答(20%) 試験については、講義内で解説を行うなど、フィードバックを行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、次回授業までに、重要事項については自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。復習及び準備学習(教科書の該当箇所を学習)を行うため、概ね1.5時間の授業外学習の時間を確保すること。	
教科書・参考書	教科書：「標準整形外科学(第13版)」 中村利孝、松野丈夫(医学書院) 参考書：各授業の際に適宜提示する。	
オフィス・アワー	講義終了後または水曜日昼休み(12時10分～50分、場所：6階研究室)。質問の内容により、別に時間を設定する場合がある。	
国家試験出題基準	《専門基礎》-II-6-A-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m 《専門基礎》-II-6-B-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m 《専門基礎》-II-6-C-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m 《専門基礎》-II-6-D-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m 《専門基礎》-II-6-E-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m 《専門基礎》-II-7-A-a, b, c, d, e, f	

	《専門基礎》－Ⅱ－7－B－a, b, c, d, e, f 《専門基礎》－Ⅱ－7－C－a, b, c, d, e, f 《専門基礎》－Ⅱ－7－D－a, b, c, d, e, f 《専門基礎》－Ⅱ－7－E－a, b, c, d, e, f
履修条件・履修上の注意	教科書を持参すること。前回講義の復習に利用するため、前回の配布資料を持参すること。

講義科目名称：整形外科学Ⅱ

授業コード：2P062

英文科目名称：Orthopedics II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
宗宮 真	宗宮 真		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 整形外科学Ⅰの復習 整形外科学Ⅰの定期試験問題の解説と既出事項の確認 第2回 整形外科疾患外傷論6 脊髄損傷(1) 脊髄損傷の症状のうち、特に、神経症状を中心に学ぶ。 第3回 整形外科疾患外傷論7 脊髄損傷(2) 脊髄損傷の症状のうち、特に、全身症状や症例を中心に学ぶ。 第4回 整形外科疾患外傷論8 末梢神経損傷 第5回 整形外科疾患各論1 頸椎疾患 第6回 整形外科疾患各論2 胸椎疾患 第7回 整形外科疾患各論3 腰椎疾患、既出事項の確認 第8回 整形外科疾患各論4 股関節疾患(1) 疾患の病態を中心に学習する。 第9回 整形外科疾患各論5 膝関節疾患(1) 疾患の病態を中心に学習する。 第10回 整形外科疾患各論6 股関節疾患(2)・膝関節疾患(2) 疾患の画像所見、治療方法、症例を中心に学習する。 第11回 整形外科疾患各論7 足関節と足の疾患 第12回 整形外科疾患各論8 肩関節疾患 第13回 整形外科疾患各論9 肘関節疾患 第14回 整形外科疾患各論10 手関節と手の疾患 第15回 整形外科疾患各論11、既出事項の確認 疾患各論で学習した重要な疾患についての知識のまとめ。既出事項の確認	宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真 宗宮 真
科目の目的	整形外科疾患の病態、症状、検査、診断、治療についての知識を習得する。特に、整形外科学Ⅱでは、各論として整形外科疾患を各関節や脊椎などの部位毎に学ぶ。【知識・理解】	
到達目標	整形外科疾患の病態、症状、検査、診断、治療および理学療法を行う際の注意点について説明できる。	
関連科目	整形外科学Ⅰ、病理学、解剖学、解剖学実習、生理学、生理学実習、運動学、運動学実習、老年医学、臨床検査・画像診断学、リハビリテーション医学、スポーツ医学、義肢学、装具学	
成績評価方法・基準	講義内で行う試験(筆記試験を2回行う。時期や範囲等の詳細については教員が講義内で説明する。80%)、授業中の質問や確認問題への回答(20%)試験については、講義内で解説を行うなど、フィードバックを行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、次回授業までに、重要事項については自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。復習及び準備学習(教科書の該当箇所を学習)を行うため、概ね1.5時間の授業外学習の時間を確保すること。	
教科書・参考書	教科書：「標準整形外科学(第13版)」 中村利孝、松野丈夫(医学書院) 参考書：各授業の際に適宜提示する。	
オフィス・アワー	講義終了後または水曜日昼休み(12時10分～50分、場所：6階研究室)。質問の内容により、別に時間を設定する場合がある。	
国家試験出題基準	《専門基礎》-Ⅱ-6-A-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m 《専門基礎》-Ⅱ-6-B-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m 《専門基礎》-Ⅱ-6-C-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m 《専門基礎》-Ⅱ-6-D-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m 《専門基礎》-Ⅱ-6-E-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m 《専門基礎》-Ⅱ-7-A-a, b, c, d, e, f	

	《専門基礎》－Ⅱ－7－B－a, b, c, d, e, f 《専門基礎》－Ⅱ－7－C－a, b, c, d, e, f 《専門基礎》－Ⅱ－7－D－a, b, c, d, e, f 《専門基礎》－Ⅱ－7－E－a, b, c, d, e, f
履修条件・履修上の注意	教科書を持参すること。前回講義の復習に利用するため、前回の配布資料を持参すること。

講義科目名称：臨床神経学 I (神経内科学)

授業コード：2P063

英文科目名称：Clinical Neurology I (Neurology)

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
宗宮 真	宗宮 真		

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 脳血管障害1 脳血管障害総論 これに加えて第1回～第4回に分けて神経学的診察法について学習する</p> <p>第2回 脳血管障害2 脳出血 これに加えて第1回～第4回に分けて神経学的診察法について学習する。</p> <p>第3回 脳血管障害3 脳梗塞1 病態と症候を中心に学習する。これに加えて第1回～第4回に分けて神経学的診察法について学習する。</p> <p>第4回 脳血管障害4 脳梗塞2 検査と治療を中心に学習する。これに加えて第1回～第4回に分けて神経学的診察法について学習する。(講義担当：宗宮 真)</p> <p>第5回 脳血管障害5 くも膜下出血・その他の脳血管障害</p> <p>第6回 脱髄疾患 多発性硬化症などの脱髄疾患</p> <p>第7回 神経変性疾患1 認知症疾患</p> <p>第8回 神経変性疾患2 大脳基底核障害(錐体外路系疾患) 1 パーキンソン病を中心に学習する。</p> <p>第9回 神経変性疾患3、既出事項の確認 大脳基底核障害(錐体外路系疾患) 2 パーキンソン病以外の疾患について学習する。既出事項の確認</p> <p>第10回 神経変性疾患4 脊髄小脳変性症</p> <p>第11回 神経変性疾患5 運動ニューロン疾患</p> <p>第12回 末梢神経障害 ギラン・バレー症候群などの末梢神経障害</p> <p>第13回 筋疾患 筋ジストロフィーなどの筋疾患</p> <p>第14回 神経筋接合部疾患、機能的疾患 重症筋無力症などの神経筋接合部疾患、てんかんなどの機能的疾患</p> <p>第15回 感染性疾患、既出事項の確認 髄膜炎・脳炎などの感染性疾患、既出事項の確認</p>	<p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p>
科目の目的	神経内科疾患の病態、症状、検査、診断、治療についての知識を習得する。【知識・理解】	
到達目標	神経内科疾患の病態、症状、検査、診断、治療および理学療法を行う際の注意点について説明できる。	
関連科目	臨床神経学Ⅱ、小児科学、病理学、解剖学、解剖学実習、生理学、生理学実習、運動学、運動学実習、運動生理学、老年医学、臨床検査・画像診断学、リハビリテーション医学、義肢学、装具学	
成績評価方法・基準	講義内で行う試験(筆記試験を2回行う。時期や範囲等の詳細については教員が講義内で説明する。80%)、授業中の質問や確認問題への回答(20%)試験については、講義内で解説を行うなど、フィードバックを行う。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、次回授業までに、重要事項については自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。概ね1.5時間の授業外学習の時間を確保すること。	
教科書・参考書	教科書： 使用しない。 参考書：「神経内科学テキスト(改訂第4版)」江藤文夫、飯島節(南江堂)	
オフィス・アワー	講義終了後または水曜日昼休み(12時10分～50分、場所：6階研究室)。質問の内容により、別に時間を設定する場合がある。	
国家試験出題基準	<p>《専門基礎》-Ⅱ-8-A-a, b, c, d, e, f, g</p> <p>《専門基礎》-Ⅱ-8-B-a, b, c, d, e, f, g</p> <p>《専門基礎》-Ⅱ-8-C-a, b, c, d, e, f, g</p> <p>《専門基礎》-Ⅱ-8-D-a, b, c, d, e, f, g</p> <p>《専門基礎》-Ⅱ-8-E-a, b, c, d, e, f, g</p>	

	《専門基礎》－Ⅱ－9－A－a, b, c 《専門基礎》－Ⅱ－9－B－a, b, c 《専門基礎》－Ⅱ－9－C－a, b, c 《専門基礎》－Ⅱ－9－D－a, b, c 《専門基礎》－Ⅱ－9－E－a, b, c
履修条件・履修上の注意	前回講義の復習に利用する必要があるため、前回の配布資料を持参すること。

講義科目名称：臨床神経学Ⅱ（小児神経学・脳神経外科学）

授業コード：2P064

英文科目名称：Clinical Neurology II (Pediatric Neurology and B...

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
高橋 篤	設楽 信行		

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p align="center">【小児神経学分野】</p> <p>第1回 神経疾患総論・癲癇 症状・診察方法・神経学的検査、てんかんの種類・症状</p> <p>第2回 神経皮膚症候群 神経皮膚症候群の種類・症状、その他類縁疾患</p> <p>第3回 変性疾患 脊髄・小脳変性疾患の種類・症状</p> <p>第4回 炎症性疾患 脳炎・脳症などの症状・診断法・治療など</p> <p>第5回 筋疾患総論・筋ジストロフィー 炎症・代謝性筋疾患 先天性ミオパチー・筋ジストロフィーの原因・症状・治療 ウイルス性筋炎、代謝性ミオパチーの症状・治療</p> <p>第6回 多発性神経炎 ギラン・バレー症候群・フィッシャー症候群等の症状・治療等</p> <p>第7回 痙攣性疾患 てんかん、熱性けいれんの症状・治療法</p> <p>第8回 先天異常・染色体異常 まとめ ダウン症候群を始めとする染色体異常等の症状・治療法</p> <p align="center">【脳神経外科学分野】</p> <p>第1回 脳神経外科における症候について総論 脳神経症状、運動・知覚障害、痙攣発作、脳浮腫、脳圧亢進、意識障害について、病態の重篤度、画像診断</p> <p>第2回 頭部外傷 頭部外傷の病態と治療法</p> <p>第3回 良性脳腫瘍 髄膜腫、下垂体腫瘍、神経鞘腫、頭蓋底腫瘍)の症状、画像診断 遺伝性腫瘍：遺伝子異常、疾病の病態</p> <p>第4回 悪性脳腫瘍 グリオーマ、髄芽腫、生殖細胞腫、転移性脳腫瘍等)の病態と画像診断、治療法の選択</p> <p>第5回 脳血管障害（出血性病変） 高血圧性脳内血腫、脳動脈瘤、脳動静脈奇形の病態と治療法の選択</p> <p>第6回 脳血管障害（閉塞性病変） 総頸動脈、主幹脳動脈の狭窄の血管内治療、脳梗塞、神経症状、高次機能障害について</p> <p>第7回 脊髄病変 脊髄腫瘍、脊髄血管障害の症状、診断、治療</p>	<p>高橋 篤</p> <p>高橋 篤</p> <p>高橋 篤</p> <p>高橋 篤</p> <p>高橋 篤</p> <p>高橋 篤</p> <p>高橋 篤</p> <p>高橋 篤</p> <p>高橋 篤</p> <p>設楽信行</p> <p>設楽信行</p> <p>設楽信行</p> <p>設楽信行</p> <p>設楽信行</p> <p>設楽信行</p> <p>設楽信行</p>
科目の目的	小児神経学および脳神経外科学をより詳細に勉強し、理学療法士として将来の臨床の場に役立てる。【知識・理解】	
到達目標	各疾患の原因・症状・診断・治療等を理解すること。	
関連科目	小児科学・小児理学療法学・精神医学	
成績評価方法・基準	試験1：55%、試験2：45%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義では臨床で重要なポイントを話します。受講前に教科書該当部分を90分程度読んでおいてください。	
教科書・参考書	≪小児神経学分野≫ 教科書：「標準理学療法学・作業療法学 小児科学(第4版)」富田豊編（医学書院）の神経学に関する分野 参考書：「小児理学療法学テキスト」（南江堂） ≪脳神経外科学分野≫	

	使用しない
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	《専門基礎》Ⅱ－8・9・10
履修条件・履修上の注意	講義日程を要確認のこと

講義科目名称：精神医学

授業コード：2P065

英文科目名称：Psychiatry

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
平尾 良雄			

授業形態	講義および症例を中心に学ぶ。	担当者
授業計画	第1回 精神医学とは 精神医学の定義・概念・歴史 第2回 精神障害の成因と分類 精神障害の成因と分類 第3回 精神障害の成因と分類 精神症状・意識・知識・性格・感情など 第4回 精神障害と診断と評価 診断と評価の方法 第5回 脳器質性精神障害 脳器質性精神障害の概念とその疾患（認知症を含む） 第6回 症状性精神障害 症状性精神障害の概念と症状 第7回 精神作用物質 アルコール、睡眠薬等の薬物関連障害 第8回 てんかん てんかんの定義と概念 第9回 統合失調症 統合失調症の病型、症状とリハビリテーション 第10回 気分（感情）障害 概念と主な病型、特に躁うつ病 第11回 神経症 神経症の概念と病型 第12回 摂食障害・睡眠障害 成因と病態 第13回 人格・行動・性の障害 成因と概念 第14回 心身医学 心身症をめぐって 第15回 まとめ 総合的に復習を行う	平尾 平尾 平尾 平尾 平尾 平尾 平尾 平尾 平尾 平尾 平尾 平尾 平尾 平尾 平尾
科目の目的	広汎な精神障害の概要を学び、将来理学療法士としての役割を学習する。【知識・理解】	
到達目標	理学療法士として将来遭遇する症例の実像を理解できる。	
関連科目	内科学 小児科学	
成績評価方法・基準	筆記試験（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	次回講義の該当ページを読んでおくこと。学習時間の目安は1コマあたり60分。	
教科書・参考書	教科書：「標準理学療法学作業療法学 精神医学」編：上野武治（医学書院） 参考書：特になし	
オフィス・アワー	講義の前後	
国家試験出題基準	≪専門基礎≫-Ⅱ-5-A-a~k ≪専門基礎≫-Ⅱ-5-B-a~k ≪専門基礎≫-Ⅱ-5-C-a~k ≪専門基礎≫-Ⅱ-5-D-a~k ≪専門基礎≫-Ⅱ-5-E-a~k	
履修条件・履修上の注意	特になし	

講義科目名称：小児科学

授業コード：2P066

英文科目名称：Pediatrics

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
井埜 利博	秋元かつみ	黒沢和夫	

授業形態	講義形式	担当者
授業計画	第1回 小児科学概論 こどもの成長・発達および保健について学ぶ	井埜利博
	第2回 小児科学概論（つづき） ・診断と治療の概要 こどもの疾患の診断・治療について学ぶ	井埜利博
	第3回 新生児・未熟児疾患 一般的な疾患およびリハビリテーションの中核をなす疾患群を学ぶ	井埜利博
	第4回 先天異常、先天代謝異常 一般的な疾患およびリハビリテーションの中核をなす疾患群を学ぶ 3年生の臨床神経学Ⅱで詳細を学ぶ	井埜利博
	第5回 神経・筋・骨等疾患 一般的な疾患およびリハビリテーションの中核をなす疾患群を学ぶ 3年生の臨床神経学Ⅱで詳細を学ぶ	井埜利博
	第6回 循環器疾患 一般的な疾患およびリハビリテーションの中核をなす疾患群を学ぶ	秋元かつみ
	第7回 呼吸器疾患 一般的な疾患およびリハビリテーションの中核をなす疾患群を学ぶ	秋元かつみ
	第8回 感染症、消化器疾患 小児疾患を系統別に学ぶ	秋元かつみ
	第9回 内分泌・代謝疾患 小児疾患を系統別に学ぶ	井埜利博
	第10回 血液疾患 小児疾患を系統別に学ぶ	井埜利博
	第11回 免疫・アレルギー疾患、膠原病 小児疾患を系統別に学ぶ	秋元かつみ
	第12回 腎・泌尿器疾患、生殖器疾患、腫瘍性疾患 小児疾患を系統別に学ぶ	秋元かつみ
	第13回 心身症、神経症など 小児疾患を系統別に学ぶ	秋元かつみ
	第14回 重症心身障害児 眼科・耳鼻科的疾患 特に重症心身障害児に焦点をあてて学ぶ	井埜利博
	第15回 小児における薬物動態 小児における薬物および投薬に関する重要事項	黒沢和夫
科目の目的	理学療法士として小児のリハビリテーションを行う場合、基礎として、小児の生理・病理を理解し、疾患について学び、将来他の医療スタッフと業務の上で協調できる能力をもつことを目的とする。 ディプロマポリシー：【知識・理解】	
到達目標	小児の成長・発達を学び、小児の疾患についても総合的に学ぶ。個々の疾患を覚えるのではなく、各疾患の特異性を平易に理解し学習することを目標とする。	
関連科目	解剖学、生理学、人間発達学、内科学、精神医学、小児理学療法学 小児神経学の分野は、臨床神経学Ⅱ（3学年対象）のなかで集中的に行う。	
成績評価方法・基準	定期試験 100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義では臨床で重要なポイントを話します。受講前に教科書の該当部分を60分程度読んでおいてください。	
教科書・参考書	教科書 「標準理学療法学・作業療法学小児科学(第4版)」 富田豊編（医学書院） 参考書 「小児科学第7版」 中山健太郎、矢田純一編（文光堂）2004. 「NEW小児科学改訂版」 清野佳紀、小林邦彦、原田研介、桃井眞理子編（南江堂）2003.	
オフィス・アワー	授業の前夜	
国家試験出題基準	《専門基礎》Ⅱ-9・10・11	

履修条件・履修上の注意	講義日程が変則的になる場合があるので、事前連絡に注意すること
-------------	--------------------------------

講義科目名称：リハビリテーション医学

授業コード：2P067

英文科目名称：Rehabilitation Medicine

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
宗宮 真	宗宮 真		

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 リハビリテーション診療の概要 障害学、病期別リハビリテーション、診察、評価、検査、治療</p> <p>第2回 障害の病態生理と評価・治療（1） 廃用症候群</p> <p>第3回 障害の病態生理と評価・治療（2） 循環機能障害、呼吸機能障害</p> <p>第4回 障害の病態生理と評価・治療（3） 運動障害、歩行障害</p> <p>第5回 障害の病態生理と評価・治療（4） 摂食・嚥下障害</p> <p>第6回 障害の病態生理と評価・治療（5） 高次脳機能障害</p> <p>第7回 障害の病態生理と評価・治療（6）、既出事項の確認 老化による障害（老年症候群）、発達障害、既出事項の確認</p> <p>第8回 疾患とリハビリテーション（1） 脳血管障害</p> <p>第9回 疾患とリハビリテーション（2） 脊髄損傷</p> <p>第10回 疾患とリハビリテーション（3） 神経筋疾患</p> <p>第11回 疾患とリハビリテーション（4） 骨関節疾患</p> <p>第12回 疾患とリハビリテーション（5） 切断と義肢</p> <p>第13回 疾患とリハビリテーション（6） 呼吸器疾患、循環器疾患</p> <p>第14回 疾患とリハビリテーション（7） 内部障害、悪性腫瘍</p> <p>第15回 疾患とリハビリテーション（8）、既出事項の確認 小児疾患（脳性麻痺など）、既出事項の確認</p>	<p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p>
科目の目的	<p>1. 運動障害、廃用症候群、循環・呼吸機能障害、嚥下障害、高次脳機能障害、老年症候群、発達障害などの病態生理・評価・リハビリテーションの概要や注意点について理解する。</p> <p>2. 脳血管障害、脊髄損傷、神経筋疾患、骨関節疾患、切断と義肢、呼吸器疾患、循環器疾患、内部障害、悪性腫瘍、小児疾患などの疾患の病態とリハビリテーションの概要や注意点について理解する。</p> <p>【知識・理解】</p>	
到達目標	<p>リハビリテーションの対象となる障害や疾患の病態生理・評価およびリハビリテーションを行う際の注意点について説明できる。</p>	
関連科目	<p>臨床神経学、整形外科学、小児科学、内科学、病理学、解剖学、解剖学実習、生理学、生理学実習、運動学、運動学実習、運動生理学、老年医学、臨床検査・画像診断学、義肢学、装具学</p>	
成績評価方法・基準	<p>講義内で行う試験（筆記試験を2回行う。時期や範囲等の詳細については教員が講義内で説明する。80%）、授業中の質問や確認問題への回答（20%）試験については、講義内で解説を行うなど、フィードバックを行う。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、次回授業までに、重要事項については自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。概ね1.5時間の授業外学習の時間を確保すること。</p>	
教科書・参考書	<p>教科書：使用しない。 参考書：各授業の際に適宜提示する。</p>	
オフィス・アワー	<p>講義終了後または水曜日昼休み（12時10分～50分、場所：6階研究室）。質問の内容により、別に時間を設定する場合がある。</p>	
国家試験出題基準	<p>《専門基礎》－Ⅱ－3－A－a, b 《専門基礎》－Ⅱ－3－B－a, b, c, d, e 《専門基礎》－Ⅱ－3－C－a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m, n, o</p>	

	《専門基礎》－Ⅱ－3－D－a, b 《専門基礎》－Ⅱ－3－E 《専門基礎》－Ⅱ－3－F－a, b, c 《専門基礎》－Ⅱ－3－G－a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l 《専門基礎》－Ⅱ－3－H－a, b, c, d, e
履修条件・履修上の注意	前回講義の復習に利用する必要があるため、前回の配布資料を持参すること。

講義科目名称：老年医学

授業コード：2P068

英文科目名称：Gerontology

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
尾林 徹	尾林 徹		

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 老化と老年病の考え方、生理機構の加齢変化 老化とは、加齢による生理機能の低下と疾病、老年症候群と機能評価、理学・作業療法との関連事項、感覚機能、自律機能、高次神経機能の加齢変化</p> <p>第2回 運動機能と精神心理面の加齢変化、高齢者に特徴的な症候と疾患、老年症候群 高齢者の運動機能、運動機能の加齢変化、知能の障害発達、記憶の加齢変化、人格、老年期の創造性の特徴 老年症候群の概念、代表的な老年症候群</p> <p>第3回 高齢者に特徴的な症候と疾患、 循環器疾患：うっ血性心不全、虚血性心疾患、脳血管障害、血圧異常、不整脈、弁膜症、心筋・心膜疾患、血管疾患、呼吸器感染症、誤嚥と誤嚥性肺炎、肺癌、閉塞性肺疾患、間質性肺炎 高齢者の消化器癌、上部消化管疾患、腸疾患、肝疾患、胆道・膵疾患</p> <p>第4回 骨運動器疾患、精神神経疾患 骨粗鬆症、変形性関節症、後縦靭帯骨化症、関節リウマチ 精神神経機能の老化、老年痴呆、うつ病、パーキンソン病、多系統萎縮症と自律神経障害、末梢神経障害</p> <p>第5回 内分泌・代謝疾患、血液・免疫疾患、腎・泌尿器疾患、皮膚・口腔疾患、感染症、 糖尿病と禽糖血症、甲状腺疾患、痛風、貧血、白血病と骨髄低形成症候群、多発性骨髄腫、膠原病 腎不全、尿路感染症、前立腺疾患、皮膚疾患、口腔疾患 高齢者の感染症の原因と特徴、診断の進め方、治療の留意点、臓器別感染症の特徴、院内感染対策とMRSA、高齢者との接し方：医療従事者の心得、患者・家族とのかかわり</p> <p>第6回 高齢者の機能評価、高齢者の退院支援、高齢者の定義および人口動態 高齢者の機能評価の意義、日常生活活動度の評価、知的機能の評価、QOLの評価 高齢者における退院支援の必要性、介護保険下の退院支援、高齢者の定義、世界と日本における人口動態</p> <p>第7回 社会学・経済学から見た高齢社会、高齢者の医療・看護・介護・福祉・保険 高齢社会の問題とは、生産人口、生産能力、健康度分布、世代間問題、高齢者の医療、看護、介護・福祉、介護保険制度、老人保健</p> <p>第8回 高齢者のリハビリテーション 高齢者のリハビリテーションの考え方、理学療法、作業療法、言語療法のまとめ、 高齢者医療全般のまとめ</p>	<p>尾林</p> <p>尾林</p> <p>尾林</p> <p>尾林</p> <p>尾林</p> <p>尾林</p> <p>尾林</p> <p>尾林</p> <p>尾林</p>
科目の目的	<p>理学療法士として高齢者とのように接してゆくか、何ができ、何が困難かを考える一助とする。 高齢者に見られる代表的な疾患（疾病、病気）について、自覚症状、身体所見、臨床検査所見、診断、病態、成因、治療方法などの概要を学び、すでに履修した関連科目（後記）の知識をもとに、疾患、病気に関わる臨床的基礎を修得する。到達度は試験により判定する。【知識・理解】</p>	
到達目標	<p>リハビリを支えるための老年医学の主要な概念と知識を一定レベルの水準を満たすように獲得すること。 正答率が60%に到ること。</p>	
関連科目	<p>生化学 解剖学I II 生理学I II 運動学I</p>	
成績評価方法・基準	<p>定期試験（100%）</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>毎回の講義内容をよく復習し理解を深めておく、0.5時間以上。</p>	
教科書・参考書	<p>教科書：使用しない 参考書：適宜紹介する。</p>	
オフィス・アワー	<p>講義日の昼休み、夕まで可。</p>	
国家試験出題基準	<p>《専門基礎》-II-13-A~E-abcdefgh</p>	
履修条件・履修上の注意		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
高橋 篤			

授業形態	免疫・感染症：講義10コマ 救急法：講義1コマ、演習4コマ 【救急法】講義・演習	担当者
授業計画	<p>第1回 免疫学総論Ⅰ 免疫の概念と免疫系、自然免疫について</p> <p>第2回 免疫学総論Ⅱ 獲得免疫について</p> <p>第3回 免疫異常症概論Ⅰ 免疫不全とアレルギーについて</p> <p>第4回 免疫異常症概論Ⅱ 自己免疫疾患の定義と分類、自己抗体の種類、主な自己免疫疾患の病態および治療法</p> <p>第5回 感染症総論 感染症の定義、感染経路、院内感染、感染対策法</p> <p>第6回 細菌感染症概論Ⅰ 細菌の特徴と分類、抗菌薬の分類、薬剤耐性メカニズム</p> <p>第7回 細菌感染症概論Ⅱ グラム陽性菌、グラム陰性菌による主な感染症</p> <p>第8回 細菌感染症概論Ⅲ 嫌気性菌、抗酸菌、非定型細菌による主な感染症</p> <p>第9回 ウイルス感染症概論Ⅰ ウイルスの特徴と種類、抗ウイルス薬の分類、ウイルス感染のメカニズム</p> <p>第10回 ウイルス感染症概論Ⅱ 主なウイルス感染症</p> <p>第11回 1次救命処置とは 医療従事者向け一次救命処置について解説する。</p> <p>第12回 BLSHCP実技1 反応の確認・気道確保・AEDの取り扱い（成人）について演習する。</p> <p>第13回 BLSHCP実技2 一連のBLSHCP（成人）について演習する。</p> <p>第14回 BLSHCP実技3 気道異物解除・乳児のBLSHCPについて演習する。</p> <p>第15回 BLSHCP実技4 成人のBLSHCPスキルチェックを実施する。</p>	高橋 篤 高橋 篤 高橋 篤 高橋 篤 高橋 篤 高橋 篤 高橋 篤 高橋 篤 高橋 篤 高橋 篤 高橋 篤 高橋 篤 高橋 篤 高橋 篤 高橋 篤
科目の目的	<p>〔免疫・感染症〕 生体防御機構を中心とした免疫システムの基礎知識を習得し、免疫異常症の理解を深める。また、細菌やウイルスを中心とした病原体による感染症の種類、感染経路、感染予防法など臨床現場で必要となる感染における知識を身につける。</p> <p>〔救急法〕 呼吸器系・心血管系・脳血管系の解剖生理と主要な疾患を理解し、傷病者の反応の確認・胸骨圧迫・気道確保・人工呼吸・AEDによる除細動など、一連の一次救命処置（BLS）が実践できるようになる。</p> <p>カリキュラムマップ【知識・理解】 【技能・表現】</p>	
到達目標	<p>〔免疫・感染症〕 1. 細胞性免疫と液性免疫を理解する。 2. 自己免疫疾患と自己抗体の関係を理解する。 3. アレルギーの種類と特徴を理解する。 4. 主な細菌感染症とウイルス感染症について理解する。 5. 感染経路と感染対策法を理解する。</p> <p>〔救急法〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 急激に生命が危険にさらされる呼吸器障害・心血管障害・脳血管障害が説明できる。 2. 救命の連鎖について説明できる。 3. AEDの取り扱いを含む一連の医療従事者向け一次救命処置が実践できる。 	
関連科目	〔免疫・感染症〕 生理学・病理学・内科学 〔救急法〕 解剖学・生理学・病理学・公衆衛生学	
成績評価方法・基準	〔免疫・感染症〕 定期試験（70%） 〔救急法〕 実技試験（30%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>〔免疫・感染症〕 毎回の講義で学んだことをよく復習することが望ましい。学習時間の目安は概ね1時間。</p> <p>〔救急法〕 理学療法士養成課程でBLSHCP（医療従事者向け一次救命処置）ライセンス取得に挑戦したのは、本学が先駆けである。プレホスピタルのみならず、リハビリテーションを受ける患者が急変心肺停止となる事態が生じることを想定しなければならない。AHAのBLSHCP受講は、現役の医師・看護師らとともに臨むことになる。したがって、関連科目を復習した上で本科目を受講し、全員がライセンスを取得してもら</p>	

	いたい。
教科書・参考書	[免疫・感染症] 教科書：病気が見える⑥ 免疫・膠原病・感染症（メディックメディア） 参考書：「わかる 身につく 病原体・感染・免疫」（南山堂） [救急法] 教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。 参考書：BLSプロバイダーマニュアル AHAガイドライン2015 準拠（シナジー出版）
オフィス・アワー	木曜日 14:20~14:40 16:10~16:20 非常勤講師室にて
国家試験出題基準	《専門基礎》-III-1-A-g
履修条件・履修上の注意	[免疫・感染症] 特になし [救急法] ポケットマスク購入要

講義科目名称：スポーツ医学

授業コード：2P070

英文科目名称：Sports Medicine

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
加賀谷善教	山口 光國		

授業形態	講義・課題発表	担当者	
授業計画	第1回	オリエンテーション・基礎体力を活かす身体の使い方	加賀谷善教
	第2回	科学的根拠に基づいた筋力エクササイズ	加賀谷善教
	第3回	科学的根拠に基づいた柔軟性エクササイズ	加賀谷善教
	第4回	歩行および走動作の分析と動作改善エクササイズ	加賀谷善教
	第5回	投球動作の分析と動作改善エクササイズ	加賀谷善教
	第6回	ジャンプ・着地動作・繰り返し動作の分析と動作改善エクササイズ	加賀谷善教
	第7回	スポーツによる内科的障害および脳震盪	加賀谷善教
	第8回	体幹のスポーツ外傷・障害	加賀谷善教
	第9回	上肢のスポーツ外傷・障害	加賀谷善教
	第10回	下肢のスポーツ外傷・障害	加賀谷善教
	第11回	膝靭帯損傷に対するスポーツ理学療法	加賀谷善教
	第12回	スポーツ外傷・障害に対する治療援助計画の作成（プレゼンテーション）	加賀谷善教
	第13回	スポーツ外傷・障害に対する治療援助計画の作成（プレゼンテーション）	加賀谷善教
	第14回	ヘルスマネージメント	山口光國
	第15回	ヘルスプロポーション	山口光國
科目の目的	スポーツ医学の基礎を学び、スポーツ外傷・障害に対する機能評価および治療を実践するために、一般的疾患に対する理学療法とスポーツ外傷・障害に対する理学療法の違いを理解する。【知識・理解】		
到達目標	スポーツ外傷・障害の問題点を把握し、実践的な治療援助計画を作成できる。		
関連科目	内科学、整形外科Ⅰ、整形外科Ⅱ、運動生理学、小児科学、心理学		
成績評価方法・基準	第12・13回のプレゼンテーション内容（30%）、授業態度（10%）山口担当分の課題（10%）、定期試験（50%）で成績をつける。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教科書を授業前に予習しておく。1コマあたり1時間を目安とする。		
教科書・参考書	教科書： 「ケガをさせないエクササイズの科学」 西蘭秀嗣・加賀谷善教 編著 （大修館書店）		
オフィス・アワー	授業の前・後		
国家試験出題基準			
履修条件・履修上の注意			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
木村 朗	斎藤 龍生	小林 剛	小和田美由紀

授業形態	講義1-15コマ	担当者
授業計画	<p>1 第1部 緩和医療学総論 (斎藤 龍生) 緩和医療の歴史と緩和医療の基本的考え方を講義すると共に、がん患者さんが抱えている問題点を提示します。その中で、「末期がんの患者さんと如何に話すか?」、「患者さんが人間らしく生きるために何ができるか?」について、一緒に考えていく講義を予定しています。患者さんとのコミュニケーションスキルの向上を目指し、基本的な技術を紹介いたします。</p> <p>2 第1部 緩和医学各論 (小林 剛) 疼痛緩和 疼痛の考え方 鎮痛剤の使い方・副作用対策</p> <p>3 第1部 緩和医学各論 (小林 剛) オピオイドローテーションについて 事例を提示し疼痛緩和について考えていく</p> <p>4 第1部 緩和ケアの実際・疼痛緩和の看護 (小和田 美由紀) 疼痛マネジメントにおける看護の役割について 効果的な疼痛マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考えていく</p> <p>5 第1部 緩和ケアの実際・他の症状緩和の看護・全人的苦痛の緩和 (小和田 美由紀) 他の症状マネジメントにおける看護の役割 効果的な疼痛マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考えていく 全人的苦痛の緩和 精神的苦痛と霊的苦痛 (スピリチュアルペイン) のケアについて</p> <p>6 第1部 緩和ケアの実際・家族ケア・遺族ケア (小和田 美由紀) 緩和ケア病棟における終末期患者の家族ケアと遺族ケアの実際について</p> <p>7 第1部 緩和的リハビリテーション 緩和医療におけるチームアプローチ (小和田 美由紀) 緩和ケア病棟における終末期患者のリハビリテーション 緩和ケア病棟におけるチーム医療 チームにおける看護の役割と多職種との役割と機能</p> <p>8 第1部 第一部のまとめ もし、あなたが今、肺がんの末期と診断された場合、何をどう考えどのようにしたいですか。また、残された時間をどのように過ごしたいですか。(死生観)</p> <p>9 第2部 悪性腫瘍のリハビリテーション (木村 朗) 悪性腫瘍 (ガン) のリハビリテーションについて 過去と現在を概観する</p> <p>10 第2部 緩和医療とリハ総論 (木村 朗) 緩和医療 (ケア) の歴史 リハビリテーションの理念と緩和医療の接点 ライフサイクルと終末期, 生死学</p> <p>11 第2部 緩和医療とリハ 各論 1 (木村 朗) 疼痛緩和 疼痛の考え方1 鎮痛剤, 除痛ラダー, 鎮静について 終末期の理学療法介入の実際 死を目前にした人との会話について 緩和ケア病棟での事例 (障害別) を提示し、理学療法の役割について考える 緩和ケアにおけるチーム医療 心の苦痛 全人的苦痛の緩和 精神的苦痛と霊的苦痛 (スピリチュアルペイン) について 緩和ケア病棟における終末期患者の家族ケアと遺族ケアの実際について</p> <p>12 第2部 緩和医療とリハ 各論 2 (木村 朗 岡崎) 終末期の理学療法介入の実際 疼痛の考え方2 死を目前にした人との会話について 緩和ケア病棟での事例 (障害別) を提示し、理学療法の役割について考える 緩和ケアにおけるチーム医療</p> <p>13 第2部 理学療法実技 (木村 朗、 浅田) 体位排痰およびポジショニング 呼吸介助 浮腫に対するリンパマッサージ</p> <p>14 第2部 緩和医療とリハ 各論 3 (木村 朗) ALSとコミュニケーションエイド</p> <p>15 第2部 緩和医療とリハ 各論 4 (木村 朗) 看取り</p>	<p>斎藤 龍生</p> <p>小林 剛</p> <p>小林 剛</p> <p>小和田 美由紀</p> <p>小和田 美由紀</p> <p>小和田 美由紀</p> <p>小和田 美由紀</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p>
科目の目的	<p>第一部では、緩和医療 (ケア) について、終末期に限らず医療のさまざまな分野が必要であることが認識され、癌医療における早期導入、慢性疾患への対応など応用範囲が広がりつつあることを中心に、がん患者への積極的な全人的医療として身体的・精神的・社会的・霊的苦痛の緩和、家族・遺族への支援についての理論や援助方法を学習する。また、チーム医療の必要性、緩和ケア・ホスピスケアの実際、チームにおける多職種の役割や機能について学習する。</p> <p>第二部では、最初に悪性腫瘍 (ガン) のリハビリテーションについてその概要を示し、他疾患との相違、特徴などを理解する。実際の緩和医療の現場で活躍する理学療法士・作業療法士を講師に迎え、リハビリテーションの視点から、緩和医療・終末期医療の歴史と現状、ホスピス医療の実際について学習する。また、緩和医療における理学療法介入の技術を学習する。</p> <p>DPに則った目的は先進・高度化する専門分野の基本的技術を提供することができるようになるため知識と態度を身につけること。</p>	
到達目標	緩和医療 (ケア) の歴史と緩和医療 (ケア) の基本的考えを理解する。緩和医療を取り巻くシステムと問題点	

	を知る。緩和医療における治療理念と倫理的問題を含め治療方法および援助方法を理解する。終末期における心理的問題と家族ケア遺族ケアの重要性を理解する。緩和ケアにおけるチーム医療の必要性とチームにおける多職種役割や機能について理解する。リハビリテーション医療と緩和医療の接点について理解する。疼痛について理解する。理学療法介入の実際について知る。地域・在宅での緩和医療におけるリハビリテーション介入の実際を知る。
関連科目	関連し合う科目－生命倫理、地域社会学、臨床心理学、リハビリテーション工学、栄養学、カウンセリング、社会福祉・地域サービス論、リハビリテーション関連領域論 この科目が基礎となる科目－理学療法管理学
成績評価方法・基準	レポート50%、授業中の課題25%、共通試験25% (5月29日 訂正)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	生と死ということについて、各自考えておくこと。90分以上を目安とする。準備学習時間の設定が困難である。
教科書・参考書	教科書 指定せず 参考書 Elisabeth Kubler-Ross: 死ぬ瞬間-死とその過程について (中公文庫). 中央公論新社. 石飛 幸三: 「平穏死」のすすめ 口から食べられなくなったらどうしますか. 講談社 聖路加国際病院看護部緩和ケア検討会症状マネジメントグループ: がん疼痛マネジメントマニュアル. 医学書院
オフィス・アワー	火or水12:10~12:50(木村研究室)
国家試験出題基準	専門基礎: 2-7-J 4-2-D-g 2 理学療法評価学 7疾患、障害 J悪性腫瘍 4地域理学療法学 2評価と支援 D終末期 g 悪性腫瘍
履修条件・履修上の注意	特になし

国家試験出題基準	【理学療法士】 ≪専門基礎≫－Ⅱ－４－D
履修条件・履修上の注意	講義中の私語，スマートフォン・携帯電話の使用，講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や，それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ，その回の講義の出席を認めない場合もあります。

講義科目名称：リハビリテーション概論

授業コード：2P073

英文科目名称：Rehabilitation Concept

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
松澤 正			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 リハビリテーションとは 定義、理念、歴史	松澤
	第2回 障害論 障害とは、障害のレベル、障害者の実態	松澤
	第3回 障害者の心理 障害者の心理的適応、特徴、障害受容	松澤
	第4回 リハビリテーションの構成 医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション	松澤
	第5回 医学的リハビリテーション 目的によるリハビリテーション、時期的リハビリテーション	松澤
	第6回 チーム医療 リハビリテーション医療の職種	松澤
	第7回 リハビリテーション医療の進め方 診断、情報収集、ケース会議	松澤
	第8回 地域リハビリテーション 地域リハビリテーションとは、地域リハビリテーションの施設	松澤
	第9回 リハビリテーションにおける評価学 評価とは、情報収集の方法、評価の種類	松澤
	第10回 リハビリテーションにおける治療学 リハビリテーションの治療手段、理学療法、作業療法、補装具療法	松澤
	第11回 教育的リハビリテーション 特別支援教育の歴史、特徴	松澤
	第12回 職業的リハビリテーション 職業的リハビリテーションとは、職業相談、職業評価、職業訓練、就職斡旋	松澤
	第13回 社会的リハビリテーション 社会的リハビリテーションとは、社会保障、社会保険、社会福祉	松澤
	第14回 寝たきり老人のリハビリテーション 寝たきり老人とは、寝たきり老人の実態、障害、リハビリテーション	松澤
	第15回 認知症リハビリテーション 認知症のリハビリテーション	松澤
科目の目的	リハビリテーションにおける医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション領域の目的、対象、方法を通して、リハビリテーションの中での理学療法士や看護師の位置付けや役割を理解させる。【知識・理解】	
到達目標	リハビリテーション医療の中での理学療法士や看護師の役割を理解し、実践できるようになることを目標にする。	
関連科目	理学療法概論、リハビリテーション医学	
成績評価方法・基準	試験100%（レポートを課す場合もある）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1. 障害や福祉に関する用語を調べ、学習する。 2. できれば障害福祉施設でのボランティア活動をする。 1コマあたりの準備学習時間の目安：1時間	
教科書・参考書	教科書：使用しない（プリント教材を資料する） 参考書1：「入門リハビリテーション概論」中村隆一（医歯薬出版） 参考書2：「現代リハビリテーション医学」千野直一（金原出版）	
オフィス・アワー	講義の前後	
国家試験出題基準	《専門基礎》 Ⅲ-2-A-a~e, B-a. b, C-a~d, D-a~d, E-a~e	
履修条件・履修上の注意	特になし	

講義科目名称：リハビリテーション関連領域論

授業コード：2P074

英文科目名称：Related Fields to Rehabilitation

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
関 修司	伊藤まゆみ	清水美和子	谷 哲夫

授業形態	講義形式	担当者
授業計画	<p><作業療法> (関 修司)</p> <p>第1回 作業療法総論 定義、歴史、作業療法の範囲</p> <p>第2回 作業療法各論 身体障害の作業療法</p> <p>第3回 作業療法各論 精神障害の作業療法</p> <p>第4回 作業療法各論 発達障害・老年期障害に対する作業療法</p> <p>第5回 作業療法各論 生活環境、他職種連携 <看護> (伊藤まゆみ、星野泰栄)</p> <p>第6回 看護とは (伊藤)</p> <p>第7回 看護業務の範囲の広がり、看護の概念と看護の視点 (伊藤)</p> <p>第8回 リハビリテーション看護の概要(1) リハビリテーション看護の概念、目的、対象 (伊藤)</p> <p>第9回 リハビリテーション看護の概要(2) リハビリテーション看護の特徴、看護師の役割と専門性 (清水)</p> <p>第10回 チーム医療における連携 (清水)</p> <p><言語聴覚療法> (谷 哲夫)</p> <p>第11回 言語聴覚療法とは 言語障害の定義 言語聴覚士の役割 言語療法の定義 言語聴覚士の役割</p> <p>第12回 失語症の症状 失語症と、それに伴う周辺症状 失語症の治療の実際</p> <p>第13回 失語症の治療 失語症の捉え方(タイプ分類)の演習 治療法の紹介 構音障害の治療の実際 嚥下障害の治療法理論</p> <p>第14回 摂食・嚥下障害の症状 嚥下障害の種類と症状 吃音の治療理論 吃音の治療の実際</p> <p>第15回 摂食・嚥下障害の治療 基本的手技の紹介と演習 超高齢化社会での2025年モデルに向けて</p>	<p>関 修司</p> <p>関 修司</p> <p>関 修司</p> <p>関 修司</p> <p>関 修司</p> <p>伊藤まゆみ</p> <p>伊藤まゆみ</p> <p>伊藤まゆみ</p> <p>清水美和子</p> <p>清水美和子</p> <p>谷 哲夫</p> <p>谷 哲夫</p> <p>谷 哲夫</p> <p>谷 哲夫</p> <p>谷 哲夫</p>
科目の目的	<p>リハビリテーション医療はチーム医療であるといわれる。本講義においては、チームを構成する専門職の中から、作業療法、言語聴覚療法、看護についてその概要を学習する。すなわち作業療法士の業務内容、基本的な考え方、身体障害・精神保健・発達障害などの作業療法の対象領域とそれらに対する作業療法の評価・治療について、言語聴覚療法士の仕事・職場・職域、言語聴覚障害の種類とその原因、病態とそれらに対する評価・治療、看護の機能と役割、リハビリテーション看護の概念と目的、リハビリテーション看護の技術などについて学習する。多職種を理解することにより、多様化するクライアントのニーズに対応できるチーム医療についての理解を深める。【知識・理解】</p>	
到達目標	<p>作業療法・言語聴覚療法・看護について理解し、チーム・アプローチの基礎を築くことができる</p>	
関連科目	<p>リハビリテーション概論、理学療法概論、リハビリテーション医学</p>	

成績評価方法・基準	各担当者が試験を実施し（各3分の1）、その合計を100として評価する
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	15時間 授業テーマについては事前に調べておくことが望ましい。授業後には、そのテーマについて復習をすること。1コマあたりの目安は1時間。
教科書・参考書	<言語聴覚療法> 教科書：なし 参考書：なし（授業時の資料） <作業療法> 教科書：なし
オフィス・アワー	関 修司、谷 哲夫：授業の前後（非常勤講師室） 伊藤まゆみ（研究室303）、清水美和子（研究室321）：授業日の17時まで
国家試験出題基準	<<専門基礎>>-II-3-G-bc <<専門基礎>>-III-1-A-d
履修条件・履修上の注意	<言語聴覚療法>特になし

	《専門》- I - 3 - F - a 《専門》- I - 3 - F - b 《専門》- I - 3 - F - c
履修条件・履修上の注意	講義中の私語，スマートフォン・携帯電話の使用，講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や，それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ，その回の講義の出席を認めない場合もあります。 「初級障がい者スポーツ指導員」の資格取得要件科目です。

講義科目名称：安全管理

授業コード：2P076

英文科目名称：Security Management

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
高橋 篤			

授業形態	講義	担当者
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書・参考書		
オフィス・アワー		
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：生体計測工学

授業コード：2P077

英文科目名称：Biomeasurement Engineering

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
目 黒 力	仲 保 徹		

授業形態	講義13回 演習2回		担当者
授業計画	第1回	生体計測工学概要 生体計測工学とはなにか、その定義と領域を学ぶ	目黒
	第2回	何を測るのか 生体を計測するにあたっての主体そのものはなにかを学ぶ	目黒
	第3回	尺度水準と誤差 様々に計測されたデータを区分すること、誤差について学ぶ	目黒
	第4回	電気生理学的基礎 生体計測をするにあたって必要な電気とその生理作用について学ぶ	目黒
	第5回	生体電気信号を測るしくみ 生体電気信号の性質とアーチファクトについて学ぶ	目黒
	第6回	静電気と静電誘導 電気回路の基礎としてまず静電誘導について学ぶ	目黒
	第7回	コンデンサ回路 コンデンサーとはなにかその性質は何かについて学ぶ	目黒
	第8回	直流回路 抵抗がある直流回路の基礎について学ぶ	目黒
	第9回	電磁誘導 電気とコイルと磁力について学ぶ	目黒
	第10回	交流回路 交流でのコイルとコンデンサーと抵抗からなる回路の挙動と生体の関係について学ぶ	目黒
	第11回	三次元動作解析装置概論 動作解析とその手法ならびに測定手法について学ぶ	目黒
	第12回	動作解析と画像解析 動作解析にもちいられる二次元動作解析について学ぶ	目黒
	第13回	三次元動作解析 現在用いられる最もポピュラーな手法である三次元動作解析装置について学ぶ	目黒
	第14回	三次元動作解析装置を用いた演習 実際に三次元動作解析装置を用いてどのように測定するかその手法を学ぶ	目黒
	第15回	三次元動作解析を用いての測定 自分たちのデータから三次元動作解析からわかることを学ぶ	目黒
科目の目的	医療の現場や基礎医学の授業・実習で使われるヒトの機能や形態を計測する機器の基本的な原理や使用方法を理解するために、対象から客観的な情報を抽出するために必要な基準と手法、代表的な人間の身体に関する物理量を取り上げ、これら諸量の生理学的意義と計測の目的、計測法の原理などについて学ぶ。【思考・判断】		
到達目標	計測はどのように自然を客観的に記述するかを考える基礎的な作業であり、事実仮説を検証するための定量的表現を与える作業である。本講ではまず計測工学の一般的事項として、すべての計測の基礎となる国際単位系（SI）の定義から出発し、真の値、計測標準、誤差と精度、測定値の不確かさなどの概念を理解する。次に、人間を対象とした計測技術の特殊性をその収集方法・強度・精度・S/N比・再現性・個体差など種々の点から理解する。続いて代表的な人間の身体に関する物理量を取り上げ、これら諸量の生理学的意義と計測の目的、計測法の原理などについて体系的に理解する。		
関連科目	運動学 運動学実習 リハビリテーション工学 臨床動作解析学		
成績評価方法・基準	定期試験（90％）レポート等（10％）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	テキストの事前学習が望ましい（15） 事前・事後学習あわせて90分程度		
教科書・参考書	教科書：「初学者のための生体機能の測り方」加藤 象二郎、大久保 堯夫 日本出版サービス 教科書：「First Stageシリーズ 電気・電子入門」日高邦彦・清水五男 実教出版		
オフィス・アワー	講義日12：10～13：00		
国家試験出題基準			

履修条件・履修上の注意	テキストにて予習を行っておくこと
-------------	------------------

講義科目名称：医療統計学

授業コード：2P078

英文科目名称：Medical Statistics

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
木村 朗			

授業形態	講義1-15コマと演習1-15コマ すべて講義と演習の併用		担当者
授業計画	第1回	統計学の基礎と医療統計 日常生活と医療における統計を基に確率と統計を考える（次回の事前学習用課題呈示）	木村 朗
	第2回	1次元のデータ、数理統計基礎1 代表値	木村 朗
	第3回	2次元のデータ、数理統計基礎2 散布図 相関係数 直線のあてはめ	木村 朗
	第4回	確率、数理統計基礎3 ランダムネス 確率の定義	
	第5回	確率変数、数理統計基礎4 確率分布	木村 朗
	第6回	確率分布1、数理統計基礎5 二項分布 正規分布 ほか	木村 朗
	第7回	確率分布2、数理統計基礎6 指数分布	木村 朗
	第8回	多次元の確率分布 同時確率分布	木村 朗
	第9回	大数の法則と中心極限定理 大数の法則と中心極限定理の応用	木村 朗
	第10回	標本分布 母集団と標本 母数	木村 朗
	第11回	正規分布からの標本 標本分散の標本分布	木村 朗
	第12回	推定 標本と母平均に基づく母分散の求め方による区間推定	木村 朗
	第13回	仮説検定 検定の考え方	木村 朗
	第14回	回帰分析 回帰分析 回帰係数の推定	木村 朗
	第15回	医療統計入門 Rを用いた重回帰およびロジスティック回帰分析の演習	木村 朗
科目の目的	医療に携わる者として、大学教養レベルの統計学の基本的な知識を身につけ、医療に関連する課題に対する正しい統計手法の適応について理解し、生涯にわたり医療における不確実な課題に統計学を応用できる態度を滋養すること。 DPに則した知識・理解に関して医療統計学の基本を学び「多様な情報を適切に分析し、問題解決する方法を理解している」ようになるための知識と能力を身につけること。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は数の概念を説明できるようになること。 2. 学生はヒストグラムの概念と線形代数を応用することで、高校数学とは一線を画す確率を用いた現象の見方について説明できるようになること。 3. 学生は医療の課題で用いられる代表値と記述統計について統計検定2級程度の問題が解けるようになること。 4. 学生は確率密度関数、確率分布の説明ができるようになること。 5. 学生は分散分析、点推定、区間推定、検定について医療研究において頻出する例を挙げることができるようになること。 6. 学生は統計ソフトウェアRの基本的な操作をアシスタントツールを用いて操作できるようになること。 		
関連科目	情報処理Ⅰ・情報処理Ⅱ、生活の中の数学、公衆衛生学、理学療法研究論、卒業研究		
成績評価方法・基準	期末時筆記テスト80%、小テスト20%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Web上のkimuakilab.main.jpに掲載された事前学習ストーリーミング動画を視聴し、初めて聞く単語について、書き出し、ネット等で可能な範囲で内容を理解できるようにしておくこと。予習にかかる目安の時間は微積・統計を高校で履修した者は予習30分、履修していない者は90分程度、授業中にPC操作が完了した者の復習目安時間は30分、それ以上かかった者は本人の能力に応じて60分から120分。		

教科書・参考書	教科書：基礎統計学1 統計学入門 東京大学出版会. 参考サイト：kimuakilabo 学部学生向け、統計学習コーナー
オフィス・アワー	火or水12:10~12:50(木村研究室)
国家試験出題基準	1-1-E・F・G・I-d・e 1基礎理学療法 1理学療法の基本 E臨床疫学 F医療統計 Gエビデンスに基づく理学療法 I過程 d治療介入e 効果判定
履修条件・履修上の注意	特になし

講義科目名称：社会福祉・地域サービス論

授業コード：2P079

英文科目名称：Social Welfare and Community Services

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
尾方 仁			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1・2回 社会保障制度と社会福祉 (1)自分たちの生活と保健・医療・福祉制度とのかかわりをライフステージからみてみましょう！ (2)社会保障制度と社会福祉の概念</p> <p>第3回 保健・医療と社会福祉1 (1)保健・医療と福祉の概念 (2)保健・医療・福祉に関する歴史と主な制度（法律）</p> <p>第4回 保健・医療と社会福祉2 (3)地域保健サービス…地域保健法と地方自治、保健所・市町村保健センターの位置づけと主な業務</p> <p>第5・6回 保健・医療と社会福祉3 (4)医療提供施設と医療保険制度 ・医療を提供する施設に関する基本法（医療法） ・在宅医療を推進する訪問看護制度（訪問看護ステーション） ・医療保険制度（健康保険、国民健康保険、後期高齢者医療制度）と公費負担医療制度</p> <p>第7・8回 保健・医療と社会福祉4 (5)社会福祉 ・児童家庭福祉（児童福祉法と児童相談所、児童虐待の防止等に関する法律） ・高齢者福祉（老人福祉法、高齢者虐待の防止・高齢者の養護者に対する支援等に関する法律） ・障害者福祉（身体障害・知的障害・精神障害者福祉、障害者総合支援法、権利擁護）</p> <p>第9-11回 介護保険制度 (1)介護保険制度のねらいとその後の制度改正について (2)介護保険制度のしくみ (3)介護保険制度のサービスの種類・内容と主なサービス料金 (4)地域支援事業と地域包括支援センター</p> <p>第12・13回 所得保障制度 (1)公的年金保険制度 (2)雇用保険と労働者災害補償保険制度（労働基準法、労働安全衛生法などを含む）</p> <p>第14回 公的扶助 生活保護を中心に</p> <p>第15回 事例をとおして考えよう！ 住み慣れた地域で安心して生活するためにはどのような制度やサービスが必要か、考えてみましょう！（グループ・ワーク、講義）</p>	<p>尾方 仁</p> <p>尾方 仁</p> <p>尾方 仁</p> <p>尾方 仁</p> <p>尾方 仁</p> <p>尾方 仁</p> <p>尾方 仁</p> <p>尾方 仁</p> <p>尾方 仁</p> <p>尾方 仁</p> <p>尾方 仁</p> <p>尾方 仁</p> <p>尾方 仁</p> <p>尾方 仁</p> <p>尾方 仁</p>
科目の目的	保健・医療・福祉制度が存在する意義を確認し、専門職として基礎的な知識を持つとともに、自分や家族等が上手に活用できるようにする。【知識・理解】	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉は社会保険、公的扶助および公衆衛生・医療とならんで社会保障の一部であることを理解する。 2. 社会保障制度がライフサイクルとどのように関連しているのか説明できる。 3. 福祉制度全般と、日本の社会で確立されている福祉サービスの実際を知る。 	
関連科目	公衆衛生学	
成績評価方法・基準	筆記試験100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	日頃から家族や身近な人から情報を得ること、及び配付資料を読んでおくこと。 学習時間の目安：1コマあたり1時間	
教科書・参考書	なし	
オフィス・アワー	講義終了後	
国家試験出題基準	《専門基礎》-Ⅲ-1-C-a, b, c	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：障害者スポーツ・レクリエーション論

授業コード：2P080

英文科目名称：Adapted Sports and Recreation Therapy

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
城下 貴司			

授業形態	講義（6コマ）、講義と実技（2コマ）、実技（7コマ）		担当者
授業計画	<p>第1回 障がい者福祉施策と障がい者スポーツ（講義） 関連法律、障害者手帳とその判定などの福祉制度と障害者スポーツの位置づけとそれに関わる施策の動向について学ぶ</p> <p>第2回 障害者福祉施策と障がい者スポーツ 障がい者スポーツの意義と理念（講義） 障害者スポーツの定義や社会的役割を学ぶ</p> <p>第3回 障がい者スポーツの意義と理念 障がい者スポーツの理解とスポーツ 身体障害(内部障害含む)（講義） 意義と理念とは、歴史的背景も含めて学ぶ</p> <p>第4回 障がい者スポーツの理解とスポーツ 身体障害(内部障害含む)（講義） 身体障害(内部障害含む)には障害者スポーツが存在する、それらを紹介し理解する</p> <p>第5回 (公財)日本障害者スポーツ協会公認 障がい者スポーツ指導者制度（講義） 障害者スポーツ指導者制度を紹介する</p> <p>第6回 全国障害者スポーツ大会概要（講義） 全国障害者スポーツ大会について、その歴史から現状を理解する</p> <p>第7・8回 障害に応じたスポーツの工夫(実技) シドニーパラリンピック車椅子バスケットボール銅メダリスト塚本京子さんと上村知佳さんおよび高橋さん、車椅子バスケットチームの10名程度、車椅子ラグビーの障がい者トレーナー三阪さん、車椅子ラグビーのメンバー10名程度、ブラインドサッカー加藤健人さん、による障害に応じたスポーツの工夫を学ぶ</p> <p>第9・10回 ボランティア論（講義と実技） ボランティアとは、その魅力、心得について学ぶ</p> <p>第11~15回 障がい者との交流(実技)：体育棟 車椅子ラグビーチームを招致し障害者との交流をする</p>	<p>城下</p> <p>城下</p> <p>城下</p> <p>城下</p> <p>城下</p> <p>城下</p> <p>城下</p> <p>城下</p> <p>城下</p> <p>城下</p>	
科目の目的	<p>「障害のない人はスポーツをした方がよいが、障害がある人はスポーツをしなければならない」というHeinz Freiの言葉からも障害者にとってスポーツは必修である、その障害者のためのスポーツを理学療法の立場から、その基地知識を学ぶ。 *ディプロマ・ポリシー：【態度】</p>		
到達目標	各々の障害レベルに合わせたスポーツ指導を体験する		
関連科目	<p>【教養科目群】心理学, 生命倫理, 教育学, 社会学, 大学の学び入門 【専門基礎科目群】生理学Ⅰ・Ⅱ, 人間発達学, 臨床神経学Ⅰ(神経内科学), 臨床神経学Ⅱ(小児神経学・脳神経外科学), 精神医学, 小児科学, リハビリテーション医学, 老年医学, カウンセリング, リハビリテーション関連領域論, 臨床心理学, 安全管理, 生体計測工学, 医療統計学 【専門科目群】運動器系理学療法評価・治療学, 小児理学療法学, 理学療法特殊講義</p>		
成績評価方法・基準	課題レポート(テーマ「障害者スポーツ大会ボランティアを経験して」)100% ただし、欠席および遅刻は減点する		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各授業後は1時間程度の復習と積極的に障がい者スポーツのボランティアに参加すること		
教科書・参考書	<p>教科書：障害者スポーツ指導教本 初級・中級 新刊 株式会社ぎょうせい</p> <p>参考書：全国障害者スポーツ大会競技規則集(解説付)公益財団法人日本障がい者スポーツ協会 参考書：スポーツ理学療法学—動作に基づく外傷・障害の理解と評価・治療の進め方 第2版 メジカルビュー社</p>		
オフィス・アワー	水曜日：12：10～13：00		
国家試験出題基準	特になし		
履修条件・履修上の注意	<p>実技がある動きやすい服装で望むこと 下記単位を取得した後、「公益財団法人日本障がい者スポーツ協会」に「障がい者スポーツ指導員初級」を申請、登録費用を納めることにより資格取得が可能。 ≪取得要件科目≫ 科目名、開講学年・学期、必修・選択 「障害者スポーツ・レクリエーション論」、1学年・前期、選択 「臨床心理学」、1学年・後期、必修 「安全管理」、4学年・後期、必修</p>		

講義科目名称：リハビリテーション工学

授業コード：2P081

英文科目名称：Rehabilitation Engineering

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
目黒 力			

授業形態	講義15回	担当者
授業計画	<p>第1回 リハビリテーション工学とは リハビリテーション工学をはなにか、世界はどのように取り組んでいるか学ぶ</p> <p>第2回 リハビリテーション工学と関連分野 リハビリテーション工学と類似するあるいは関連する学術分野の取り組みについて学ぶ</p> <p>第3回 工学的手法からみた車いすの解析 車いすを工学的に解析する手法について検討する</p> <p>第4回 車いすの走行 車いすが走行する際、車いすに生じる現象について解析する</p> <p>第5回 車いすと人体 車いすを人がこぐ場合、人にはどのような筋活動が生じているか、またその重心の計測方法について学ぶ</p> <p>第6回 電動車いす 一般的な電動車いすの区分とその特徴について学ぶ</p> <p>第7回 福祉車両 障害者や高齢者が利用する車両とその特徴について学ぶ</p> <p>第8回 視覚障害 視覚障害者に対するリハビリテーション工学の実際と課題を検討する</p> <p>第9回 聴覚障害 聴覚障害者に対するリハビリテーション工学の実際と課題を検討する</p> <p>第10回 義肢装具 開発が著しい義肢装具とその最新状況について学ぶ</p> <p>第11回 シーティング 姿勢保持装置とはなにか、その役割と課題について学ぶ</p> <p>第12回 コミュニケーション機器 コミュニケーション分野におけるリハビリテーション工学からのアプローチについて学ぶ</p> <p>第13回 その他の機器 そのほか萌芽的分野や福祉分野へのアプローチなどを学ぶ</p> <p>第14回 研究発表会 学んだ事から各自興味をもった最新のリハビリテーション工学についてまとめる</p> <p>第15回 発表会 学んだ事から各自興味をもった最新のリハビリテーション工学について発表する</p>	<p>目黒</p> <p>目黒</p> <p>目黒</p> <p>目黒</p> <p>目黒</p> <p>目黒</p> <p>目黒</p> <p>目黒</p> <p>目黒</p> <p>目黒</p> <p>目黒</p> <p>目黒</p> <p>目黒</p> <p>目黒</p> <p>目黒</p> <p>目黒</p> <p>目黒</p>
科目の目的	リハビリテーション工学とは、工学的手法をリハビリテーションに応用するものであり、その応用範囲はとて も広く、リハビリテーションの評価、治療、装具、生活支援など様々なものに応用されている。本科目では、 この中でも、身体機能の評価に用いられる工学的手法について扱い、利用できるようにすることを目的とす る。【技能・表現】	
到達目標	障害者に対する工学からのアプローチを理解し、その概要を理解する。	
関連科目	運動学 生活環境学 日常生活活動学	
成績評価方法・基準	講義内発表(50%) 課題提出(50%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	シラバスに沿って予習すること。(15)事前・事後学習あわせて90分程度	
教科書・参考書	教科書：使用しない 参考書：リハビリテーション工学と福祉機器(リハビリテーションMOOK) 金原出版	
オフィス・アワー	講義日12:00~13:00	
国家試験出題基準	II-3-G-k	
履修条件・履修上の注意	発表会を行う予定である	

講義科目名称：理学療法概論

授業コード：2P082

英文科目名称：Introduction to Physical Therapy

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
木村 朗			

授業形態	講義14コマ・学外実習（施設見学）1コマ		担当者
授業計画	第1回	オリエンテーション・イントロ 講義概要の説明・理学療法を知ったきっかけを話題としたグループワーク（GW）	木村 朗
	第2回	理学療法とは1 「理学療法・士とは何か」理学療法の定義と歴史、ルーツの解説 「治らないものを治すとは？」	木村 朗
	第3回	理学療法とは2 理学療法の役割と職域、「理学療法に求められていることは何か」身近な話題からGW	木村 朗
	第4回	理学療法とは3 理学療法の対象の理解・身体の不自由な人は、どのように社会と歴史を生きてきたか（小説やドキュメンタリー、映画から感じる障害と考える障害を知る）	木村 朗
	第5回	理学療法とは4 「障害とは」（社会の中の理学療法、リハビリテーションの中での理学療法の位置づけ）	木村 朗
	第6回	理学療法と社会の関わり 各種理学療法技術の歴史・理学療法を作ってきた人々1・世界の理学療法1 GW	木村 朗
	第7回	理学療法技術の歩み1 理学療法を作ってきた人々2・世界の理学療法2 GW	木村 朗
	第8回	理学療法技術の歩み2 関連職種の法律と理学療法士法（医師法・保助看法・理学療法士及び作業療法士法）・公衆衛生と理学療法	木村 朗
	第9回	理学療法と法律 理学療法の法規 理学療法の実際（関連施設、学内の理学療法士と語る）	木村 朗
	第10回	理学療法と管理・チームワーク 理学療法士に求められる倫理観（劇画、映像等）を基に語るGW	木村 朗
	第11回	理学療法士のルーツ1 理学療法（学）の歩み、理学療法学徒として知っておくべき治療家の資料を収集しディスカッションを行う。	木村 朗
	第12回	理学療法士のルーツ2 理学療法（学）の歩み、理学療法学徒として知っておくべき治療家の資料を収集しディスカッションを行う。	木村 朗
	第13回	理学療法士のルーツ3 理学療法（学）の歩み、理学療法学徒として知っておくべき治療家の資料を収集しディスカッションを行う。	木村 朗
	第14回	理学療法士のルーツ4 理学療法（学）の歩み、理学療法学徒として知っておくべき治療家の資料を収集しディスカッションを行う。	木村 朗
	第15回	理学療法の実際を知る 施設見学の実施 見学を通して感じたこと、考えたことを授業の最初に考えたことと比べ、報告する	木村 朗
科目の目的	理学療法士を目指す学生にとって、理学療法を俯瞰し、現在、過去未来の我が国の理学療法像のみならず、世界の理学療法を理解することで、生涯にわたり障害のもつ人の課題に取り組む態度を滋養すること。DPの目的に関して、保健医療専門職としての基礎的知識と、社会人としての教養を身につけること、先進・高度化する専門分野の基本的技術を提供することのための基本的な姿勢を身につけること。		
到達目標	1. 学生は理学療法の定義、対象、業務、歴史、保健医療福祉と社会的役割の点から理学療法を説明できるようになること。 2. 学生は理学療法技術の構成要素が言えるようになること。 3. 学生は今後の学習に必要な学習内容を説明できるようになること。 4. 学生はグループワークの中で自分の役割を果たし、かつ意見交換の記録を報告することができるようになること。		
関連科目	リハビリテーション概論、理学療法評価学、基礎理学療法学、日常生活活動学ほか		
成績評価方法・基準	ジャーナル（毎回の講義の振り返り）の提出（50%）、プレゼンテーション（25%）、小テスト（約25%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各講義題目内容に対し、教科書・参考書の該当部分を読み、理解しづらい単語や概念をノートに記載し、調べておくこと。約90分。		

教科書・参考書	教科書：理学療法概論テキスト（第3版） 細田多穂他 南江堂 参考書：理学療法のルーツ 武富由雄 共同医書出版
オフィス・アワー	火or水12:10～12:50(木村研究室)
国家試験出題基準	3-1.D-a1・2 専門基礎 3-1.D 関連法規 a 医療法規 1医療法 2理学療法士法及び作業療法士法
履修条件・履修上の注意	特になし

講義科目名称：基礎理学療法学

授業コード：2P083

英文科目名称：Basic Physical Therapy Science

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
中 徹			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 健康の状態としての障がい～障がいと健康、異常と正常、否定と肯定の間～【時間内提出課題】 障がいと健康と広がりを理解する</p> <p>第2回 ヒトとしての障がいの種類と内容～形態と機能の不具合さ1～【時間内提出課題】 形態と機能の用語を理解し、それが不自由であることの意味を理解する</p> <p>第3回 ヒトとしての障がいの種類と内容～形態と機能の不具合さ2～【時間内提出課題】 形態と機能の関連性を理解し、その不自由さのメカニズムを理解する</p> <p>第4回 ヒトとしての障がいの種類と内容～形態と機能の関連性～【時間内提出課題】 実例をもって形態と機能の関連性を理解し、その不自由さのメカニズムを理解する</p> <p>第5回 人・人間としての障がいの種類と内容～活動の制限と参加の制約【時間内提出課題】 運動能力の障害を理解し、その不自由さのメカニズムを理解する</p> <p>第6回 障がいにとっての個人・環境因子～介入と考慮のちがい～【時間内提出課題】 個人因子と環境因子の定義を理解し、障がいへの影響を理解する</p> <p>第7回 ICFまとめ～ICFと理学療法の関係【時間内提出課題】 理学療法の実施に対してICFが答えていることを理解する</p> <p>第8回 ICFの実例に基づく演習【時間内提出課題】 演習としてICFの概念と広がりについて、実例をもって説明できる</p> <p>第9回 形態の障がいの病態と原因（骨・支持体）【時間内提出課題】 形態としての骨について理解を深める</p> <p>第10回 機能の障がいの病態と原因1（運動器＝骨・関節・フレーム）【時間内提出課題】 関節を構成する骨について理解を深める</p> <p>第11回 機能の障がいの病態と原因2（運動器＝筋1 - アクチュエーター）【時間内提出課題】 関節を動かす筋の性質を理解する</p> <p>第12回 機能の障がいの病態と原因3（運動器＝筋2 - アクチュエーター）【時間内提出課題】 筋の物性を理解する</p> <p>第13回 機能の障がいの病態と原因4（神経系＝脳と脊髄1 - 制御）【時間内提出課題】 神経系の機能分担を理解する</p> <p>第14回 機能の障がいの病態と原因5（神経系＝脳と脊髄2 - 制御）【時間内提出課題】 運動制御における神経の役割を理解する</p> <p>第15回 機能の障がいの病態と原因6（呼吸・循環系＝心肺機能 - エネルギー） 運動にとっての呼吸循環器系の働きを理解する</p>	中 徹 中 徹 中 徹 中 徹 中 徹 中 徹 中 徹 中 徹 中 徹 中 徹 中 徹 中 徹 中 徹 中 徹 中 徹 中 徹
科目の目的	「障がい」の概念をICF（国際生活機能分類）で理解する 機能の障がいの三領域（運動器障害・神経系障害・循環器系障害）の病態を理解する 本授業はディプロマポリシー1の「知識・理解を高めること」を目的とした科目である。	
到達目標	ICFの概念図を書いてそれぞれの因子と関係性を説明できる 機能障害の病態とそれに対応する理学療法について説明できる	
関連科目	基礎となる科目・・・理学療法概論 将来繋がる科目・・・全ての専門科目	
成績評価方法・基準	提出課題40%＋試験60%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	ICFテキストの各回該当部分の予習と復習（90分程度） 講義資料の各回該当部分の予習と復習（90分程度）	
教科書・参考書	第1～8回 教科書；障害者福祉研究会（編集）：ICF国際生活機能分類－国際障害分類改訂版．中央法規出版 第9～15回 教科書なし；講義資料を配布する	
オフィス・アワー	月曜12:15～15:00	
国家試験出題基準	《専門》 I - 1 - D 《専門》 I - 3 - B・C・D 《専門》 II - 7 - B・C・D・E・F・G・H	
履修条件・履修上の注意	前半は社会科学・後半は自然科学の授業で広範囲な内容なので、予習と復習を十分に確保すること	

講義科目名称：理学療法セミナー

授業コード：2P084

英文科目名称：Seminar on Physical Therapy

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
岡崎 大資			

授業形態	演習	担当者
授業計画	<p>1. 演習 オリエンテーション、評価学実習のふりかえりと今後の展望</p> <p>2. 演習 動作分析1 動作分析の再検討</p> <p>3. 演習 動作分析2 動画で検討する動作分析</p> <p>4. 演習 PBL グループ学習1 模擬患者を対象とした系統的理学療法過程の学習 (1) 中枢神経疾患</p> <p>5. 演習 PBL グループ学習2 模擬患者を対象とした系統的理学療法過程の学習 (2) 中枢神経疾患</p> <p>6. 演習 PBL グループ学習3 模擬患者を対象とした系統的理学療法過程の学習 (3) 中枢神経疾患</p> <p>7. 演習 PBL グループ学習4 模擬患者を対象とした系統的理学療法過程の学習 (4) 中枢神経疾患</p> <p>8. 演習 PBL グループ学習5 模擬患者を対象とした系統的理学療法過程の学習 (1) 整形外科疾患</p> <p>9. 演習 PBL グループ学習6 模擬患者を対象とした系統的理学療法過程の学習 (2) 整形外科疾患</p> <p>10. 演習 PBL グループ学習7 模擬患者を対象とした系統的理学療法過程の学習 (3) 整形外科疾患</p> <p>11. 演習 PBL グループ学習8 模擬患者を対象とした系統的理学療法過程の学習 (4) 整形外科疾患</p> <p>12. 演習 症例検討 グループ学習1 評価学実習で学んだ知識・技術の共有と統合 (1)</p> <p>13. 演習 症例検討 グループ学習2 評価学実習で学んだ知識・技術の共有と統合 (2)</p> <p>14. 演習 症例検討 グループ学習3 総合臨床実習に向けた理学療法過程の検討 (1)</p> <p>15. 演習 症例検討 グループ学習4 総合臨床実習に向けた理学療法過程の検討 (2)</p>	<p>岡崎</p> <p>岡崎</p> <p>岡崎</p> <p>浅田 岡崎</p> <p>浅田 岡崎</p> <p>浅田 岡崎</p> <p>浅田 岡崎</p> <p>浅田 岡崎</p> <p>浅田 岡崎</p> <p>浅田 岡崎</p> <p>浅田 岡崎</p> <p>浅田 岡崎</p> <p>理学療法士 全教員</p> <p>理学療法士 全教員</p> <p>理学療法士 全教員</p> <p>理学療法士 全教員</p>
科目の目的	各学生が評価実習で学んだ理学療法評価技術から問題点の抽出、プログラム立案までの一連の過程をグループワークを通して統合することを目的とする。また、総合臨床実習にむけた学習準備状態の確立を目指す。【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】【関心・意欲】	
到達目標	グループワークを通して設定された模擬患者を対象とした系統的な理学療法過程を検討し、理解することができる。 各疾患に対する適切な理学療法評価の選択ができる。 視聴覚教材を用いた動作分析ができる。 理学療法評価を基に必要な理学療法プログラムの立案ができる。 臨床の現場で状況に応じた行動がとれるようになる。	
関連科目	理学療法評価学演習、臨床推論演習、評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、Ⅱ	
成績評価方法・基準	レポート (100%) 理学療法セミナーは評価学実習と密接な科目であり、評価学実習の単位修得が理学療法セミナーの単位認定条件である。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	評価学実習の反省と症例をとおした理学療法評価の把握 各回の予習時間は1時間程度である	
教科書・参考書	特に定めない	
オフィス・アワー	各担当教員の授業後	
国家試験出題基準	《専門》-V-1-G, H	

履修条件・履修上の注意	演習と実習を主とする科目であり、受け身ではなく自ら学ぼうとする態度で受講すること。積極的な授業への参加を求める。 評価学実習の成績評価と関連するため、評価学実習が不認定であった場合は理学療法セミナーも不認定となるので注意すること。
-------------	--

講義科目名称：理学療法特論

授業コード：2P085

英文科目名称：Advanced Physical Therapy

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
目 力			

授業形態	講義	担当者
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書・参考書		
オフィス・アワー		
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：臨床推論演習

授業コード：2P086

英文科目名称：Preparatory Practice in Bedside

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
鈴木 学	中 徹	浅田春美	岡崎資介
	黒川望	橋口優	鳥海亮

授業形態	講義（7回）、グループ学習（8回）			担当者
授業計画	第1回	臨床推論の基礎1：講義 臨床のための問題解決理論（仮説証明作業）		中徹
	第2回	臨床推論の基礎2：講義 疾患知識と医療情報からの推論		中徹
	第3回	臨床推論の基礎3：講義 主観的情報からの推論担当		中徹
	第4回	臨床推論の基礎4：講義 客観的情報（機能面）からの推論担当		中徹
	第5回	臨床推論の基礎5：講義 客観的情報（能力面）からの推論担当		中徹
	第6回	臨床推論の基礎6：講義 客観的情報（背景情報面）からの推論担当		中徹
	第7回	臨床推論の基礎7：講義 問題解決理論のまとめ 到達度確認演習担当、グループ演習の説明（PBLとは、学習の進め方）		中徹, 鈴木学
	第8回	臨床推論の応用1（担当：鈴木学） 模擬症例を通じた問題解決のためのグループ討論	シナリオ1	鈴木学, 浅田春美, 岡崎大資, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮
	第9回	臨床推論の応用2 模擬症例を通じた問題解決のためのグループ討論	シナリオ2	鈴木学, 浅田春美, 岡崎大資, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮
	第10回	臨床推論の応用3 模擬症例を通じた問題解決のためのグループ討論	シナリオ2	鈴木学, 浅田春美, 岡崎大資, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮
	第11回	臨床推論の応用4 模擬症例を通じた問題解決のためのグループ討論	シナリオ3	鈴木学, 浅田春美, 岡崎大資, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮
	第12回	臨床推論の応用5 模擬症例を通じた問題解決のためのグループ討論	シナリオ3	鈴木学, 浅田春美, 岡崎大資, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮
	第13回	臨床推論の応用6 模擬症例を通じた問題解決のためのグループ討論のまとめ	シナリオ1～3	鈴木学, 浅田春美, 岡崎大資, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮
	第14回	臨床推論の応用7 模擬症例を通じた問題解決のためのグループ討論のまとめ	シナリオ1～3	鈴木学, 浅田春美, 岡崎大資, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮
	第15回	成果発表 グループ検討した総合的な問題点やゴール設定の発表		鈴木学, 浅田春美, 岡崎大資, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮

		亮
科目の目的	病院や施設などでエビデンスに基づいた症例の情報分析や臨床推論を実施し評価治療に応用できるような臨床思考能力を獲得する。 ディプロマポリシーの1.知識・理解, 2.思考・判断, 4.関心・意欲, を向上させる。	
到達目標	模擬症例の情報から重要な事実を抽出できる。 事実からの確な問題点を想定できる。 問題点に対して仮説の設定および修正ができる。 自己学習の方法、文献検索、プレゼンテーションができる。 チーム医療に必要なコミュニケーションができる。 シナリオの情報を基に総合的な問題点抽出、ゴール設定、治療プログラム立案ができる。 臨床推論に基づいた評価実技の克服。	
関連科目	運動学, 臨床神経学, 理学療法評価学, 理学療法評価学演習, 臨床動作分析学, 神経系理学療法評価・治療学演習Ⅰ, 神経系理学療法評価・治療学演習Ⅱ, 装具学, 地域理学療法学, 評価学実習、理学療法セミナー, 総合臨床実習Ⅰ, 総合臨床実習Ⅱ	
成績評価方法・基準	筆記試験 40%、グループ学習結果 60% 1回欠席するごとに総合得点から2点減点していく 原則として再試験は実施しない	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1,2年次の基礎医学、臨床医学、運動器および神経系理学療法の知識 1,2年次の理学療法評価学関連の知識 準備時間：30～60分	
教科書・参考書	教科書：なし 参考書：模擬症例の疾患に関する書籍、文献（1～3年教科書）	
オフィス・アワー	水曜日 12:30～13:00	
国家試験出題基準	V-1-A (a) , 1-B	
履修条件・履修上の注意	実際の情報収集から評価, 問題点, ゴール設定の経緯を模擬症例を通してグループ討論して獲得していくため積極的に発言するとともに他人の意見に傾聴することも重要である。	

講義科目名称：理学療法研究論

授業コード：2P087

英文科目名称：Physical Therapy Research

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
木村 朗			

授業形態	講義12コマと演習3コマ	担当者
授業計画	<p>第1回 オリエンテーションと研究とは(木村) 【講義】 理学療法の研究の必要性 研究における倫理とは 理学療法で用いられる4大研究手法 実験研究 調査研究 症例研究 疫学研究 基礎研究と臨床研究の別 技術開発研究</p> <p>第2回 理学療法実験研究基礎1(木村) 【講義】 実験計画法とは 特性要因構造の理解 実験研究における計画手法と分散分析1</p> <p>第3回 理学療法実験研究基礎2(木村) 【講義】 実験研究における計画手法と分散分析2</p> <p>第4回 理学療法実験研究基礎3(木村) 【講義】 実験研究における計画手法と分散分析3</p> <p>第5回 理学療法実験研究基礎4(木村) 【演習】 実験研究における計画手法と直交表</p> <p>第6回 調査研究基礎1(木村) 【講義】 調査研究のあらまし アンケート調査法、質問紙法</p> <p>第7回 調査研究基礎2(木村) 【講義】 SD法、質問一回答の作成法 データセットの作成法</p> <p>第8回 調査研究基礎3(木村) 【講義】 調査研究におけるフィッシュボーンの考え方 結果系指標と要因系指標</p> <p>第9回 調査研究基礎4(木村) 【演習】 アンケート作成演習1 テーマ設定 グループワーク</p> <p>第10回 調査研究基礎5(木村) 【演習】 アンケート作成演習2 Rを活用した記述統計演習 重回帰分析演習</p> <p>第11回 症例研究基礎1(木村) 【講義】 症例研究とは シングルケーススタディ ケースシリーズスタディ</p> <p>第12回 症例研究基礎2(木村) 【講義】 ケーススタディ(成功例と苦渋例)の具体例解説</p> <p>第13回 疫学研究基礎1(木村) 【講義】 集団の健康特性を扱う学問としての疫学 疫学研究とは 疫学研究デザイン PICOの解説</p> <p>第14回 疫学研究基礎2(木村) 【講義】 臨床医学、理学療法研究の読み方(研究疑問、疑問の構造化、オッズを算出し、判断を示す)</p> <p>第15回 研究リテラシー資源と活用法(木村) 【講義】 本学 図書館 ネット活用方法など 研究の情報の収集方法、活用方法を学ぶ</p>	木村 朗 木村 朗 木村 朗 木村 朗 木村 朗 木村 朗 木村 朗 木村 朗 木村 朗 木村 朗 木村 朗 木村 朗 木村 朗 木村 朗 木村 朗 木村 朗
科目の目的	理学療法における研究の意義を理解すること。 生涯にわたり理学療法の改良と人間の健康について探求心をもつこと。 DPIに則った目的は保健医療分野の諸課題を見出し科学的洞察による的確判断ができる事。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学生は理学療法士が取り組むべき課題について、研究種別を理解し、それぞれの長所と短所、共有点と特異点が言えるようになること。 2. 学生は理学療法を介する健康課題をテーマとして、その問題の特性、要因について適切な種別を選択することができるようになること。 3. 学生は自ら興味をもった理学療法関連の研究論文を構造的に説明できるようになること。 	
関連科目	運動学、臨床動作分析学、臨床心理学、理学療法概論、基礎理学療法学、理学療法評価学、各系理学療法評価・治療学、物理療法学、日常生活活動学	
成績評価方法・基準	課題報告(50%)、小テスト(25%)、授業振り返りジャーナル(25%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義内容部分について、新しく目にした単語・概念・計算式等について、教科書およびWeb上で可能な限り調べ、ノートを準備の上、確認しておく。45分	
教科書・参考書	教科書：はじめての研究法 神陵文庫	
オフィス・アワー	火or水12:10~12:50(木村研究室)	

国家試験出題基準	専門基礎：1-1-E・F・G・H・I 1 基礎理学療法学1 理学療法の基本 E 臨床疫学 F医療統計 G エビデンスに基づく理学療法 H診療ガイドライン I 過程
履修条件・履修上の注意	演習時には充電を完了したPCを持参すること

講義科目名称：理学療法管理学

授業コード：2P088

英文科目名称：Physical Therapy Management

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
単位認定者	担当者		
岡崎 大資			

授業形態	講義	担当者
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書・参考書		
オフィス・アワー		
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：卒業研究

授業コード：2P089

英文科目名称：Graduation Studies

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	2単位	選択
単位認定者	担当者		
木村 朗			

授業形態	演習	担当者
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書・参考書		
オフィス・アワー		
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：理学療法評価学

授業コード：2P090

英文科目名称：Physical Therapy Evaluation

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
北村 達夫	中 徹	黒川 望	橋口 優
	鳥海 亮		

授業形態	講義3回、演習12回	担当者
授業計画	<p>第1回 【講義】理学療法評価の概念・目的</p> <p>第2回 【講義】理学療法における評価の種類（時期と対象）、問題解決のための評価過程 講義</p> <p>第3回 【講義】講義の概要・ガイダンス、形態測定の意義と目的、測定方法 講義の概要・ガイダンス、形態測定の意義と目的、測定方法</p> <p>第4回 【講義・演習】形態測定の意義と目的、測定方法 形態測定の方法（上肢・頸部）</p> <p>第5回 【演習】関節可動域測定 形態測定の方法（下肢・胸腰部）</p> <p>第6回 【演習】関節可動域測定 関節可動域測定（上肢・頸部）1</p> <p>第7回 【演習】関節可動域測定 関節可動域測定（上肢・頸部）2</p> <p>第8回 【演習】関節可動域測定 関節可動域測定（上肢・頸部）3</p> <p>第9回 【演習】関節可動域測定 関節可動域測定（上肢・頸部）4</p> <p>第10回 【演習】関節可動域測定 関節可動域測定（上肢・頸部）5</p> <p>第11回 【演習】関節可動域測定 関節可動域測定（下肢・胸腰部）1</p> <p>第12回 【演習】関節可動域測定 関節可動域測定（下肢・胸腰部）2</p> <p>第13回 【演習】関節可動域測定 関節可動域測定（下肢・胸腰部）3</p> <p>第14回 【演習】関節可動域測定 関節可動域測定（下肢・胸腰部）4</p> <p>第15回 【演習】関節可動域測定 関節可動域測定（下肢・胸腰部）5</p>	<p>中 徹</p> <p>中 徹</p> <p>北村</p> <p>北村、黒川、橋口、鳥海</p> <p>北村、黒川、橋口、鳥海</p> <p>北村、黒川、橋口、鳥海</p> <p>北村、黒川、橋口、鳥海</p> <p>北村、黒川、橋口、鳥海</p> <p>北村、黒川、橋口、鳥海</p> <p>北村、黒川、橋口、鳥海</p> <p>北村、黒川、橋口、鳥海</p> <p>北村、黒川、橋口、鳥海</p> <p>北村、黒川、橋口、鳥海</p> <p>北村、黒川、橋口、鳥海</p> <p>北村、黒川、橋口、鳥海</p> <p>北村、黒川、橋口、鳥海</p> <p>北村、黒川、橋口、鳥海</p> <p>北村、黒川、橋口、鳥海</p>
科目の目的	<p>1. 理学療法評価の意義、目的、評価の過程を知ること。</p> <p>2. 形態測定、関節可動域測定の知識と技術を取得すること。</p> <p>【知識・理解】</p>	
到達目標	<p>1. 理学療法評価の意義、目的、その過程を言及できる。</p> <p>2. 評価時に理学療法士が配慮すべき点を列挙できる。</p> <p>3. 形態測定、関節可動域測定が実施できる。</p>	
関連科目	解剖学、運動学、理学療法概論、表面解剖学と触診法、理学療法評価学演習、運動療法総論、運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、見学実習、評価学実習、総合臨床実習	
成績評価方法・基準	実技テスト（40％）、定期テスト（60％） ただし、単位認定のためには実技テスト、定期テストそれぞれでの60％以上の獲得を条件とする。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	身体ランドマーク、関節可動域測定の基本軸、移動軸、参考可動域を演習実施までに全て暗記すること。 各演習前には必ず実技の予習を、各演習後には必ず実技の復習を行い、知識と技術を習得すること。 必要な学習時間の目安は、1コマあたり45分。	
教科書・参考書	教科書：「理学療法評価学改訂第6版」松澤正、江口勝彦著（金原出版） 参考書：特に指定しない。理学療法評価に関する書籍全般。	

オフィス・アワー	中 徹 月曜日12時15分～15時 講義日の昼休み
国家試験出題基準	《専門基礎》Ⅱ-2-B-a、Ⅲ-1-A-e 《専門》Ⅱ-1-A、2-A、B、C-a、D、E-a～d、F、G、H Ⅱ-3-A-a～g、B-a～e、C-a～h、D、E-a～c、F-a Ⅱ-5-A、B-a～d、C V-1-C、D、E、F
履修条件・履修上の注意	演習時は測定しやすい・されやすい服装、測定器具を準備する。

講義科目名称：理学療法評価学演習

授業コード：2P091

英文科目名称：Practice in Physical Therapy Evaluation

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
黒川 望	中 徹	浅田 春美	北村 達夫

授業形態	講義（3回）、演習（12回）		担当者
授業計画	第1回 総論 講義1 理学療法における記録方法と情報収集	第2回 総論 講義2 筋力測定の意義と目的	中 徹 黒川 望
	第3回 各論 演習1 徒手筋力検査測定演習：導入	第4回 各論 演習2 徒手筋力検査測定演習：肩関節	黒川、北村 黒川、北村
	第5回 各論 演習3 徒手筋力検査測定演習：肘関節・前腕	第6回 各論 演習4 徒手筋力検査測定演習：手関節・手指	黒川、北村 黒川、北村
	第7回 各論 演習5 徒手筋力検査測定演習：肩甲帯	第8回 各論 演習6 到達度確認演習：上肢の徒手筋力検査	黒川、北村 黒川、北村
	第9回 総論 講義3 臨床で求められるセラピストとしての接遇	第10回 各論 演習7 徒手筋力検査測定演習：股関節	浅田 春美 黒川、北村
	第11回 各論 演習8 徒手筋力検査測定演習：股関節・膝関節	第12回 各論 演習9 徒手筋力検査測定演習：足関節	黒川、北村 黒川、北村
	第13回 各論 演習10 徒手筋力検査測定演習：頸部・体幹	第14回 各論 演習11 徒手筋力検査測定演習：全体のまとめ	黒川、北村 黒川、北村
	第15回 各論 演習12 到達度確認演習：下肢、頸部・体幹の徒手筋力検査		黒川、北村
科目の目的	解剖学・運動学で学んだ知識を再確認しながら、筋力検査の方法について理論と技術を学ぶ。評価技術の基本となる筋力検査として徒手筋力検査(MMT)を中心に学習し、1年時に学習した基本的な検査・測定技術を再確認し、確実に習得することを目的とする。【技能・表現】		
到達目標	1. 理学療法の記録や患者オリエンテーションの内容を臨病的に適切な言動や態度で説明できる。 2. 筋力検査の目的・意義・代表的な測定方法を説明できる。 3. MMTを実施できる（注意点や代償運動を説明できることを含む）。 4. 形態測定・関節可動域測定・筋力測定を他者に実施できる。		
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、運動学Ⅰ・Ⅱ、理学療法概論、表面解剖学と触診法、理学療法評価学、運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、見学実習、評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ		
成績評価方法・基準	筆記試験(7割)及び実技試験(3割)とする。筆記試験を成績判定の基礎とするが、そのためには実技試験の合格が前提となる。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	MMTの演習が始まるまでに作用する筋の起始・停止、神経支配、髄節を全て復習しておくこと。各演習の前には必ず実技の予習を行うこと。各演習後、予習と合わせて復習も行うこと。（予習・復習：1時間程度）		
教科書・参考書	【教科書】「理学療法評価学改訂第4版」松澤 正著（金原出版株式会社） 「新・徒手筋力検査法 原著第9版」Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery著、津山直一・他訳（協同医書出版社） 【参考書】「PT・OTのための測定評価DVD series3 MMT-頭部・頸部・上肢」福田 修監修（三輪書店） 「PT・OTのための測定評価DVD series4 MMT-体幹・下肢」福田 修監修（三輪書店）		
オフィス・アワー	講義日の昼休み		

国家試験出題基準	《専門基礎》-Ⅲ-1-A-e, 《専門》-Ⅱ-3-C-d
履修条件・履修上の注意	演習時は検査しやすい・されやすい服装を準備すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
高橋 正明	浅田 春美		

授業形態	講義（2コマ）・演習（13コマ）	担当者
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 授業目的は、理学療法において観察による動作分析が、いかに重要かを具体的に説明できること。 KW：重心移動, 基本動作, 正常動作分析, 臨床動作分析</p> <p>第2回 動作理解のための力学的基礎 運動・動作を作り出す人という構造物の基本的特徴について論理的に説明できること。 KW：運動連鎖, 回転運動, 力のモーメント</p> <p>第3回 基本動作時の回転運動 人の重心移動では真下方向以外は種々の回転運動で構成されていることを、自身の身体を使って説明できること。 KW：回転軸の見極め, 摩擦力, 時計回り-反時計回りの力</p> <p>第4回 正常基本動作の分析 <ビデオを見ながらの演習> 動作を相に分けて分析できること。 立ち上がり-すわる動作を力学的に説明できること。 KW：座位姿勢, 支持基底面の変化, 重心移動</p> <p>第5回 正常基本動作の分析 <ビデオを見ながらの演習> 寝返り, 起き上がり動作を力学的に分析できること。 KW：長円形の体幹, 肩甲骨の役割, 転がり運動</p> <p>第6回 正常基本動作の分析 <ビデオを見ながらの演習> 歩行動作をエネルギー効率の視点で説明できること。 KW：直立二足歩行, エネルギー効率と歩容, ロッキング</p> <p>第7回 正常動作分析のまとめと復習 これまでの授業内容について理解度チェック（中間テスト）</p> <p>第8回 臨床動作分析とは 中間試験のフィードバック 正常動作と異常動作の分析における視点および目的の相違点と共通点について説明できること。 KW：視点の違い(症状と動作), 正常-異常要素, 陰性-陽性徴候, 背臥位から立位までの動作パターン</p> <p>第9回 疾患別動作分析<整形疾患> 整形疾患の異常動作の特徴 KW：代償動作の役割（筋力低下, 痛み, 関節拘縮, 他）</p> <p>第10回 疾患別動作分析<片麻痺> 片麻痺者のマット上動作分析 KW：半身まひ, 共同運動, 連合反応, 随意運動</p> <p>第11回 疾患別動作分析<片麻痺> 片麻痺者の歩行分析 KW：分回し歩行, 筋トーンの異常, 粗大運動</p> <p>第12回 疾患別動作分析<パーキンソン病・失調症> パーキンソン病, 失調症者の動作分析 KW：神経学的症状, バランス障害, 歩行障害</p> <p>第13回 疾患別動作分析<脊髄損傷> 脊髄損傷者の動作分析 KW：損傷部位と残存機能, 移乗動作, 移動動作</p> <p>第14回 疾患別動作分析<その他> その他の異常動作分析 KW：脳性まひ, 筋ジストロフィー症, 他</p> <p>第15回 まとめ グループ別発表会 KW: キーワードの略</p>	<p>浅田春美 高橋正明</p> <p>浅田春美 高橋正明</p> <p>浅田春美 高橋正明</p> <p>浅田春美 高橋正明</p> <p>浅田春美 高橋正明</p> <p>浅田春美 高橋正明</p> <p>浅田春美 高橋正明</p> <p>浅田春美 高橋正明</p> <p>高橋正明 浅田春美</p> <p>高橋正明 浅田春美</p> <p>高橋正明 浅田春美</p> <p>高橋正明 浅田春美</p> <p>高橋正明 浅田春美</p> <p>高橋正明 浅田春美</p> <p>高橋正明 浅田春美</p> <p>高橋正明 浅田春美</p> <p>高橋正明 浅田春美</p>
科目の目的	基礎運動学では各関節ごとの運動を中心に学んだ。その延長戦上にある臨床動作分析学はでは、複数の関節が関連するいわゆる基本動作について学習する。科目の前半は、正常動作を取り上げて力学的なメカニズムを理解できること、後半は理学療法の動作障がいについて視覚教材, 症例記録等を用い, 相互の意見交換や模倣動作を通して演習形式で専門的学習への基礎作りを計る。【思考・判断】	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康人の基本動作を観察して表すことができる 2. 観察した動作を力学的に説明できる 3. 疾病により生じる異常な動作の特徴を症候学的に説明できる 4. 異常な動作を力学的に説明できる 5. 必要な介入を示唆できる 	

関連科目	解剖学, 生理学, 運動学, 運動学実習, 人間発達学, 整形外科学, 臨床神経学, リハビリテーション医学, 小児科学, 老年医学, 基礎理学療法学, 臨床推論演習, 理学療法評価学, 理学療法評価学演習, 運動療法総論, 運動器系理学療法評価治療学, 神経系理学療法評価・治療学, 小児理学療法学, 装具学, 日常生活活動学, 日常生活活動学演習, 生活環境学, 評価学実習, 総合臨床実習Ⅰ, 総合臨床実習Ⅱ
成績評価方法・基準	筆記試験（中間試験30%, 期末試験50%）, グループによる課題への取り組みおよび発表会（20%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p><予習> 基礎運動学で学んだ基本的な力学, てこ, 力のモーメント, ベクトルについて復習しておくこと（30分程度）.</p> <p>疾患別の授業では, 各疾患の特徴を予習しておくこと.</p> <p><復習> 演習形式のため知識やメッセージが断片的に提供される. その日の授業の内容をきちんとノートにまとめて理解すること. 授業中の理解度に応じ30分~1時間は必要.</p>
教科書・参考書	<p>【教科書】 高橋正明編：標準理学療法学 専門分野 臨床動作分析, 医学書院</p> <p>【参考書】 中村隆一他著：基礎運動学, 医歯薬出版</p>
オフィス・アワー	高橋：火曜日（15:00~16:00）、木曜日（12:30~13:30） 浅田：金曜日（12:10~13:00）
国家試験出題基準	《専門基礎》-I-3-C 《専門》-I-3-I
履修条件・履修上の注意	疾患別の動作分析ではビデオ教材を使うため, 後で見ても復習はできない. 毎回の講義を真剣に取り組んで, きちんとノートをまとめることが必要.

講義科目名称：運動療法総論

授業コード：2P093

英文科目名称：Therapeutic Exercise

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
北村 達夫	橋口 優	鳥海 亮	

授業形態	講義9回、演習6回		担当者
授業計画	第1回	講義：オリエンテーション、運動療法の概念と実際 講義の概要・ガイダンス、運動療法の歴史・定義・方法・今後の課題	北村
	第2回	講義：運動療法の基礎、基本的な運動療法 関節の構造と運動、関節運動の制限、関節可動域運動	北村
	第3回	講義：基本的な運動療法 関節可動域運動—実施上の注意点	北村
	第4回	演習：基本的な運動療法 関節可動域運動—上肢	北村、橋口、鳥海
	第5回	演習：基本的な運動療法 関節可動域運動—下肢	北村、橋口、鳥海
	第6回	講義：基本的な運動療法 ストレッチの理論、実施上の注意点	北村
	第7回	演習：基本的な運動療法 ストレッチ	北村、橋口、鳥海
	第8回	講義：運動療法の基礎 随意運動のメカニズム	北村
	第9回	講義：運動療法の基礎 筋力増強運動の原則	北村
	第10回	演習：基本的な運動療法 筋力増強運動	北村、橋口、鳥海
	第11回	講義・演習：基本的な運動療法 持久力増強運動	北村
	第12回	演習：バイタルチェック、基本的な運動療法 血圧・脈拍測定、血圧調節障害へのアプローチ	北村、橋口、鳥海
	第13回	講義：運動療法の基礎 運動制御と運動学習	北村
	第14回	講義：基本的な運動療法 バランスの概念	北村
	第15回	演習：運動療法の基礎 バランス練習	北村、橋口、鳥海
科目の目的	運動療法の概念と基礎知識、運動の種類、基本的な運動療法の知識を習得し、基本的な運動療法の技術を習得する。【知識・理解】		
到達目標	運動療法の基礎知識・技術を整理・理解・習得し、より専門的な理学療法治療学（運動器系・神経系・呼吸循環代謝系・徒手系・高齢者・スポーツ傷害の理学療法治療学）を学ぶための基礎知識・技術を習得する。		
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学Ⅰ・Ⅱ、運動学Ⅰ・Ⅱ、運動生理学、表面解剖学と触診法、理学療法評価学、理学療法評価学演習、運動系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、徒手系理学療法学、スポーツ傷害理学療法学、見学実習、評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ		
成績評価方法・基準	小テスト（20%）、期末テスト（50%）、実技テスト（30%） ただし、単位認定のためには期末テストで60%以上の獲得、実技テストで60%以上の獲得、課題提出を条件とする。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回授業範囲の教科書内の内容を事前に読み、理解しておくこと。 各演習の前には必ず実技の予習を、各演習の後には必ず実技の復習を行い、知識と技術を習得すること。 必要な学習時間の目安は1コマあたり1時間。		
教科書・参考書	教科書： 「標準理学療法学専門分野運動療法学総論」吉尾雅春編集（医学書院） 「運動療法学」柳澤健編集（金原出版） 「基礎運動学」中村隆一、齋藤宏、長崎浩著（医歯薬出版） 「理学療法ゴールド・マスター・テキスト2 運動療法学」柳澤健編（メジカルビュー社） 参考書： 「理学療法Ⅲ 運動療法Ⅰ」千住秀彰監修河元岩男、溝田勝彦編集（神陵文庫）		
オフィス・アワー	講義日の昼休み		

国家試験出題基準	《専門》Ⅲ-2-A-a, b, c, d, e, f, g, h, i, j, k, l, m, n, o, p 《専門》Ⅲ-2-C-e 《専門》Ⅲ-3-A-a, b, c, d, e, f, g 《専門》Ⅲ-3-B-a, b, c, d, e 《専門》Ⅲ-3-C-a, b, c, d, e, f
履修条件・履修上の注意	演習時は運動療法に適した服装を準備する。

オフィス・アワー	水曜日：12：00～13：00
国家試験出題基準	≪専門≫-Ⅱ-7-A-abcdefghijkl ≪専門≫-Ⅱ-7-B-g ≪専門≫-Ⅱ-7-C-e ≪専門≫-Ⅱ-7-I ≪専門≫-Ⅱ-7-L-ab ≪専門≫-Ⅲ-1-B-abcdef ≪専門≫-Ⅲ-3-F-abc ≪専門≫-Ⅲ-6-A-abcdefghijkl ≪専門≫-Ⅲ-6-I ≪専門≫-Ⅲ-6-L-ab ≪専門≫-Ⅲ-6-M ≪専門≫-Ⅲ-6-N-bc
履修条件・履修上の注意	授業範囲は広範となる、授業前に予習と復習は必修であり、独自に授業ノートを作成すること。

講義科目名称：運動器系理学療法評価・治療学演習 I

授業コード：2P095

英文科目名称：Practice in Evaluation and Therapy of Musculosk...I

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
城下 貴司			

授業形態	講義10コマ	実技5コマ	担当者	
授業計画	第1回	オリエンテーション(学習法、授業の進め方)	課題担当決定	城下
	第2回	上肢疾患 肩関節疾患		城下
	第6回	上肢疾患 肘関節疾患		城下
	第4回	上肢疾患 手関節および手指		城下
	第5回	肩関節疾患 肘関節疾患 手関節および手指の復習および小テスト		城下
	第6回	脊柱疾患 頸椎疾患 (主に神経根症状)		城下
	第7回	脊柱疾患 頸椎疾患 (主に脊髄症状)		城下
	第8回	脊柱疾患 胸椎疾患		城下
	第9回	脊柱疾患 腰椎疾患		城下
	第10回	頸椎疾患 胸椎疾患 腰椎疾患の復習および小テスト		城下
	第11回	下肢疾患 股関節疾患 (主に変形性股関節症)		城下
	第12回	下肢疾患 股関節疾患 (主に大腿骨頭壊死)		城下
	第13回	下肢疾患 膝関節疾患 (主に靭帯損傷)		城下
	第14回	下肢疾患 膝関節疾患 (主に変形性膝関節症)		城下
	第15回	下肢疾患 足関節と足趾		城下
科目の目的	理学療法の対象となる障害のうち、多くの割合を占める運動器系(骨・関節、筋、末梢神経、軟部組織)疾患の理学療法を行うために必要な基礎知識を学ぶ。 *ディプロマ・ポリシー：【知識・理解】			
到達目標	外傷性疾患の理学療法に関わるための基礎知識の獲得			
関連科目	解剖学，生理学，運動学，基礎理学療法学，運動器系理学療法評価・治療学、運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅱ 徒手系理学療法学、スポーツ傷害理学療法学			
成績評価方法・基準	中間テスト(2回) 40%、定期試験60%で総合評価する、ただし欠席および遅刻は減点する。			
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業範囲は広範となる、授業前に1から2時間程度の学習時間を要する予習を具体的に指定する、授業後も15から30分程度復習も必修である。			
教科書・参考書	教科書：中村 利孝ほか：標準整形外科学 13版. 医学書院 教科書：島田洋一、高橋仁美：術後理学療法プログラム メジカルビュー 教科書：松澤 正ほか「理学療法評価学改訂第5版」(金原出版株式会社) 教科書：中村隆一ほか 基礎運動学 第6版 (医歯薬出版) 教科書：野村嵯ほか 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 (医学書院) 教科書：奈良 勲 (監修)：標準理学療法学 運動療法学 各論. 医学書院 参考書：林 典雄ほか：関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーションー 参考書：堀尾重治：骨・関節X線写真の撮りかたと見かた 第8版. 医学書院			

オフィス・アワー	水曜日：12：10～13：00
国家試験出題基準	≪専門≫-Ⅱ-7-A-abcdefghijkl ≪専門≫-Ⅱ-7-B-g ≪専門≫-Ⅱ-7-C-e ≪専門≫-Ⅱ-7-I ≪専門≫-Ⅱ-7-L-ab ≪専門≫-Ⅲ-1-B-abcdef ≪専門≫-Ⅲ-3-F-abc ≪専門≫-Ⅲ-6-A-abcdefghijkl ≪専門≫-Ⅲ-6-I ≪専門≫-Ⅲ-6-L-ab ≪専門≫-Ⅲ-6-M ≪専門≫-Ⅲ-6-N-bc
履修条件・履修上の注意	予習と復習は必修である 実技がある動きやすい服装で望むこと

講義科目名称：運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅱ

授業コード：2P096

英文科目名称：Practice in Evaluation and Therapy of Musculos...

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
城下 貴司			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 オリエンテーション(学習法と授業の進め方)	城下
	第2回 上肢疾患 肩関節疾患	城下
	第3回 上肢疾患 肘関節疾患	城下
	第4回 上肢疾患 手関節および手指疾患	城下
	第5回 肩、肘、手関節および手指の外傷疾患の復習および小テスト	城下
	第6回 脊柱疾患 頸椎疾患	城下
	第7回 脊柱疾患 胸椎疾患	城下
	第8回 脊柱疾患 腰椎疾患	城下
	第9回 脊柱疾患 腰椎疾患	城下
	第10回 脊柱疾患の復習および小テスト	城下
	第11回 下肢疾患 股関節疾患	城下
	第12回 下肢疾患 膝関節疾患	城下
	第13回 下肢疾患 膝関節疾患	城下
	第14回 下肢疾患 足関節と足趾	城下
	第15回 下肢疾患 足関節と足趾	城下
科目の目的	理学療法の対象となる障害のうち、多くの割合を占める運動器系(骨・関節、筋、末梢神経、軟部組織)疾患の理学療法を行うために必要な基礎知識を学ぶ。 *ディプロマ・ポリシー：【思考・判断】【技能・表現】	
到達目標	理学療法に関わるための各疾患別理学療法の基礎知識の獲得	
関連科目	解剖学，生理学，運動学，基礎理学療法学， 運動器系理学療法評価・治療学、運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅰ徒手系理学療法学、スポーツ傷害理学療法学	
成績評価方法・基準	中間テスト(2回)40%、定期試験60%で総合評価する、ただし欠席および遅刻は減点する	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業範囲は広範となる、授業前に1から2時間程度の学習時間を要する予習を具体的に指定する、授業後も15から30分程度復習も必修である。	
教科書・参考書	教科書：中村 利孝ほか：標準整形外科学 13版. 医学書院 教科書：島田洋一、高橋仁美：術後理学療法プログラム メジカルビュー 教科書：松澤 正ほか 理学療法評価学改訂第5版(金原出版株式会社) 教科書：中村隆一ほか 基礎運動学 第6版(医歯薬出版) 教科書：奈良 勲(監修)：標準理学療法学 運動療法学 各論. 医学書院 参考書：林 典雄ほか：関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション— 参考書：整形外科手術シリーズ 中山書店 参考書：図解 理学療法技術ガイド 第3版 文光堂	

オフィス・アワー	水曜日：12：10～13：00
国家試験出題基準	<p><専門>Ⅱ－7－A-abcdefghijkl B-g C-e I L-ab</p> <p>Ⅲ－1-B-abcdef 3-F-abc 6-A-abcdefghijkl I L M N-bc</p>
履修条件・履修上の注意	予習と復習は必修である 授業ノート作成しておくこと

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
鈴木 学	浅田春美	黒川望	橋口優
	北村達夫	鳥海亮	

授業形態	講義と実技 *毎回、講義と実技を組み合わせているので厳密に時間を区別することは不可能	担当者
授業計画	<p>第1回 神経疾患とは 神経疾患の病態, 筋紡錘と腱紡錘</p> <p>第2回 各種神経系検査の理論と実技(1) 中枢性疾患の運動機能検査 (片麻痺運動機能検査)</p> <p>第3回 各種神経系検査の理論と実技(2) 中枢性疾患の運動機能検査 (片麻痺運動機能検査)</p> <p>第4回 各種神経系検査の理論と実技(3) 筋緊張検査, 反射検査</p> <p>第5回 各種神経系検査の理論と実技(4) 反射検査</p> <p>第6回 実技演習1 実技演習: 片麻痺運動機能検査, 筋緊張検査, 反射検査</p> <p>第7回 実技演習1 実技演習: 片麻痺運動機能検査, 筋緊張検査, 反射検査</p> <p>第8回 各種神経系検査の理論と実技(5) 感覚検査</p> <p>第9回 各種神経系検査の理論と実技(6) 感覚検査, 協調性機能検査</p> <p>第10回 各種神経系検査の理論と実技(7) 協調性機能検査</p> <p>第11回 各種神経系検査の理論と実技(8) 脳神経の機能と検査</p> <p>第12回 各種神経系検査の理論と実技(9) バランス機能(正常姿勢反射検査, 各種バランススケール)</p> <p>第13回 実技演習2 感覚検査, 協調性機能検査, 脳神経検査, バランス機能検査</p> <p>第14回 実技演習2 感覚検査, 協調性機能検査, 脳神経検査, バランス機能検査</p> <p>第15回 各種神経系検査の理論と実技(10) 意識障害検査, 注意障害検査, 知能検査</p>	<p>鈴木学</p> <p>鈴木学, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮</p> <p>鈴木学, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮</p> <p>鈴木学, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮</p> <p>鈴木学, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮</p> <p>鈴木学, 浅田春美, 黒川望, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮</p> <p>鈴木学, 浅田春美, 黒川望, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮</p> <p>鈴木学, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮</p> <p>鈴木学, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮</p> <p>鈴木学, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮</p> <p>鈴木学, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮</p> <p>鈴木学, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮</p> <p>鈴木学, 浅田春美, 黒川望, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮</p> <p>鈴木学, 浅田春美, 黒川望, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮</p> <p>鈴木学, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮</p>
科目の目的	脳神経など末梢神経と中枢神経系疾患に生じる障害の評価のための検査法と検査結果を如何に統合解釈し、問題を抽出し、目標を設定していくかを学習する。具体的には、片麻痺機能テスト, 筋緊張検査, 深部腱反射, 病的反射, 感覚検査, 姿勢反射検査, 協調性検査, 意識レベル検査, 注意機能検査, 知能検査を取り上げ、そ	

	これらの検査の意義, 正常と異常の違いなどを学習する. さらに各種検査を統合し, その結果から問題点の抽出, 目標設定を行う能力を養う. ディプロマポリシーの1. 知識・理解、3. 技能・表現、4. 関心・意欲、を向上させる.
到達目標	1. 神経系疾患に生じる障害の機能評価としての各種検査法を実施することができる. 2. 疾患に即した検査方法を選択することができる. 3. 検査結果を統合・解釈し, 問題点を抽出, 目標を決定することができる.
関連科目	運動学, 臨床神経学, 理学療法評価学, 理学療法評価学演習, 臨床動作分析学, 神経系理学療法評価・治療学演習 I, 神経系理学療法評価・治療学演習 II, 臨床推論演習, 評価学実習, 総合臨床実習 I, 総合臨床実習 II
成績評価方法・基準	筆記試験 60%, 実技試験 (2回) 40% 1回欠席するごとに2%減点する
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	神経系の解剖学, 生理学の知識をもっていることが望ましい. 準備時間: 30分
教科書・参考書	教科書 田崎義昭 斎藤伊雄 著 坂井文彦 改訂: ベッドサイドの神経の診かた 南山堂 松澤正著: 理学療法評価学 金原出版株式会社 パワーポイント資料をPDFファイルにて配布予定 参考書: 鈴木則宏編: 神経診察クローズアップ メジカルビュー社 内山靖, 小林武, 潮見泰三編: 臨床評価指標入門 適用と解釈のポイント 協同医書出版 シグネ・ブルンストローム著, 松村秩訳: 片麻痺の運動療法 医師薬出版
オフィス・アワー	水曜日12:30~13:00 605研究室
国家試験出題基準	専門Ⅱ: 3-H(a, b, c, d, e) 専門Ⅱ: 4-A(a), 4-B, 4-C(a, b, c, d, e, f, g, h), 4-D(a, b) 専門Ⅱ: 7-B(a, b, c, d, e, f, h), 7-C(a, b, c, d, e), 7-H(a, b), 7-K(a, b), 7-N(a, b) 専門Ⅲ: 1-B(a, b, c, d, e, f) 専門Ⅲ: 3-E(a, b, c), 3-H(a, b, c, d, e), 専門Ⅲ: 6-B(a, b, c, d, e, f, g, h), 6-C(a, b, c, d, e), 6-H(a, b), 6-K(a, b), 6-N(a, d)
履修条件・履修上の注意	中枢神経および脳神経の解剖学, 生理学の知識が乏しいと内容の理解が難しくなるのでこれらの基礎を把握することが重要である. 神経系理学療法評価治療学演習 I および II の内容の基礎となる.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
鈴木 学	黒川望 鳥海亮	橋口優	北村達夫

授業形態	講義と実技 不可能	*毎回、講義と実技を組み合わせているので厳密に時間を区別することは	担当者
授業計画	第1回 片麻痺の病態(1) 片麻痺の原因疾患とその病態		鈴木学
	第2回 片麻痺の病態(2) 片麻痺の機能障害と回復過程		鈴木学, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮
	第3回 片麻痺の治療原則 回復時期別の理学療法と治療の原則		鈴木学, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮
	第4回 片麻痺の急性期理学療法 急性期の評価とベッドサイド訓練の実際, リスク管理		鈴木学, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮
	第5回 片麻痺の回復期理学療法(1) 回復期の評価内容とゴール設定		鈴木学, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮
	第6回 片麻痺の回復期理学療法(2) 片麻痺の起居動作練習の理論と介入		鈴木学, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮
	第7回 片麻痺の回復期理学療法(3) 起居動作練習の理論と介入		鈴木学, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮
	第8回 片麻痺の回復期理学療法(4) 起居動作練習の理論と介入		鈴木学, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮
	第9回 片麻痺の回復期理学療法(5) 起居動作練習の理論と介入		鈴木学, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮
	第10回 片麻痺の回復期理学療法(6) 起居移動動作の理論と介入, 四肢の分離運動の促通手技		鈴木学, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮
	第11回 片麻痺の回復期理学療法(7) 四肢の分離運動の促通手技		鈴木学, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮
	第12回 片麻痺の回復期理学療法(8) 立位および歩行練習の理論と介入		鈴木学, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮
	第13回 実技演習 起居動作, 四肢の分離運動		鈴木学, 黒川望, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮
	第14回 実技演習 起居動作, 四肢の分離運動, 立位歩行練習		鈴木学, 黒川望, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮
	第15回 片麻痺の阻害因子に対する対処1 筋緊張異常, 麻痺側の不使用, 肩の亜脱臼		鈴木学, 橋口優, 北村達夫, 鳥海亮
科目の目的	脳出血や脳梗塞などの脳血管障害の症状と、それにともなう障害についての知識を習得するとともに、それらの理学療法、具体的には運動療法の原理、治療体系、評価、問題点抽出、目標設定、治療計画の立案方法、リスク管理方法について学習する。治療体系については技術面の習得も実施する。具体的には急性期・回復期・慢性期それぞれに対応した治療アプローチの習得を目指し評価から効果判定まで、系統的な理学療法ができるようにする。 ディプロマポリシーの1. 知識・理解, 3. 技能・表現, 4. 関心・意欲, を向上させる。		

到達目標	1. 脳血管障害に生じる障害について説明できる。 2. 脳血管障害による片麻痺や四肢麻痺に対する理学療法における評価、治療プログラム作成、理学療法実施方法について説明できる。 3. 脳血管障害に片麻痺や四肢麻痺の理学療法を実施する上でのリスク管理について説明できる。
関連科目	解剖学Ⅰ,Ⅱ 生理学Ⅰ,Ⅱ 臨床神経学Ⅰ 神経系理学療法評価・治療学 神経系理学療法評価・治療学演習Ⅱ 臨床推論演習 評価学実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ
成績評価方法・基準	筆記試験 70%, 実技試験 30% 1回欠席するごとに総合得点より2%減点する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備内容：神経解剖学, 神経生理学の知識をもっていることが望ましい 準備時間：30分～60分
教科書・参考書	教科書 「理学療法テキスト神経障害理学療法Ⅰ」石川朗 総編集（中山書店） 「神経内科学テキスト（改訂第3版）」江藤文夫、飯島節（南江堂） パワーポイント資料をPDFファイルにて配布予定 参考書 「Steps to Follow」P.M. デービス著（シュプリンガー・フェアラーク東京） 「系統理学療法学 神経障害系理学療法学」丸山仁司 編（医歯薬出版） 「脳卒中理学療法の理論と実技」原寛美、吉尾雅春 編（メジカルビュー社）
オフィス・アワー	水曜日12:30～13:00 605研究室
国家試験出題基準	専門Ⅱ：3-H(a, b, c, d, e) 専門Ⅱ：4-A(a), 4-B, 4-C(a, b, c, d, e, f, g, h), 4-D(a, b) 専門Ⅱ：7-B(a, b, c, d, e, f, h), 7-C(a, b, c, d, e), 7-H(a, b), 7-K(a, b), 7-N(a, b) 専門Ⅲ：1-B(a, b, c, d, e, f) 専門Ⅲ：3-E(a, b, c), 3-H(a, b, c, d, e), 専門Ⅲ：6-B(a, b, c, d, e, f, g, h), 6-C(a, b, c, d, e), 6-H(a, b), 6-K(a, b), 6-N(a, d)
履修条件・履修上の注意	中枢神経および脳神経の解剖学, 生理学の知識が乏しいと内容の理解が難しくなるのでこれらの基礎を把握することが重要である。 神経系理学療法評価治療学の内容が基礎となるので合わせてしっかりと学習すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
鈴木 学	橋口優	北村達夫	鳥海亮

授業形態	講義と実技 不可能	*毎回、講義と実技を組み合わせているので厳密に時間を区別することは	担当者
授業計画	第1回 高次脳機能の理解と検査法 失語, 失認, 失行の病態		鈴木学
	第2回 片麻痺の回復を阻害する因子とその対処2 肩の痛み, 肩手症候群, 嚥下障害, 排尿障害		鈴木学, 橋口, 北村, 鳥海
	第3回 片麻痺の回復を阻害する因子とその対処3, 片麻痺の予後 半側空間無視, 押す人症候群, 片麻痺の予後		鈴木学, 橋口, 北村, 鳥海
	第4回 錐体外路の機能と片麻痺以外の中枢神経系疾患の概要各種疾患の病態と理学療法(1) 錐体外路系の伝導路とその機能, 神経難病とは		鈴木学
	第5回 各種疾患の病態と理学療法(1) 頭部外傷の病態と理学療法		鈴木学
	第6回 各種疾患の病態と理学療法(2) パーキンソン病の病態		鈴木学
	第7回 各種疾患の病態と理学療法(3) パーキンソン病の理学療法		鈴木学, 橋口, 北村, 鳥海
	第8回 各種疾患の病態と理学療法(4) 筋萎縮性硬化症の病態と理学療法		鈴木学
	第9回 各種疾患の病態と理学療法(5) 多発性硬化症の病態と理学療法		鈴木学
	第10回 各種疾患の病態と理学療法(6) 神経筋接合部疾患と成人筋疾患の病態と理学療法		鈴木学
	第11回 各種疾患の病態と理学療法(7) 各種失調症の病態		鈴木学
	第12回 各種疾患の病態と理学療法(8) 各種失調症の理学療法		鈴木学, 橋口, 北村, 鳥海
	第13回 各種疾患の病態と理学療法(9) 脊髄小脳変性症の病態と理学療法		鈴木学
	第14回 各種疾患の病態と理学療法(10) 脊髄の機能解剖, 脊髄疾患の病態と理学療法		鈴木学
	第15回 各種疾患の病態と理学療法(11) 末梢神経疾患の病態と理学療法		鈴木学
科目の目的	2年次の神経系理学療法学評価治療学および演習Ⅰの継続内容の高次脳機能検査および片麻痺回復阻害因子について網羅する。頭部外傷、パーキンソン病、脊髄小脳変性症などの神経系疾患の症状とそれに伴う障害についての知識を習得するとともに、それらの理学療法（運動療法の原理、治療体系、評価、問題点抽出、目標設定、治療計画立案、リスク管理）について学習する。治療体系については技術面の習得も演習を実施する。各種神経筋疾患の進行段階に合わせた理学療法、非進行性疾患に対する理学療法の実践の習得を目指し、評価から効果判定まで効果的な理学療法ができるようにする。 ディプロマポリシーの1. 知識・理解, 3. 技能・表現, 4. 関心・意欲, を向上させる。		
到達目標	1. 意識障害及び高次脳機能障害について理解する。 2. 脳血管障害の回復阻害因子および頭部外傷、脳腫瘍などに生じる障害および評価、治療プログラム作成、理学療法実施方法について説明できる。 3. パーキンソン病、失調症（脊髄小脳変性症含む）、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症などの中枢神経疾患及び多発性神経炎（ギランバレー症候群含む）、皮膚筋炎などの末梢神経疾患に対する理学療法おける評価、治療プログラム作成、理学療法実施方法について説明できる。 4. パーキンソン病、失調症（脊髄小脳変性症含む）、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症などの中枢神経疾患及び多発性神経炎（ギランバレー症候群含む）、皮膚筋炎などの末梢神経疾患に対する理学療法を実施する上でのリスク管理について説明できる。		
関連科目	解剖学Ⅰ,Ⅱ 生理学Ⅰ,Ⅱ 臨床動作解析学 臨床神経学Ⅰ 神経系理学療法評価・治療学 神経系理学療法評価・治療学演習Ⅰ 評価学実習 総合臨床実習Ⅰ 総合臨床実習Ⅱ		
成績評価方法・基準	筆記試験 100% 1回欠席することに総合得点より2点減点する		

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	神経解剖学, 神経生理学の知識をもっていることが望ましい 準備時間：30～60分
教科書・参考書	教科書 「理学療法テキスト 神経障害理学療法学Ⅱ」石川朗 総編集（中山書店） 「神経内科学テキスト（改訂第3版）」江藤文夫、飯島節（南江堂） パワーポイント資料をPDFファイルにて配布予定 参考書 「系統理学療法学 神経障害系理学療法学」丸山仁司 編（医歯薬出版） 「理学療法学ゴールドマスターテキスト5「中枢神経系理学療法学」柳澤 健編集（メジカルビュー社）
オフィス・アワー	木、金曜日12:30～13:00 605研究室 *第4回のみ602研究室
国家試験出題基準	専門Ⅱ：3-H(a, b, c, d, e) 専門Ⅱ：4-A(a), 4-B, 4-C(a, b, c, d, e, f, g, h), 4-D(a, b) 専門Ⅱ：7-B(a, b, c, d, e, f, h), 7-C(a, b, c, d, e), 7-H(a, b), 7-K(a, b), 7-N(a, b) 専門Ⅲ：1-B(a, b, c, d, e, f) 専門Ⅲ：3-E(a, b, c), 3-H(a, b, c, d, e), 専門Ⅲ：6-B(a, b, c, d, e, f, g, h), 6-C(a, b, c, d, e), 6-H(a, b), 6-K(a, b), 6-N(a, d)
履修条件・履修上 の注意	中枢神経および脳神経の解剖学, 生理学の知識が乏しいと内容の理解が難しくなるのでこれらの基礎を把握することが重要である 神経系理学療法評価治療学の内容が基礎となるので前もって復讐することが望ましい

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
仲保 徹			

授業形態	講義12回 実技3回		担当者
授業計画	第1回	呼吸器疾患の現状，呼吸器系の解剖学・運動学 社会における呼吸器疾患の位置づけを疫学的視点から考察し、呼吸リハビリテーション、呼吸理学療法の必要性を説明する。 呼吸に關与する骨・筋、肺の形態、構造を理解し、その機能から呼吸のメカニズムを的確に把握する。	仲保 徹
	第2回	呼吸器系の運動学 胸郭の構造と胸郭運動の特徴を理解し、運動学視点から呼吸のしやすさ、呼吸のしにくさを理解する。	仲保 徹
	第3回	呼吸器系の解剖学・生理学 解剖学、生理学の知識をもとに換気、ガス交換の意味、ガス交換のメカニズムについて正しく理解する。血液ガスの正常値とその異常により生じる病態について理解する。	仲保 徹
	第4回	呼吸不全 呼吸器疾患でみられる代表的な症状である呼吸不全の定義を理解し、ガス交換障害と換気障害の違いを明確にする。呼吸不全を呈する代表的な呼吸器疾患の発生機序が身体症状、病態を正しく理解する。呼吸困難の症状や呼吸困難感について理解する。	仲保 徹
	第5回	呼吸理学療法における評価① 呼吸理学療法における評価の目的を理解し、必要な情報収集の内容を把握する。フィジカルアセスメントの内容を理解し適切に実施する。	仲保 徹
	第6回	呼吸理学療法における評価② 呼吸不全患者に適したADL・QOLの評価法や、運動負荷試験の意義・目的、適応について理解する。呼吸困難感の評価スケールについて理解する。呼吸器疾患の胸部X線画像やCT画像などの画像所見の基本を理解する。	仲保 徹
	第7回	慢性呼吸不全に対する呼吸理学療法 慢性呼吸不全を呈する疾患とその病態の特徴を把握し、呼吸理学療法の目的を理解する。COPDの病態とCOPDに対する呼吸理学療法の適応について理解する。	仲保 徹
	第8回	急性呼吸不全に対する呼吸理学療法、急性期呼吸理学療法 急性呼吸不全を呈する疾患とその病態を把握し、適応となる呼吸理学療法を理解する。外科手術が生体に与える影響を把握し、生体反応について理解する。外科術後早期の呼吸理学療法の目的を把握し、基本的な治療を理解する。	仲保 徹
	第9回	人工呼吸療法 人工呼吸療法の目的や役割を理解する。人工呼吸器の構造や基本的モードを理解する。人工呼吸器が生体に与える影響を把握し、人工呼吸による弊害を理解する。人工呼吸器管理中の呼吸理学療法について理解する。	仲保 徹
	第10回	咳嗽と排痰手技 排痰の目的と排痰に必要な要素について理解する。咳嗽のメカニズムと喀痰の移動について理解する。排痰で用いられる徒手的手技の方法を理解し、適切に実施できる。	仲保 徹
	第11回	吸引 呼吸理学療法における吸引の意義、注意点を理解する。吸引が生体に与える影響について理解する。吸引の適応や実施に至るまでの流れを理解する。標準予防策を理解し、実践できる。	仲保 徹
	第12回	酸素療法および在宅酸素療法 酸素療法の意義、目的、方法について理解する。酸素供給システムについて理解する。在宅酸素療法の適応やその実際について理解する。	仲保 徹
	第13回	嚥下障害と誤嚥性肺炎 摂食・嚥下障害のメカニズムを把握し、そのリスクや誤嚥性肺炎について理解する。嚥下リハビリテーションの方法を把握し、嚥下に必要とされるコンディショニングを理解する。誤嚥性肺炎の予防と対策について理解する。	仲保 徹
	第14回	コンディショニング 呼吸理学療法におけるコンディショニングの目的、方法を理解し、適切に実施する。姿勢アライメントが呼吸に及ぼす影響を理解し、その姿勢変化と呼吸運動の変化を把握する。	仲保 徹
	第15回	運動療法 運動療法の位置づけや意義について理解する。慢性呼吸不全患者における筋力トレーニングの重要性を理解する。デイコンディショニングを理解し、その改善方法を学習する。運動処方に必要なFITTの概念を理解する。運動療法の具体的な方法とその効果を理解する。	仲保 徹
科目の目的	本科目は、呼吸器疾患に関わる医療人として必要な基礎的知識と教養を身に付けることを目的とします【知識・理解】。また、患者に対し、呼吸理学療法において必要な評価項目を選択し、適切に実施できる能力を身に付けます【思考・判断】。さらに、疾患や患者の情報を的確に分析し、適切な治療を提供できる知識と技術		

	を習得します【技能・表現】。 急性期医療から地域在宅医療にかけて幅広い領域の医療に関心を持ち、患者に対して真摯に向き合い、医療を 実践できることを目的とします【関心・意欲・態度】。
到達目標	呼吸を運動学，解剖学，生理学の知識で理解し，その運動を構造的側面，機能的側面で説明する事ができる。 呼吸器疾患患者に対する理学療法の標準的な治療法・理学療法への適応と禁忌の判断、リスク管理、理学療法に 対する効果判定を説明することができる。
関連科目	専門基礎科目群：生理学，運動生理学，リハビリテーション医学，内科学 専門科目群：呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学演習
成績評価方法・基 準	授業内を行う小テスト（40％）と定期試験（60％）とする。小テストはそれまでの学習の確認テストに位置付 ける。試験範囲は事前に授業内で連絡する。定期試験はの試験範囲は全ての範囲とする。また講義資料だけで なく、講義内容、教科書の指定範囲を含める。
準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	事前に各回の講義内容部分について、新しく目にした単語・概念，または既に学習済みであっても忘れてい る内容について調べる。講義内で分からなかった用語については、講義後に適宜調べる。予習復習合わ せて1時間。
教科書・参考書	【教科書】 「第3版 リハ実践テクニック 呼吸ケア」塩谷隆信 高橋仁美 編集（メジカルビュー） 【参考書】 「改訂第2版 リハビリテーションリスク管理ハンドブック」亀田メディカルセンター 編集（メジカル ビュー） 「動画でわかる呼吸リハビリテーション 第3版」塩谷隆信 高橋仁美 宮川哲夫 編集（中山書店）
オフィス・アワー	必要に応じ講義後、それ以外はE-mailで受け付ける。 Mail Address：nakabo@nr.showa-u.ac.jp
国家試験出題基準	≪専門≫-Ⅰ-3-D-a ≪専門≫-Ⅱ-3-A-bg, B-a～e ≪専門≫-Ⅱ-7-E-ab, N-a ≪専門≫-Ⅲ-2-A-abcdg ≪専門≫-Ⅲ-3-B-a～e ≪専門≫-Ⅲ-6-E-ab, N-a
履修条件・履修上 の注意	講義資料については、講義開始前までに指示する。

講義科目名称：呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学演習 授業コード：2P101

英文科目名称：Practice in Evaluation and Therapy of Cardiopulm... 対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
木村 朗			

授業形態	演習1-15コマ・講義1-15コマ 併用15コマ		担当者
授業計画	第1回	I. 内部障害のリハビリテーションと循環器系アセスメント1 内部障害のリハビリテーションの疫学 循環器系アセスメント1 理学的検査 画像情報評価	木村 朗
	第2回	循環器系アセスメント2 循環器系アセスメント2 PTが行うべき心臓機能の評価のフレームワーク	木村 朗
	第3回	循環器系アセスメント3 ECG1 ECG読解入門 P波とQRS波 危険な波形4	木村 朗
	第4回	循環器系アセスメント4 ECG2 除脈に関連する波形	木村 朗
	第5回	循環器系アセスメント5 ECG3 頻脈に関連する波形	木村 朗
	第6回	循環器系アセスメント6 ECG4 十二誘導によるECG	木村 朗
	第7回	循環器系PT1 心機能の評価のフレームワーク 治療プログラム1	木村 朗
	第8回	循環器系PT2 心機能の評価のフレームワーク 治療プログラム2	木村 朗
	第9回	代謝系PT1 血糖値測定 演習1 グルコーススパイクの観察	木村 朗
	第10回	代謝系PT2 血糖値測定 演習2 グルコーススパイクへの介入（身体活動と運動）の影響 解釈	木村 朗
	第11回	代謝系PT3 糖尿病の運動処方の方考え方 インスリン分泌パターンの推定と身体活動 1日エネルギー消費量算出方法	木村 朗
	第12回	代謝系PT4 1日エネルギー消費量算出方法 生活習慣改善指導	木村 朗
	第13回	動脈硬化のPT1 動脈硬化に対するPT1 脈波伝搬速度の測定	木村 朗
	第14回	動脈硬化のPT2 動脈硬化に対するPT2 脈波伝搬速度の評価と活用	木村 朗
	第15回	心臓リハビリテーションの実際 心臓リハビリテーションの実際 臨床家等のプレゼンテーション	木村 朗 (GS 設 案)
科目の目的	<p>身体障害の原因として最も頻度の高い血管病変の知識を理解する。 循環器及び代謝機能の疾患をもつ者の理学療法の実践にあたってEBM遂行上必要な基本的な知識と技術の習得を目的とする。 運動療法および身体活動が呼吸循環代謝機能に及ぼす影響を理解し、それらの機能の低下をきたす疾患に適応される根拠を学ぶ。 生活習慣病から動脈硬化に至る病態を理解し、現時点で標準的とされる理学療法 of 適切な介入方法を学ぶ。 理学療法分野の基本的技術を提供することができるようになる。 DPに則った目的は保健医療分野の諸課題を見出し科学的洞察による的確判断ができる事。</p>		
到達目標	<p>学生は各内部疾患(者)に生じる障害を理解し、基本的な評価項目と治療法を列挙することができる。 学生は各内部疾患(者)に対するEBMに則った理学療法プログラムの作成に必要な基本的な生理学・病理学の要点が説明できる。 学生は各内部疾患(者)・合併者のリスクとして頻出なものを挙げる事ができる。その理学療法上の対策を説明することができる。 学生はモニター心電図上頻出な波形の読解と生成機序の説明ができる。 学生は糖尿病の診断方法と基準が説明できる。 学生は理学療法の評価法・治療法を実施するためのガイドラインに示された適応禁忌の判断基準が説明できる。 学生は理学療法技術（有酸素運動の指導など）を模擬患者および健常者に対し試みることができる。</p>		
関連科目	専門基礎科目群：生理学、運動生理学、リハビリテーション医学、内科学 専門科目群：呼吸・循環・代謝系理学療法学		
成績評価方法・基準	定期試験(80%)、小テスト(10%)、課題レポート(10%)		

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	各回の講義内容部分について、新しく目にした単語・概念、または既に学習済みであっても忘れていないことについて、教科書およびWeb上で可能な限り調べ、ノートを準備の上、確認しておく。予習60分を目安とする。
教科書・参考書	教科書：理学療法士のための運動処方マニュアル（文光堂） 教科書：身体活動学入門（三共出版） 参考書：標準理学療法学 運動療法学 総論 第4版（医学書院）
オフィス・アワー	火・水12:10～12:50(木村研究室)
国家試験出題基準	専門基礎：2-1-A・B・C・D・E-b・c・d・e・f・g 12-3-1・2-A、3-Ab、B-6・F・G-I、J-7 2 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進 11 内部障害と臨床医学 A疫学、予後 B病理、症候 C評価、検査 Dリハビリテーション Eその他の治療 b循環器疾患 c消化管・胆管膵疾患 d腎・泌尿器疾患 e生殖器疾患 f血液疾患、自己免疫疾患、g内分泌・代謝疾患 12がん関連障害と臨床医学 3 理学療法治療学 1基礎 2基本的介入手段 A運動療法 3心身機能、身体構造 A全身症状、局所所見 bバイタルサイン B呼吸循環代謝 6疾患、障害 F循環器 G代謝 I廃用症候群 J悪性腫瘍 7保健、予防
履修条件・履修上の注意	運動可能な服装着用のこと

講義科目名称：小児理学療法学

授業コード：2P102

英文科目名称：Pediatric Physical Therapy

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
中 徹			

授業形態	講義14コマ、演習1コマ	担当者
授業計画	<p>第1回 脳性まひの定義から・脳性まひの判定的評価1＝麻痺のタイプと身体分布【講義】 脳性まひの定義を理解し、区分することができる</p> <p>第2回 脳性まひの判定的評価2＝重症度とタイプ別の機能的予後【講義】 重症度をGMFCSで区分することができる</p> <p>第3回 脳性まひの機能的な評価1－運動機能の変化を捉えるために【講義】 脳性まひを筋緊張検査などの機能検査から理解する</p> <p>第4回 脳性まひの能力的な評価2－運動能力の変化を捉えるために【講義】 脳性まひをGMFMなどの能力検査から理解する</p> <p>第5回 脳性まひの治療体系と理学療法1/2【講義】 脳性まひの医学的治療における理学療法の概要を理解する</p> <p>第6回 脳性まひの治療体系と理学療法2/2 健康スポーツとリハビリテーション【講義】 運動療法およびびスポーツを導入した介入を理解する</p> <p>第7回 脳性麻痺の知識到達度確認演習【演習】 脳性まひに関する課題を課し、記述演習ののちに解説する</p> <p>第8回 知的障害・ダウン症の評価と理学療法・健康スポーツとリハビリテーション【講義】 知的障がいによる運動能力の低下とそれらに対する評価と介入を理解する</p> <p>第9回 ハイリスク新生児の理学療法・てんかんの評価と理学療法【講義】 新生児の発達ケア、てんかんを伴う児の発達特性を理解する</p> <p>第10回 重症心身障害児（者）への評価と理学療法【講義】 重複する障がいの理解と包括的・多面的介入を理解する</p> <p>第11回 二分脊椎の評価【講義】 二分脊椎の病理と障がい像を理解する</p> <p>第12回 二分脊椎の理学療法・健康スポーツとリハビリテーション【講義】 二分脊椎の介入について健康スポーツを含めて理解する</p> <p>第13回 筋ジストロフィの評価【講義】 筋ジストロフィの病理と障がい像を理解する</p> <p>第14回 筋ジストロフィの理学療法・健康スポーツとリハビリテーション【講義】 筋ジストロフィ介入について健康スポーツを含めて理解する</p> <p>第15回 神経筋疾患・その他の先天性疾患の理学療法【講義】 レット症候群、ウェルドニヒホフマン病、軟骨異栄養症などの疾患と障害を理解する</p>	中 徹
科目の目的	発達に障害をもつ人々の障害を理学療法評価を通じて理解し、その上でその人々の運動能力改善ひいては生活改善のための理学療法の体系と方法論を理解する 本授業はディプロマポリシー1の「知識・理解を高めること」を目的とした科目である。	
到達目標	脳性麻痺・発達遅滞・重症心身障害・筋ジストロフィ・二分脊椎の障害を理学療法評価項目で説明でき、それぞれの理学療法の方針と内容を示すことができる	
関連科目	本科目に先立って基礎となる科目…運動学・生理学・心理学・臨床心理学・公衆衛生学 本科目と関連しあう科目…小児科学・臨床神経学・臨床動作分析学・神経理学療法関連科目	
成績評価方法・基準	定期試験課題60%＋ノート提出40%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	該当テキスト部分の予習と復習（45分程度） 該当講義資料部分の予習と復習（45分程度）	
教科書・参考書	シンプル理学療法学シリーズ 第2版 小児理学療法学テキスト *講義に該当するところは、最初の講義で説明する *理解を助けるために講義資料を配布する	
オフィス・アワー	月曜日12：15～15：00	
国家試験出題基準	《専門》Ⅱ-7-D 《専門》Ⅲ-6-D	
履修条件・履修上	演習を行うの動きやすい服装で受講すること	

講義科目名称：理学療法特殊講義

授業コード：2P103

英文科目名称：Special Lecture of Physical Therapy

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
木村 朗	鈴木 学	岡崎 大資	

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 ベッドサイドの理学療法の歴史と疫学 意義 救急救命直後から外科手術後の反応、種脳機能障害歴別対応疫学を講義する。2 ICU、ベッドサイドの理学療法の実際と覚えるべき基礎知識の枠組みを示す。 木村</p> <p>第2回 ベッドサイドの理学療法に必要な生体反応の知識 救急救命直後から外科手術後の生体尿術の生体反応のうち、理学療法士が遭遇する頻度の高いものについて解説する。ガウンテクニックと感染予防についても概説する。 木村</p> <p>第3回 身体不活動の評価1 長期臥床状態の人における身体活動量の評価方法のフレームワークを学ぶ</p> <p>第4回 身体不活動の評価2 長時間坐位状態の人における身体活動量の評価方法の実際を経験する。</p> <p>第5回 基本的移動能力に影響を及ぼす高次脳機能の鑑別検査・対応 1 意識レベルから、高次脳機能の反応について ベッドサイドから脱した高次脳機能障害を持つ患者の評価法を学ぶ</p> <p>第6回 基本的移動能力に影響を及ぼす高次脳機能の鑑別検査・対応 2 ベッドサイドから脱した高次脳機能障害を持つ患者の評価法を学ぶ</p> <p>第7回 行動科学的視点から高次脳機能障害患者への理学療法士の対応を考える 1 行動科学的視点から高次脳機能障害患者への理学療法士の対応を考える 行動観察 1</p> <p>第8回 行動科学的視点から高次脳機能障害患者への理学療法士の対応を考える 2 現在 行動科学的視点から高次脳機能障害患者への理学療法士の対応を考える 行動変容を巡る論争など 岡崎 木村</p>	<p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>鈴木</p> <p>鈴木</p> <p>岡崎</p> <p>岡崎</p> <p>岡崎</p>
科目の目的	<p>1. 生活ケアの場合に必要な、健康リテラシーを理学療法士学生として身につけること。 2. 理学療法の主たる対象疾患である脳血管障害における錐体路の機能破綻による運動機能の低下に加え、高次脳機能の障害による行為の遂行困難な状況への対処が求められる。このような病態にありながら、在宅における生活を支援することが今日求められていることを理解する。 3. 高次脳機能障害と急性期医療における理学療法法の適応を必要とするリハビリテーションについて、臨床的・あるいは新しいトピックスを交えながら概説し、その全容を理解することを目的とする。 4. 学位授与の方針に合う、チーム医療を実践するための、コミュニケーション能力を身につけるようになる。 DPに則った目的は保健医療分野の諸課題を見出し科学的洞察による的確判断ができる事。</p>	
到達目標	<p>学生は健康リテラシーの定義が言えるようになること。 学生は理学療法に関連する高次脳機能について、局所と症候を中心に説明できるようになること。 学生は理学療法に関連する高次脳機能障害について、評価の内容を説明できるようになること。 学生は理学療法に関連する高次脳機能障害について、基本的な治療戦略が説明できるようになること。 学生は行動科学にもとづく患者教育について、説明できるようになること。</p>	
関連科目	臨床神経学、神経系理学療法評価・治療学、医療概論、臨床医学特殊講義、内科学、各系理学療法評価・治療学	
成績評価方法・基準	筆記試験（80％）・授業課題レポート（20％）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	脳の解剖、臨床神経学、神経系理学療法評価学・治療学の復習、心電図の復習。90分	
教科書・参考書	特になし 授業時用いたPPT（ホームページからDL）：木村	
オフィス・アワー	火or水12:10～12:50(木村研究室)	
国家試験出題基準	<p>専門基礎： 2 理学療法評価学 （3心身機能 H高次脳機能 d 認知、行為、コミュニケーション e 遂行機能、前頭葉機能） （7疾患、障害 （K認知障害 a認知症 b 高次脳機能障害） III-1-B-C</p>	
履修条件・履修上の注意	特になし	

講義科目名称：物理療法学

授業コード：2P104

英文科目名称：Physical Agents

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
黒川 望	目黒 力	岡崎 大資	松澤 正

授業形態	講義9回、実習6回		担当者
授業計画	第1回	総論 物理療法の定義、位置付け、物理療法の原理、分類	黒川 望
	第2回	各論 マッサージⅠ（定義、生理学的作用、基本手技）	松澤 正
	第3回	実習 マッサージⅡ（身体各部の手技の実際）	松澤 正
	第4回	各論 温熱療法Ⅰ（定義、熱力学、生理学的作用）	黒川 望
	第5回	各論 温熱療法Ⅱ（温熱療法の実際）	黒川 望
	第6回	各論 寒冷療法（定義、分類、生理学的作用、寒冷療法の実際）	黒川 望
	第7回	各論 水治療法（定義、水の物理的特性、生理学的作用、治療の実際）	黒川 望
	第8回	各論 高周波療法（定義、原理、生理学的作用、治療の実際）	黒川 望
	第9回	各論 超音波療法（定義、原理、生理学的作用、治療の実際）	黒川 望
	第10回	実習ガイダンス	目黒、岡崎、黒川
	第11回	実習1	目黒、岡崎、黒川
	第12回	実習2	目黒、岡崎、黒川
	第13回	実習3	目黒、岡崎、黒川
	第14回	実習4	目黒、岡崎、黒川
	第15回	実習5	目黒、岡崎、黒川
科目の目的	物理療法学は、運動療法学と共に、理学療法の中で車の両輪をなすもので、その治療法を理解することは、疾病治療を進める上で欠かせないものである。本科目では物理療法の治療根拠と実際を学習する。物理療法の前半として、物理療法の総論と、マッサージ、温熱療法、寒冷療法、水治療法、高周波療法、超音波療法等について、その定義、分類、原理、生理学的作用、適応、禁忌、実際について、基本的事項の習得を目的とする。 【知識・理解】、【技能・表現】		
到達目標	1. 臨床実習において実施可能になることを念頭に、物理療法の治療にあたり、その治療根拠を理解し、各種疾患に対し適切な治療ができる。 2. グループワークの中で、自分の役割を果たすことができる。		
関連科目	生理学 運動学 内科学 整形外科学 基礎理学療法学		
成績評価方法・基準	筆記試験（50%）、実習レポート（50%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教科書ならびに実習書の該当部分を熟読した上で参加すること。 （予習・復習：1時間程度）		
教科書・参考書	【教科書】松澤正、江口勝彦・監修：物理療法学 改訂第2版。金原出版株式会社、2012。 【参考書】群馬バース大学保健科学部理学療法学科・編：改訂版 詳説 物理療法学実習。		
オフィス・アワー	講義日の昼休み		
国家試験出題基準	《専門》－Ⅲ－2－B－a, c, e, f, h		
履修条件・履修上	実習においては、動ける服装で参加すること。		

講義科目名称：物理療法学演習

授業コード：2P105

英文科目名称：Practice in Physical Agents

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
目黒 力	黒川望	岡崎大資	

授業形態	講義9回 実習6回	担当者
授業計画	第1回 電気生理学的基礎 電気生理学の基礎を学ぶ 第2回 電気刺激療法 低周波刺激療法やTENSについて学ぶ 第3回 電気刺激療法 干渉波、SSP療法など他の電気刺激療法について学ぶ 第4回 光線療法 赤外線療法について学ぶ 第5回 光線療法 紫外線療法について学ぶ 第6回 超音波療法 超音波療法について学ぶ 第7回 牽引療法 電動間歇牽引について学ぶ 第8回 その他 その他最新の物理療法について学ぶ 第9回 実習ガイダンス 実習における心構え、レポートの書き方、注意事項について学ぶ 第10回 実習1 講義で学んだ事を班に分かれ実習を行う 第11回 実習2 講義で学んだ事を班に分かれ実習を行う 第12回 実習3 講義で学んだ事を班に分かれ実習を行う 第13回 実習4 講義で学んだ事を班に分かれ実習を行う 第14回 実習5 講義で学んだ事を班に分かれ実習を行う 第15回 実習6 講義で学んだ事を班に分かれ実習を行う	黒川 黒川 黒川 黒川 黒川 黒川 黒川 黒川 黒川 目黒 目黒 目黒 目黒 目黒 目黒 目黒
科目の目的	物理療法は、運動療法と共に、理学療法の中で車の両輪をなすもので、その治療法を理解することは、疾病治療を進める上で欠かせないものであり、物理療法の治療根拠と実際を学習する。物理療法の後半部分で、温熱療法、水治療法、光線療法等について、その定義、分類、原理、生理学的作用、適応、禁忌、実際について基本的事項を習得させることを目的とする。【技能・表現】	
到達目標	臨床実習において物理療法の治療に当り、その治療根拠を理解し、各種疾患に対し、適切な治療ができるようにすることを目標とする。なお、グループワークの中で、自分の果たす役割ができるようにすることを目指す。	
関連科目	生理学 運動学 内科学 整形外科学 基礎理学療法学	
成績評価方法・基準	筆記試験（50％）実習課題（50％）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に教科書ならびに実習書、実習要項を熟読の上参加すること。（15）	
教科書・参考書	教科書：「物理療法学」 金原出版 参考書：「物理療法学実習書」 群馬パース大学編	
オフィス・アワー	講義日12：00～13：00	
国家試験出題基準	Ⅲ-2-B	
履修条件・履修上の注意	教科書・実習書を熟読の上講義に臨むこと	

講義科目名称：装具学

授業コード：2P106

英文科目名称：Orthotics

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
橋口 優			

授業形態	講義（20回）、実技演習（10回）		担当者
授業計画	第1・2回	装具学総論① 装具の意義・目的	橋口優
	第3回	装具学総論② 装具の関わる運動学	橋口優
	第4回	装具学総論③ 運動学的背景に基づく装具の役割	橋口優
	第5・6回	短下肢装具 短下肢装具の役割と適応	橋口優
	第7・8回	長下肢装具 長下肢装具の役割と適応	橋口優
	第9・10回	足底板・その他の下肢装具（橋口優） 足底板を含むその他の下肢装具の役割と適応	橋口優
	第11・12回	上肢装具 上肢装具の役割と適応	橋口優
	第13・14回	体幹装具 体幹装具の役割と適応	橋口優
	第15・16回	最新の装具 現状の臨床現場で利用されている最新の装具について	橋口優
	第17・18回	疾患別の装具の適応① 中枢神経系理学療法における装具	橋口優
	第19・20回	疾患別の装具の適応② 運動器系理学療法・内部障害系理学療法における装具	橋口優
	第21-30回	足底板製作演習 硬質スポンジEVAを用いて、自分自身に合わせた「内側縦アーチサポート、中足骨サポート付き外側楔足底板」を製作する。	橋口優
科目の目的	運動学的背景を基に装具の役割を理解する。 それぞれの装具の適応を理解し、必要に応じた装具の選択ができる。 理学療法介入において必要となる装具の選択に関する知識と装具作成の技術を習得する。 【思考・判断】装具学分野における諸課題を見出し、科学的洞察による的確な判断ができる。		
到達目標	運動学・解剖学の知識を背景に、装具の役割を理解する。 臨床場面での使用例とその背景を理解し、装具の選択や適応判定が出来るようになることを目標とする。 後半には、演習として足底板の作成を行い、各自で目的に応じた作成が出来ることを目標とする。		
関連科目	解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、運動学Ⅰ、運動学Ⅱ、運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、小児理学療法学		
成績評価方法・基準	1) 筆記試験(70%) 2) 講義内での小テスト(10%) 3) 実技演習の成果(20%)		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	第1-16講：運動学の復習（毎回60分程度） 第5-10講：下肢の解剖学（毎回30分程度） 第11-14講：脊柱・上肢の解剖学（毎回30分程度） 第17-18講：運動器系理学療法評価・治療学の復習（毎回60分程度） 第19-20講：神経系理学療法評価・治療学の復習（毎回60分程度） 第21-30講：作成の進行に合わせて、作業を進める（毎回30分程度）		
教科書・参考書	教科書： 整形外科医学会、日本リハビリテーション医学会監修：義肢装具のチェックポイント、医学書院		
オフィス・アワー	木曜日9:00-10:30		
国家試験出題基準	《専門》-Ⅱ-6-A-bcdef 《専門》-Ⅲ-2-C-abcdef		
履修条件・履修上の注意	後半（第19講～第30講）に実技を行うため、動きやすく汚れても良い服装を準備すること		

講義科目名称：義肢学

授業コード：2P107

英文科目名称：Prosthesis

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
平井 正利			

授業形態	講義11コマ	実技4コマ	担当者
授業計画	第1回	義肢総論 概論	平井 正利
	第2回	義肢総論 足継手	平井 正利
	第3回	義肢総論 膝継手	平井 正利
	第4回	下腿義足 PTB・PTS・KBM・TSB ソケット	平井 正利
	第5回	下腿義足 アライメント・適合・異常歩行	平井 正利
	第6回	大腿義足 四辺形・IRC ソケット	平井 正利
	第7回	大腿義足 アライメント・適合・異常歩行	平井 正利
	第8回	サイム・股義足・義手 概論	平井 正利
	第9回	下腿義足 疑似体験実習	平井 正利
	第10回	下腿義足 組み立て実習	平井 正利
	第11回	大腿義足 組み立て実習	平井 正利
	第12回	大腿義足 組み立て実習	平井 正利
	第13回	国家試験対策 過去の試験問題を理解する	平井 正利
	第14回	国家試験対策 過去の試験問題を理解する	平井 正利
	第15回	国家試験対策 過去の試験問題を理解する	平井 正利
科目の目的	切断後のリハビリテーションにおいて義肢は重要です。各部位に用いるパーツは様々な種類があり、その選択次第で早期社会復帰やQOL向上に大きな影響を与えます。適合判断、異常歩行を見分け迅速かつ的確に対処する知識を得るのが本講義の目的です。また国家試験を見据えた基礎知識も試験形式で学習し、定期試験によって学習度を判断します。【思考・判断】		
到達目標	症例に合った義肢の適応判断、適合判定が行える。知識的には国家試験レベルを最低ラインとします。		
関連科目	解剖学，生理学，運動学，運動生理学，整形外科学，理学療法評価学，運動器系理学療法評価・治療学，神経系理学療法評価・治療学，装具学，環境理学療法学，スポーツ傷害理学療法学，他		
成績評価方法・基準	定期試験100%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	テキストは講義前に配布します。内容に目を通し、分からない用語などについては事前に調べておきましょう。30分程度		
教科書・参考書	教科書「義肢装具学テキスト」細田多穂（南江堂）		
オフィス・アワー	講義直後		
国家試験出題基準	≪専門≫-II-6-A-a, f ≪専門≫-III-2-C-abcdef		
履修条件・履修上の注意	講義資料は配布期間内に各自印刷もしくはPCにダウンロードして持参する。		

講義科目名称：徒手系理学療法学

授業コード：2P108

英文科目名称：Orthopedic Manipulative Physical Therapy

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
城下 貴司			

授業形態	15コマすべて講義と実技指導の双方を行う		担当者
授業計画	第1回	Manual Therapy Concept 概念	城下
	第2回	PNF 概念	城下
	第3回	Joint Mobilization Concept Thoracic vertebrae Lumbar vertebra	城下
	第4回	PNF実技 肩甲帯パターン(PNF)	城下
	第5回	Joint Mobilization Concept Shoulder	城下
	第6回	PNF実技 上肢パターン(PNF)	城下
	第7回	Joint Mobilization Concept Elbow Wrist	城下
	第8回	PNF実技 骨盤帯パターン(PNF)	城下
	第9回	Joint Mobilization Concept Hip joint	城下
	第10回	PNF実技 下肢パターン(PNF)	城下
	第11回	Joint Mobilization Concept Knee joint	城下
	第12回	PNF実技 両側性対称性(PNF)	城下
	第13回	Joint Mobilization Concept Foot Ankle	城下
	第14回	PNF実技 両側性対称性(PNF)	城下
	第15回	Joint Mobilization Concept PNF 復習	城下
科目の目的	<p>本科目は運動器系理学療法学の総まとめの授業となる。 運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅰ・Ⅱで学習した各疾患の概要、症状、リスク管理、合併症などの知識から具体的にどの様な理学療法が適応となるのかを実技を通して学ぶことを目的とする。 *ディプロマ・ポリシー：【技能・表現】</p>		
到達目標	<p>理学療法手技の治療原理と適用、その根拠が言える。 PNFの基本パターンが実施できる。適切な関節モビライゼーションを選択し実施できる。 総合臨床実習を望む前に疾患の特性と理学療法との関連性が習得できることを目的とする。</p>		
関連科目	解剖学、生理学、運動学、基礎理学療法学、運動器系理学療法評価・治療学、運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅰ、運動器系理学療法評価・治療学演習Ⅱ		
成績評価方法・基準	筆記試験：50%、実技試験：50%、欠席および遅刻は減点する		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1から2時間程度の予習は具体的に指定する。授業後も1時間程度の復習は必修となる。		
教科書・参考書	教科書：細田 多穂：理学療法ハンドブック第2 巻治療アプローチ 協同医書		
オフィス・アワー	水曜日：12：10～13：00		
国家試験出題基準	<p><専門> Ⅱ-7-A-abcdefghijkl, B-g, C-e, I, L-ab Ⅲ-1-B-abcdef, 3-F-abc, 6-A-abcdefghijkl, I, L, M, N-bc</p>		

履修条件・履修上の注意	実技の予習と復習は必修である 実技がある動きやすい服装で望むこと
-------------	-------------------------------------

国家試験出題基準	<専門> Ⅱ-7-A-abcdefghijkl, B-g, C-e, I, L-ab Ⅲ-1-B-abcdef, 3-F-abc, 6-A-abcdefghijkl, I, L, M, N-bc
履修条件・履修上の注意	運動器系理学療法学をよく復習しておくこと

講義科目名称：日常生活活動学

授業コード：2P110

英文科目名称：Activities of Daily Living

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
浅田 春美			

授業形態	講義（7コマ）・演習（8コマ）	担当者
授業計画	第1回 ガイダンス／ADLの概念と範囲 ADL, APDLなど言葉の定義, リハビリテーションにおける範囲について 生活機能からみたADLの位置づけ	浅田春美
	第2回 ADLの評価① ADL評価の目的・基準・尺度 ADL評価のポイント	浅田春美
	第3回 ADLの評価② 代表的なADL評価表について 課題提示：FIMについての課題説明<資料の作成> 第14回講義にて発表 FIM課題提示	浅田春美
	第4回 ADL評価の実際／セルフケアの構成要素① 演習：セルフケア（食事・排泄・入浴・更衣・整容）を細項目に分解する（G.W.） 細目動作を各関節の運動で表現し、表に記入する	浅田春美
	第5回 ADL評価の実際／セルフケアの構成要素② 演習：セルフケアの構成要素をグループごとに発表（デモンストレーションを交えて行う） 講義終了時、発表に使用した表をグループごとに1通提出	浅田春美
	第6回 基本動作① 基本動作の定義・意味／臥位・座位・立位姿勢	浅田春美
	第7回 基本動作② 演習：臥位から立位までの正常動作の流れ／介助が必要な場合の介助法	浅田春美
	第8回 移動補助具（杖・松葉杖・歩行器）① 演習：移動補助具の定義・種類・適応／杖の合わせ方・杖歩行 課題：T字杖歩行の指導用ハンドアウトの作成A4枚<患者さんまたは家族へ分かりやすく説明する> 次回の講義時提出／課題のフィードバックは、返却時個人および全体へ行う	浅田春美
	第9回 移動補助具（杖・松葉杖・歩行器）② 演習：松葉杖の合わせ方／松葉杖歩行／歩行器歩行 実技では患者さんへ松葉杖歩行を指導するよう、分かりやすい言葉を用いて行う	浅田春美
	第10回 移動補助具（車いす）① 車いすの基本構造と名称・種類・適応	浅田春美
	第11回 移動補助具（車いす）② 演習：車いすの合わせ方（身体計測）・車いすの検定	浅田春美
	第12回 複合動作練習① 車いす操作とシーティング	浅田春美
	第13回 複合動作練習② 演習：移動動作と介助法	浅田春美
	第14回 ADL評価：FIM課題発表会 演習：各グループによる発表<発表時に各項目ごとに説明を実施>	浅田春美
	第15回 リハビリテーション支援機器 移乗関連機器・自助具	浅田春美
科目の目的	日常生活活動（ADL）の概念とその範囲<起居・移動，食事，排泄，入浴，更衣，整容>・より広い日常生活関連動作、QOLなどの概念との関係を理解する。またADL動作の分析・評価方法、また患者さんや家族への練習・指導方法などについて学習する。さらに日常生活活動各動作の自立度の改善向上に有効な手段である歩行補助具、車いすなどの 使用法、適応などについて学ぶ。【思考・判断】	
到達目標	1. ADL・APDL・IADL・QOL の概念や範囲を説明できる。 2. 代表的なADL 評価法の目的と活用法について説明できる。 3. 基本動作を含むADL を運動学的にとらえ、模倣することができる。 4. 移動・移乗動作の指導・介助ができる。 5. 移動補助具の基本構造が説明でき、適合・指導することができる。	
関連科目	日常生活活動学演習、理学療法評価学、臨床動作分析学、生活環境学、環境理学療法学、地域理学療法学、地域理学療法学演習、運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、小児理学療法学、装具学、義肢学、評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ	
成績評価方法・基準	筆記試験（80%）、演習・課題への取り組みおよび提出（20%）	

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前にテキストを読み、疑問点について調べてくること <必要に応じて運動学の復習を行うこと> ・演習後のまとめ課題に取り組むこと ・授業後に実技練習を実施し、技術の向上に努めること <予習復習は概ね1時間程度必要とする>
教科書・参考書	<p>【教科書】1. 鶴見隆正, 隆島研吾編：標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学第5版, 医学書院, 2017</p> <p>2. 齋藤 宏他著：姿勢と動作 第3版, メヂカルフレンド社, 2014.</p> <p>3. 千野直一他：脳卒中の機能評価 SIASとFIM, 金原出版株式会社, 2014</p> <p>【参考書】1. Bengt Engstrom著, 高橋正樹他訳：からだにやさしい車椅子のすすめ, 三輪書店, 2007.</p> <p>2. 勝平純司他著：介助にいかすバイオメカニクス, 医学書院, 2011.</p> <p>3. 千住秀明監修：日常生活活動 (ADL) 第2版, 神陵文庫, 2008.</p>
オフィス・アワー	当該講義終了後
国家試験出題基準	<p>《専門》-I-3-0、P-a, b、Q-a</p> <p>《専門》-III-2-C-c, d 《専門》III-4-A-a、B、C-a, b, c, d, e, f, g、D-a, b 《専門》-III-5-A、C</p> <p>《専門》-IV-1-I-a, b</p>
履修条件・履修上の注意	実技演習の場合には、動きやすい服装で出席すること

講義科目名称：日常生活活動学演習

授業コード：2P111

英文科目名称：Practice in Activities of Daily Living

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
浅田 春美	中 徹	城下 貴司	

授業形態	講義（6コマ）・演習（9コマ）			担当者
授業計画	第1回	各障がい領域に対するADL指導／高齢者（老年期）のADL 【講義】 高齢者の特性（身体機能）とADLの特徴,ADL評価,ADL指導の実際		浅田春美
	第2回	各障がい領域に対するADL指導／脳卒中片麻痺のADL① 【講義】 片麻痺の機能障害,ADLの特徴,ADL評価		浅田春美
	第3回	各障がい領域に対するADL指導／脳卒中片麻痺のADL② 【演習】 片麻痺のADL指導の実際（セルフケア・基本動作）		浅田春美
	第4回	各障がい領域に対するADL指導／脳卒中片麻痺のADL③ 【演習】 片麻痺のADL指導の実際（基本動作・移動・移乗動作）		浅田春美
	第5回	各障がい領域に対するADL指導／パーキンソン病のADL 【演習】 パーキンソン病の機能障害,ADLの特徴,ADL評価,ADL指導の実際		浅田春美
	第6回	各障がい領域に対するADL指導／神経筋疾患のADL 【演習】 脊髄小脳変性症の機能障害,ADLの特徴,ADL評価,ADL指導の実際 筋萎縮性側索硬化症（ALS）の機能障害,ADLの特徴,ADL評価,ADL指導の実際		浅田春美
	第7回	病院におけるADL指導／在宅におけるADL指導 【講義】 ADL評価からADL指導の流れ		浅田春美
	第8回	行動分析手法を使ったADL指導 【講義】 効果を最大限に引き出すADL練習の具体的な方法を学習する		浅田春美
	第9回	各障がい領域に対するADL指導／脊髄損傷のADL指導① 【講義】 脊髄損傷の機能障害,ADLの特徴,ADL評価		城下貴司
	第10回	各障がい領域に対するADL指導／脊髄損傷のADL指導② 【演習】 脊髄損傷（四肢麻痺）のADL指導の実際（セルフケア・基本動作・移動・移乗動作）		城下貴司
	第11回	各障がい領域に対するADL指導／脊髄損傷のADL指導③ 【演習】 脊髄損傷（対麻痺）のADL指導の実際（セルフケア・基本動作・移動・移乗動作）		城下貴司
	第12回	各障がい領域に対するADL指導／関節リウマチのADL指導 【演習】 関節リウマチの機能障害,ADLの特徴,ADL評価,ADL指導の実際		城下貴司
	第13回	各障がい領域に対するADL指導／脳性まひのADL指導① 【講義】 脳性まひの機能障害,ADLの特徴,ADL評価		中 徹
	第14回	各障がい領域に対するADL指導／脳性まひのADL指導② 【演習】 脳性まひのADL指導の実際（セルフケア・基本動作・移動・移乗動作）		中 徹
	第15回	各障がい領域に対するADL指導／筋ジストロフィのADL指導① 【演習】 筋ジストロフィの機能障害,ADLの特徴,ADL評価,ADL指導の実際		中 徹
科目の目的	日常生活活動学で学んだセルフケアや基本動作について、疾患、障害別に分析・評価および練習・指導方法を学習する。 具体的には、中枢神経疾患、脊髄損傷、関節リウマチ、骨・関節疾患、神経難病＜パーキンソン病・筋萎縮性側索硬化症など＞の疾患特有の障害に対し、歩行補助具、車いす、自助具、コミュニケーション装置の使用方法を含めた日常生活へのアプローチ技術（介助方法・動作練習方法・動作指導方法など）を習得する。【技能・表現】			
到達目標	1. 各疾患・障がいの機能障害を想起し、そこから派生するADLの特徴を列挙できる 2. 各疾患・障がいに対してADL上の問題をICFに当てはめて記載することができる 3. 各疾患・障がいのADL上の問題に対して、その解決法を指導できる ＜方法の工夫：各動作の手順、必要な介助方法を演示し、分かりやすく説明できる＞ 4. 各疾患・障がいのADLに必要な自助具、福祉機器を選定できる			
関連科目	日常生活活動学、生活環境学、環境理学療法学、地域理学療法学、地域理学療法学演習、運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、小児理学療法学、運動器系理学療法評価・治療学演習、神経系理学療法評価・治療学演習、呼吸・循環・代謝系理学療法評価学演習、評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ			
成績評価方法・基準	筆記試験：浅田・城下担当範囲（80%）、課題提出：中担当範囲（20%）			
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> 各課題に取り組むにあたり最低限教科書を読み、必要に応じて参考書、文献などから情報を収集すること 授業後に該当する国家試験問題に取り組むこと 各疾患・障がいのADL上の問題をICFで整理する 各種ADL指導の実技練習では、講義終了後、十分に練習を実施すること 日常生活活動学で学んだ基本的なことは随時、復習をしておくこと ＜予習復習は概ね1時間程度必要とする＞ 			

教科書・参考書	<p>【教科書】1. 鶴見隆正, 隆島研吾編：標準理学療法学専門分野 日常生活活動学・生活環境学第5版, 医学書院, 2017</p> <p>2. 齋藤 宏他著：姿勢と動作 第3版, メヂカルフレンド社, 2014.</p> <p>【参考書】1. 伊藤利之他編：新版 日常生活活動(ADL), 医歯薬出版, 2010.</p> <p>2. 山崎裕司・山本淳一編：リハビリテーション効果を最大限に引き出すコツ, 三輪書店, 2010.</p> <p>3. 千住秀明監修：日常生活活動(ADL) 第2版, 神陵文庫, 2008.</p>
オフィス・アワー	中 徹 月曜日12:15~15:00 浅田 火・金曜日12:15~13:00
国家試験出題基準	<p>《専門》-I-3-0、P-a, b、Q-a</p> <p>《専門》-III-2-C-c, d 《専門》III-4-A-a、B、C-a, b, c, d, e, f, g、D-a, b 《専門》-III-5-A、C</p> <p>《専門》-IV-1-I-a, b</p>
履修条件・履修上の注意	実技演習を行うときには、動きやすい服装で出席すること

講義科目名称：地域理学療法学

授業コード：2P112

英文科目名称：Community Based Physical Therapy

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
岡崎 大資			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 概論1 講義の概要・オリエンテーション、地域リハビリテーション・地域理学療法の歴史・定義 第2回 総論1 地域包括ケアシステムについて 第3回 総論2 介護保険制度：導入の社会的背景と概要 第4回 総論3 介護保険制度：サービス利用の仕組み 第5回 総論4 介護保険制度：介護保険の財源構成 第6回 各論1 介護保険制度：要介護認定の仕組み 第7回 各論2 介護保険制度：居宅サービス 第8回 各論3 介護保険制度：施設サービス 第9回 各論4 介護保険制度：地域密着型サービス 第10回 各論5 介護保険制度：介護保険施設における理学療法士の資質と役割 第11回 各論6 日本における高齢者の実態 第12回 各論7 高齢者に対する基礎的な理学療法評価1 第13回 各論8 高齢者に対する基礎的な理学療法評価2（演習） 第14回 各論9 高齢者に対する基礎的な理学療法1 第15回 各論10 高齢者に対する基礎的な理学療法2	岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎
科目の目的	地域リハビリテーションおよび地域理学療法の目的、位置づけ、現況等を概説するとともに、通所・入所施設および在宅で生活をする障害者・高齢者を対象に理学療法を提供する際に必要な知識・技術を修得する。 【知識・理解】	
到達目標	地域リハビリテーション、地域理学療法の概念および定義等を理解する。地域包括ケアシステムの概念および定義等を理解する。介護保険制度の実態や概念を通して、1. 地域理学療法の機能、2. 通所、入所施設、在宅での理学療法の目的と実践方法、3. 介護保険の仕組み、4. 理学療法士の役割およびそのための知識・技術、を理解・習得する。高齢者に対する理学療法評価の知識・技術を習得する。	
関連科目	日常生活活動学、日常生活活動学演習、地域理学療法学演習、生活環境学、環境理学療法学、運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、小児理学療法学、運動器系理学療法評価・治療学演習、神経系理学療法評価・治療学演習、呼吸・循環・代謝系理学療法評価学演習、見学実習、評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ	
成績評価方法・基準	定期テスト（90%）、課題（10%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前回の講義の内容を復習し、次回の講義との関連性を事前に理解して講義に臨むこと。必要な学習時間の目安は上記を果たすことができる時間を各自設定すること。	
教科書・参考書	教科書： 「標準理学療法学専門分野地域理学療法学第3版」牧田光代・金谷さとみ編（医学書院） 「運動療法学各論高齢者の機能障害に対する運動療法」市橋則明編（文光堂） 参考書： 特に指定しない。地域理学療法学に関する書籍全般。	

オフィス・アワー	講義日の昼休み
国家試験出題基準	≪専門≫Ⅱ-8-A ≪専門≫Ⅱ-8-B ≪専門≫Ⅲ-5-A ≪専門≫Ⅲ-5-B-a~d ≪専門≫Ⅲ-7-A ≪専門≫Ⅲ-7-B ≪専門≫Ⅳ-1-A-a~b ≪専門≫Ⅳ-1-B-a~g ≪専門≫Ⅳ-1-C-a~c ≪専門≫Ⅳ-1-D-a~g ≪専門≫Ⅳ-1-E ≪専門≫Ⅳ-1-F-a~c ≪専門≫Ⅳ-1-H-a~e ≪専門≫Ⅳ-1-I-a~b ≪専門≫Ⅳ-2-A-a~j ≪専門≫Ⅳ-2-B-a~j ≪専門≫Ⅳ-2-C-a~j ≪専門≫Ⅳ-2-D-a~j
履修条件・履修上の注意	演習時には評価（検査・測定）する・される服装を準備する。

講義科目名称：地域理学療法学演習

授業コード：2P113

英文科目名称：Practice in Community Based Physical Therapy

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
岡崎 大資			

授業形態	講義3回、学内演習8回、学外演習4回	担当者
授業計画	<p>第1回 講義1 講義の概要・オリエンテーション、地域包括ケアシステムについて</p> <p>第2回 講義2 介護予防事業における理学療法士の役割</p> <p>第3回 講義3 介護予防事業の実際</p> <p>第4回 演習（グループワーク）1 介護予防事業計画の立案 高齢者の身体的特徴の検討</p> <p>第5回 演習（グループワーク）2 介護予防事業計画の立案 高齢者の心理社会的特徴の検討</p> <p>第6回 演習（グループワーク）3 介護予防事業計画の立案 ロコモティブシンドローム、メタボリックシンドロームの検討</p> <p>第7回 演習（グループワーク）4 介護予防事業計画の立案 フレイルの検討</p> <p>第8回 演習（グループワーク）5 介護予防事業計画の立案 生活における行動マネジメントの検討</p> <p>第9回 演習（グループワーク）6 介護予防事業計画の立案 地域社会との連携の検討</p> <p>第10回 演習（グループワーク）7 介護予防事業計画の立案 自主グループ化に関する問題と展望の検討</p> <p>第11回 演習（発表会） 介護予防事業計画の発表</p> <p>第12回 学内演習1 介護予防事業の見学1</p> <p>第13回 学内演習2 介護予防事業の見学2</p> <p>第14回 学外演習1 福祉用具および住宅改修、義肢装具製作所等の見学1</p> <p>第15回 学外演習2 福祉用具および住宅改修、義肢装具製作所等の見学2</p>	岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎 岡崎
科目の目的	地域理学療法学で習得した内容を基礎として、それらを実践的に活用できる思考および技術を習得する。 【思考・判断】	
到達目標	介護予防に関する制度や概念を理解し、説明できる。介護予防事業における事業計画を立案できる。高齢者に対する理学療法評価、理学療法介入の知識・技術を習得する。	
関連科目	日常生活活動学、日常生活活動学演習、地域理学療法学、生活環境学、環境理学療法学、運動器系理学療法評価・治療学、神経系理学療法評価・治療学、呼吸・循環・代謝系理学療法評価・治療学、小児理学療法学、運動器系理学療法評価・治療学演習、神経系理学療法評価・治療学演習、呼吸・循環・代謝系理学療法評価学演習、見学実習、評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ	
成績評価方法・基準	グループワークの討議と実践（70%）、課題提出（30%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	「地域理学療法学」の内容を復習する。また、前回の講義の内容を復習し、次回の講義との関連性を事前に理解して講義に臨むこと。 必要な学習時間の目安は30分程度とする。	
教科書・参考書	教科書： 「標準理学療法学専門分野地域理学療法学第3版」牧田光代・金谷さとみ編（医学書院） 「運動療法学各論高齢者の機能障害に対する運動療法」市橋則明編（文光堂） 参考書： 特に指定しない。地域理学療法学に関する書籍全般。	
オフィス・アワー	講義日の昼休み	
国家試験出題基準	≪専門≫Ⅱ-8-A	

	≪専門≫Ⅱ-8-B ≪専門≫Ⅲ-5-A ≪専門≫Ⅲ-5-B-a~d ≪専門≫Ⅲ-7-A ≪専門≫Ⅲ-7-B ≪専門≫Ⅳ-1-A-a~b ≪専門≫Ⅳ-1-B-a~g ≪専門≫Ⅳ-1-C-a~c ≪専門≫Ⅳ-1-D-a~g ≪専門≫Ⅳ-1-E ≪専門≫Ⅳ-1-F-a~c ≪専門≫Ⅳ-1-H-a~e ≪専門≫Ⅳ-1-I-a~b ≪専門≫Ⅳ-2-A-a~j ≪専門≫Ⅳ-2-B-a~j ≪専門≫Ⅳ-2-C-a~j ≪専門≫Ⅳ-2-D-a~j
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：生活環境学

授業コード：2P114

英文科目名称：Human Life and Environment

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
目黒 力	佐藤 満		

授業形態	講義および実習（13コマ）ならびに学外演習（2コマ）		担当者
授業計画	第1回	生活環境学概要 生活環境学とはなにか、理学療法士が何故に学ばなければならないかを学ぶ	目黒
	第2回	生活環境と人（近代の発展と日本） 近代史から我が国の発展をたどり、日本人の生活と環境の変遷を考える	目黒
	第3回	都市と環境 高齢者・障害者における都市環境と交通の概要について学ぶ	目黒
	第4回	移動制約者と交通 移動制約者における交通を学ぶ上で、交通とはなにかを考える	目黒
	第5回	交通調査と都市による特性と移動制約者 都市・交通特性とその調査結果から移動制約者における諸問題を考える	目黒
	第6回	歩行速度と歩行者交通流 交通工学的観点から、移動制約者における歩行をマクロ的視点から検討する	目黒
	第7回	福祉のまちづくりならびに地域公共交通 移動制約者における福祉のまちづくりと地域公共交通について課題を検討する	目黒
	第8回	福祉用具概論 福祉用具とその範囲・選択・適合について学ぶ	佐藤
	第9回	福祉用具の具体的事例（コミュニケーション） コミュニケーション障害における福祉用具の実際について学習する	佐藤
	第10回	福祉用具の具体的事例（移動） 車いすや義肢装具の現状と課題について学ぶ	佐藤
	第11回	福祉機器のこれから 先進的な福祉機器の事例や今後開発がよそうされる福祉機器について学ぶ	佐藤
	第12回	高齢者・障害者体験とまちめぐり1 大学周辺の道路交通環境について実際に調査してみる	目黒
	第13回	高齢者・障害者体験とまちめぐり2 大学周辺の道路交通環境と移動制約者の障害について検討する	目黒
	第14回	まちめぐり発表会 実際の調査から学んだ事感じた事を発表する	目黒
	第15回	まちめぐり発表会 その発表を通して解決策と理学療法士の役割について検討する	目黒
科目の目的	生活環境学では、日本国憲法第25条に定められた生存権を基本概念として、高齢者や障害者がよりよい生活を営むことができるように、理学療法として高齢者・障害者を取り巻く、物理的環境、経済的環境、制度的環境、人的環境に関する調整を行うために必要な知識の整理とその方法論について学び、生活環境学の考え方について理解することを学習目標とする。【思考・判断】		
到達目標	1. 高齢者・障害者を取り巻く4つの環境について説明できる。 2. 「まち」における物理的環境の制約要因について説明できる。 3. 福祉機器の種類や適応を理解することができる。 4. 高齢者・障害者を取り巻く経済制度、法制度について理解できる。		
関連科目	日常生活活動学・日常生活活動学演習・地域理学療法学・地域理学療法学実習・環境理学療法学リハビリテーション工学		
成績評価方法・基準	定期試験（80%）課題（10%）発表会（10%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	専門用語などについて事前に調べておくことが望ましい(15)		
教科書・参考書	教科書：「共生のユニバーサルデザイン」学芸出版社 参考書：「生活環境論」 医歯薬出版		
オフィス・アワー	講義日12：00～13：00		
国家試験出題基準	IV-1-G IV-1-H IV-1-I		

履修条件・履修上の注意	発表会を行う予定である
-------------	-------------

講義科目名称：環境理学療法学

授業コード：2P115

英文科目名称：Physical Therapy in Human Life and Environment

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
単位認定者	担当者		
目黒 力	中村 大介		

授業形態	講義15回	担当者
授業計画	第1回 住環境整備総論 理学療法士が住環境整備に進むにあたってその基本的事項について整理する。 第2回 日本人と住居（古代～中世） 支配階級の住居を発展をたどる事で、日本人と住居の関連性を探る 第3回 日本人と住居（近代） 直接的系譜である近代の住宅、現在の日本人の住宅とその諸問題について学ぶ 第4回 相談援助の実践的進め方 住環境整備に関わる様々な分野の人々の連携について学ぶ 第5回 福祉住環境整備の進め方 福祉住環境整備相談の流れと留意点について学ぶ 第6回 福祉住環境整備の基本技術 段差解消やスペースの配慮についてその基本的技術を学ぶ 第7回 生活行為別福祉環境整備の手法 部屋や場所毎の適切な整備についてその具体的手法について学ぶ 第8回 Computer Aided Design演習 CADを用いて行う住宅設計について学ぶ 第9回 Computer Aided Design演習 CADを用いて行う住宅設計とその手法について学ぶ 第10回 私が考えるバリアフリー住宅-検討- 実際に学んだバリアフリー住宅をグループで検討する 第11回 私が考えるバリアフリー住宅-発表- そのバリアフリー住宅についてプレゼンテーションと検討を加える 第12回 住宅改修の進め方1 事例改修の基づいた住宅改修の進め方について学ぶ 第13回 住宅改修の進め方2 事例改修の基づいた住宅改修のその具体的進め方について学ぶ 第14回 住宅改修の進め方3 実際に住宅改修をすすめるシミュレーションをすすめる 第15回 住宅改修の進め方4 シミュレーションに基づいたものを発表し検討する	目黒 目黒 目黒 目黒 目黒 目黒 目黒 目黒 目黒 目黒 目黒 目黒 中村 中村 中村 中村
科目の目的	環境理学療法学では、生活環境学から引き続き、住環境へのアプローチについて理学療法の分野からの関わりについて学習することを目標とする。【技能・表現】	
到達目標	1. 日本における住環境を理解し、ハウスアダプテーションの概念を理解することができる。 2. CADを使って簡単な設計図面を描くことができる。 3. 実際の場面に即した簡単な福祉機器を製作することができる。	
関連科目	日常生活活動学・日常生活活動学演習・地域理学療法学・地域理学療法学実習・生活環境学リハビリテーション工学	
成績評価方法・基準	定期試験（80％）レポート（10％）発表会（10％）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前にテキストなどを予習しておくことが望ましい（15）	
教科書・参考書	教科書：やさしく学ぶJw_cad 8 教科書：福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト	
オフィス・アワー	講義日12：00～13：00	
国家試験出題基準	IV-1-G IV-1-H IV-1-I	
履修条件・履修上の注意	発表会を行う予定である	

講義科目名称：見学実習

授業コード：2P116

英文科目名称：Clinical Clerkship

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
単位認定者	担当者		
浅田 春美	鈴木学 鳥海亮	橋口優	北村達夫

授業形態	講義（1コマ）、事前学内実習（OSCE1コマ）、学外演習（1週間）、実習後発表（1コマ）		担当者
授業計画	1 2 3 4	実習前準備（講義、OSCE） 見学実習に関する情報収集、実技確認等 オリエンテーション 見学実習の実習目的・実習内容等の説明、自己の目標設定 見学実習 病院等学外実習施設における見学実習（臨床実習） 実習後報告会 見学実習で学んできたことについての報告会、自己目標に対するフィードバック	鈴木、浅田、橋口、北村、鳥海 鈴木、浅田、橋口、北村、鳥海 （学外指導者） 鈴木、浅田、橋口、北村、鳥海
科目の目的	病院・施設等における理学療法の臨床場面の見学を通し、社会人・専門職としての基本的態度を養い、また、見学施設での理学療法士の役割、理学療法業務、リハビリテーションの中での理学療法士の位置づけを理解することを目的とする。 3年次での評価学実習、4年次の総合臨床実習Ⅰ・Ⅱに向けての導入・準備のための実習と位置づける。 【知識・理解】【思考・判断】【技能・表現】【関心・意欲】【態度】		
到達目標	1. 社会人・専門職としての基本的態度を身につける。 2. 見学施設における理学療法士所属部署の位置づけ、他職種との関連を理解する。 3. 見学施設における理学療法の対象を理解する。 4. 見学施設における理学療法業務を理解する。		
関連科目	2年次までの履修科目全般。評価学実習、総合臨床実習Ⅰ、総合臨床実習Ⅱ		
成績評価方法・基準	実習前準備の成績、臨床実習での成績、実習後報告会の成績を総合して評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	医療面接、理学療法評価（バイタルチェック、形態計測、関節可動域測定）、移乗動作介助の復習		
教科書・参考書	教科書：なし 参考書：岡田慎一郎他：理学療法臨床実習サポートブック，医学書院，2015		
オフィス・アワー	学外実習のため特に設定せず。電話にてフォローアップ。		
国家試験出題基準	《専門》-V-1-A, B, C, D, E, F		
履修条件・履修上の注意	当該科目前に開講されている全必須科目を履修していること。		

講義科目名称：評価学実習

授業コード：2P117

英文科目名称：Bedside Evaluation Praciticum

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	3単位	必修
単位認定者	担当者		
橋口 優	学科の全教員が関わる		

授業形態	学外実習	担当者
授業計画	<p>1コマ 実習前学習 実習の目的、学習到達度、成績評価方法、実習スケジュール、実習方法などについて、臨床実習指導者の紹介・打ち合わせ</p> <p>2コマ 実習前OSCE（実技） 実習前演習</p> <p>3週間 病院、施設での実習 病院、施設の実習指導者による指導</p> <p>2.5時間 実習訪問での実習指導者との意見交換 各医療機関へ専任教員が訪問し、実習の経過・進捗の確認、その他臨床実習指導者との打ち合わせなどを実施</p> <p>2.5時間 実習訪問での学生指導 各教員6ヶ所訪問し、1ヶ所2.5時間の学生指導の実施</p> <p>2.5時間 実習訪問での実習指導者との意見交換と学生指導 学生への個別指導</p> <p>2.5時間 実習訪問での実習指導者との意見交換と学生指導 学生への個別指導</p> <p>2.5時間 実習訪問での実習指導者との意見交換と学生指導 学生への個別指導</p> <p>2.5時間 実習訪問での実習指導者との意見交換と学生指導 学生への個別指導</p> <p>2コマ 評価実習症例報告会 評価実習で経験した症例の中から、1例を選択して発表</p>	<p>学科実習委員</p> <p>担当プロパー教員</p> <p>学外の実習指導者</p> <p>プロパー教員全員</p> <p>担当プロパー教員</p> <p>担当プロパー教員</p> <p>担当プロパー教員</p> <p>担当プロパー教員</p> <p>担当プロパー教員</p> <p>プロパー教員全員</p>
科目の目的	<p>病院・施設等の実習指導者の指導のもとに、既習の知識を総動員し患者の臨床的問題を解決するための情報収集、理学療法評価、理学療法診断、問題点抽出、目標設定ができるようになる。</p> <p>【知識・理解】理学療法士としての基礎的知識と、社会人としての教養を身につける。</p> <p>【思考・判断】理学療法分野の諸課題を見出し、科学的洞察による的確な判断力を身につける。</p> <p>【技能・表現】先進・高度化する専門分野の基本的技術を身につけ、チーム医療を実践するためのコミュニケーション能力を身につける。</p> <p>【関心・意欲】専門分野を探究する意欲を持つとともに、人と社会に深い関心を持つ</p> <p>【態度】人権を尊重し、高い倫理観をもって社会に貢献する姿勢を身につける。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会人・専門職としての基本的態度を身につける。 2. 理学療法を実施するのに必要な患者の情報を収集することができる。 3. 患者の疾患、障害に即した検査・測定を選択、実施することができる。 4. 情報収集、検査・測定の結果から理学療法における問題点の抽出ができる。 5. 理学療法における目標設定ができる。 	
関連科目	全科目	
成績評価方法・基準	実習前OSCE（20%）、総合臨床実習指導報告書・レポート等課題および学内報告会（80%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	これまで学習してきた知識と技術の全てを実習開始までに復習すること。 必要な学習時間の目安は上記を果たすことができる時間を各自設定すること。	
教科書・参考書	教科書：使用しない 参考書：特になし	
オフィス・アワー	学外実習のため特に設定せず、訪問時に対応	
国家試験出題基準	<p>≪専門≫V-2-A-a</p> <p>≪専門≫V-2-B-a～d</p>	
履修条件・履修上の注意	3年前期までに開講された必修科目の単位を認定されていない者は履修できない。	

講義科目名称：総合臨床実習 I

授業コード：2P118

英文科目名称：Comprehensive Clinical Practicum I

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	7単位	必修
単位認定者	担当者		
鈴木 学			

授業形態	実習	担当者
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書・参考書		
オフィス・アワー		
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称：総合臨床実習Ⅱ

授業コード：2P119

英文科目名称：Comprehensive Clinical Practicum II

対象カリキュラム：29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	7単位	必修
単位認定者	担当者		
鈴木 学			

授業形態	実習	担当者
授業計画	※今年度開講せず（29年度カリキュラム）	
科目の目的		
到達目標		
関連科目		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書・参考書		
オフィス・アワー		
国家試験出題基準		
履修条件・履修上の注意		